建築と社会

Architecture and Society

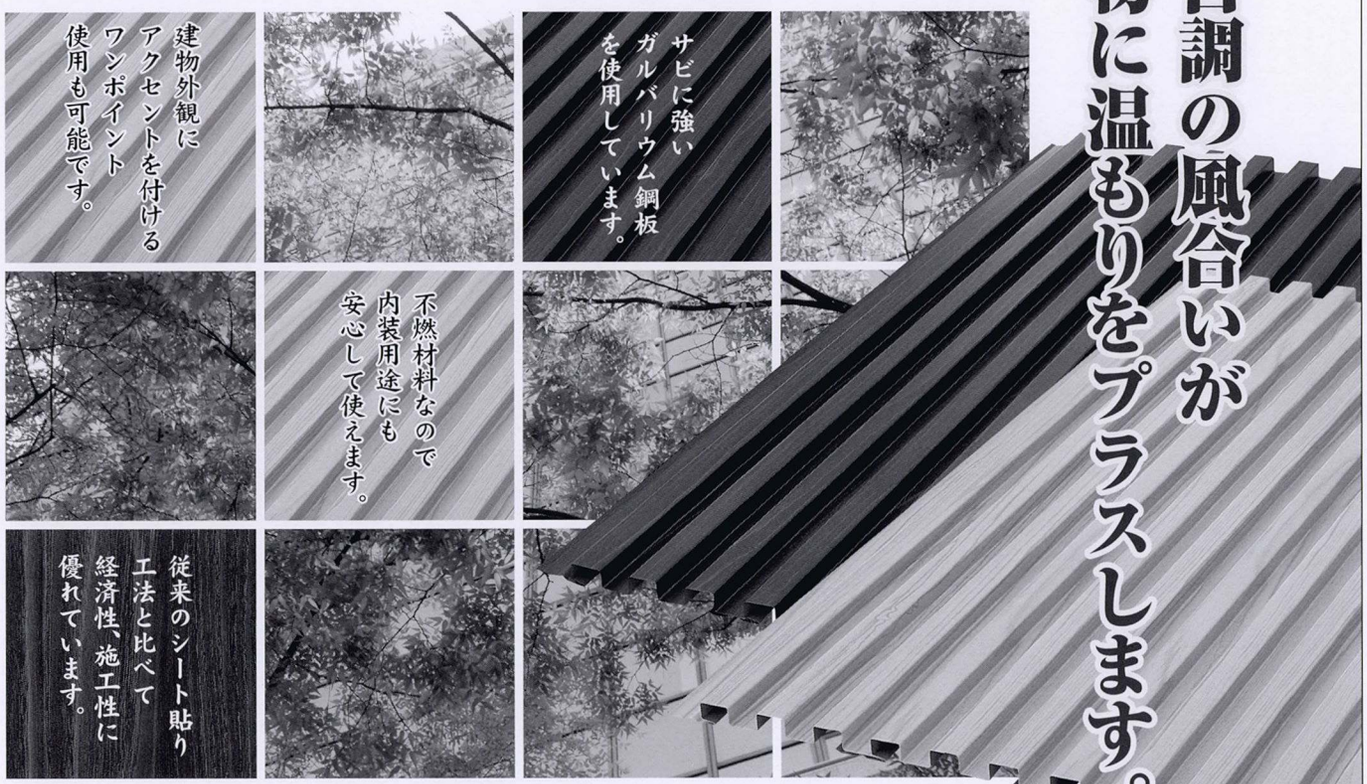
2007
No.1021
日本建築協会
04

この10年、これからの10年



YODOKO

木目調の風合いが建物に温もりをプラスします。



高級化粧鋼板製スパンドレル

ヨドスパン メタルウッド

全28種の豊富な色柄

国土交通大臣認定不燃材料 NM-8697

●標準色


コロラドチーク柄 ブラウン


コロラドチーク柄 ブラックシルバー

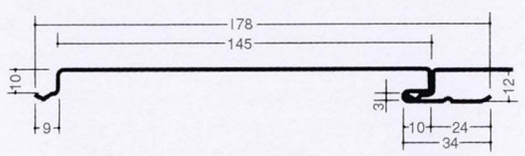

コア柾柄 ブラウン


チーク柾目柄 ライトブラウン


レガートオーク柄 ダークブラウン

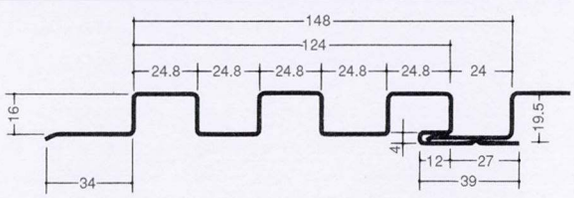

チーク乱れ柾柄 ライト

1F型目地ナシ 働き巾145mm



●広告塔など文字書き性能を高めたタイプです。

1K型 働き巾148mm



●鋭い角波が現代的感覚によりマッチするタイプです。

スチール! & アイデア!
淀川製鋼
本　　社　大阪市中央区南本町4丁目1番1号　〒541-0054　☎(06)6245-1256
東京統括営業所　東京都中央区新富1丁目3番7号　〒104-0041　☎(03)3551-7941
http://www.yodoko.co.jp

総会議決お知らせ

平成19年2月28日開催の平成18年度第2回通常総会において、下記議案が原案どおり承認されましたので、報告します。

1.平成19年度事業計画
2.平成19年度収支予算

1. 平成19年度事業計画

1. 平成18年度の事業概況

平成18年度は、前年度の事業を継続しながら、重点事業である「日本建築協会創立90周年」事業を実施した。加えて、日本建築協会賞の募集と審査、公募型コンペの開催など、前年度にはない企画を推進した年度でもあった。財政的には、依然として会員数の減少傾向があり、厳しいコスト節減に留意した運営となった。「建築と社会」の発刊について合理化を図るなど、長期的に会の運営を安定化させるための努力を重ねた。

一方で、＜日本建築協会の将来のありかた＞について、常任理事会メンバーを中心に「協会のありかた検討会議」を設置し、議論を行った。会告を通して、会員からの幅広い意見を募集し、それらを含めて協会としては、更なる事業の活性化に取り組むこととした。

2. 平成19年度の活動方針

平成18年度に議論を開始した＜日本建築協会の将来のありかた＞の方向性に基づき、会員のために資する事業、社会の発展に寄与する事業を拡大し推進する。

今年度は、各常設委員会が永年にわたり継続してきた主要事業について、明瞭な達成目標のもとに確実に実施して、会員と社会の期待に応えてゆく。事業の中で重視し、具体的に取り組んでゆくのは、第１に、広く会員が参加できるものとすること。第２に、次世代を担う若い専門家のニーズに沿い、人材育成の観点を持った内容とすること。第３に、他団体と交流・提携しながら事業を充実すること。第４に、これまで本会の事業が社会に果たしてきた役割に鑑みて、より一層発展させること。第５に、健全な財政に基づいた合理的・効率的な運営であること、以上の５点である。

平成19年度は、日本建築協会創立100周年までの10年の一歩を踏み出す年である。

これまでの事業の内容を充実するにとどまらず、主力とすべき事業の選択と創出について引き続き検証する年度とする。

3. 平成19年度活動計画

（１）出版委員会

当委員会では、街と建築に関する単行本「建築技術書」発行を企画し、新しい著者の発掘、出版、そしてその著者による講演会を行ってきた。

19年度は、101冊目発行を機会に、３冊の出版計画を進めてゆくとともに、出版意欲ある新しい著者を広く求める。

（２）教育委員会

①建築工事実務講習会の実施

昭和32年以降、毎年主として中堅クラスの建築技術者を対象に、実務講習会を実施。平成17年度までに延べ81回を数えている。

平成18年度は、本部・東海支部各１回の実施となったが、本部も東海支部同様に１日コースとすることにより、参加者数も増加し、収益性も向上した。（ただし、テキストの部分改訂増刷を実施）

平成19年度は、平成18年度と同様に年１回実施する。

②工高生デザインコンクールの実施

標記コンクールは、工高生の設計技能向上のため、昭和30年に創設、平成18年度で第52回を数えた。

平成18年度は参加校数37校、応募作品数131点に達したが、19年度も18年度同様に実施する。

③工高建築科優秀卒業生の表彰

優秀な建築科卒業生を表彰することにより、本人の研鑽意欲の向上を促し、また激励することを目的とし、昭和27年より実施してきた。

平成18年度は171校の申請があり、平成19年度もこれまで同様実施する。

（３）事業委員会

①情報見学小委員会

今日的なテーマによる催しを、年４回程度実施し、著名建築物や、茶室、近代建築等の見学会、並びに話題建築について、設計者・施工者等より話を聞く場を設ける。

平成18年度は、見学会は３回（うち１回は茶室見学会）開催するとともに、講演会については建築物の「耐震強度偽装問題に関連する講演会」（講師：巽和夫先生）を実施した。

若い会員の集い小委員会については、若い会員が既成概念に囚われない活動の場としてこれまで活動してきたが、この４年間具体的な活動はなかったため、当小委員会は、情報見学小委員会と統合することとし、意欲ある若い会員とともに活動できるよう改変を行った。

平成19年度は、18年度同様４回程度開催とし、新しい企画への取り組みを行う。

（４）編集委員会

①会誌「建築と社会」の発行

会誌「建築と社会」は、大正６年の創立以来、当協会活動の中心にあり続け、会員同士あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしてきたが、その重要な役割は現在も変わることがない。

平成19年は当協会創立90周年にあたるため、４月号を90周年記念号として発行する予定である。

会誌発行収支を改善するため、平成18年度には印刷や発送業務の集約一元化を試み、収支の好転を確認できた。平成19年度も引き続き、収支のなお一層の改善を模索するとともに、内容の充実を図るものとする。

また、平成19年度４月号からは、誌面の読みやすさ、およびページレイアウトの自由度向上を目指して、段組み変更を予定しているなど、90周年を機に、一新したイメージの「建築と社会」を発行する。

②青年技術者の顕彰

満35歳以下の青年技術者を対象とする青年技術者顕彰制度は、平成19年度で第54回を迎えるが、その長い歴史の中で関西建築界に優秀な人材を送り出してきた業績は多大である。

その意義を一層深めるため、平成17年度からは表彰式を行っているが、受賞者同士の交流の場として定着しつつあるとの認識から、平成19年度も引き続き実施の予定である。

（５）建材委員会

①新建築材料の調査・検討

新しい建築材料の品質・性能の検討、設計・施工上の留意点等の調査を行い、会誌上へ紹介を行う。

平成19年度は、この事業のみにとどまらず、建材業界との交流・技術講習への参画等、多角

的な方法での建材の検討・調査を行い、ビジネスチャンスを生み出す工夫を加える。

（6）その他事業

①近代建築を考える会

5年にわたり、阪急電鉄との共同企画「近代建築を学ぶ会」で、講演会・見学会・シンポジウムを開催し、近代建築の意義について学習・普及してきた。共同企画が終了した本年度も継続的に活動しながら、中期的な推進体制を整える。

②アイデアコンペの実施

平成18年度は大阪ロータリークラブとの共同企画により、中之島の将来像について公募型コンペを開催した。こうしたコンペ開催は、日本建築協会が歴史の節目で果たしてきたものであり、今後も他団体との協調のもとに都市の活性化・人材育成の観点から取り組んでゆく。

③他団体との交流・連携

建築の専門家が社会の発展に積極的に寄与すべきという趣旨に立って、建築関係をはじめとする各団体とともに、CPD事業を含む積極的な交流・連携事業を企画する。

④会員名簿の発行

隔年発行である会員名簿を平成19年度は発行する。

2. 平成19年度収支予算書 —平成19年4月1日から平成20年3月31日まで—

単位：千円

科目	予算額	前年度予算額	増減	備　考
Ⅰ. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入				
個人正会費	14,003	14,740	-737	・個人正会員：973名
個人正会費(地方)	1,022	1,369	-347	・地方正会員：81名
団体正会費	32,149	33,926	-1,777	・団体会員：1,286口
準会費	25	42	-17	・学生会員：3名
会費収入計	47,199	50,077	-2,878	
②事業収入				
会誌収入	20,000	23,000	-3,000	会誌広告料、会誌個別販売、年間購読
契約約款収入	2,600	2,500	100	契約約款販売収入
会員名簿収入	2,200	0	2,200	隔年発行（H19年度発行年）
出版委員会収入	500	500	0	出版企画料、講座参加料
事業委員会収入	400	400	0	見学会、講演会参加料
教育委員会収入	1,500	1,200	300	実務講習会参加料
建材委員会収入	0	0	0	会誌収入に含む（新建材広告料）
事業雑収入	238	250	-12	近代建築企画、コンペ企画含む
事業収入計	27,438	27,850	-412	
③寄付金収入	0	0	0	現状予定なし
④記念事業収入	0	500	-500	19年度予定なし
⑤雑収入	45	30	15	預金利息他
事業活動収入計	74,682	78,457	-3,775	
2. 事業活動支出				
①事業費支出				
事業関係人件費支出	15,442	15,390	52	3.5名
会誌発行費支出	20,000	23,000	-3,000	会誌印刷費、編集委員会事業費
契約約款費支出	1,300	1,250	50	販売用約款購入費、送料
会員名簿発行費支出	2,200	0	2,200	隔年発行（H19年度発行年）
出版委員会事業費支出	100	300	-200	講座経費、印税支払経費、委員会事業費
事業委員会事業費支出	300	400	-100	見学会、講演会経費、委員会事業費
教育委員会事業費支出	1,700	1,200	500	工高生コンペ、講習会経費、委員会事業費
建材委員会事業費支出	0	0	0	会誌発行費に含む
記念事業費支出	0	2,000	-2,000	H19年度予定なし
事業雑支出	230	260	-30	近代建築企画、コンペ企画含む
事業費支出計	41,272	43,800	-2,528	
②管理費支出				
管理関係人件費支出	14,299	13,719	580	2.5名＋アルバイト人件費
退職給付支出	0	0	0	現状予定なし
福利厚生費支出	50	50	0	職員健康診断、教育、福利
助成費支出	2,350	2,500	-150	4支部への助成金
会議費支出	1,050	1,250	-200	総会、評議員会、理事会、特別委員会
旅費交通費支出	154	65	89	アルバイト交通費含む
通信運搬費支出	500	500	0	電話、FAX、メール等通信費
集金費支出	900	900	0	会費請求、グループ会費集金手数料等
消耗品費支出	2,100	2,100	0	HP維持費，PCソフト、トナー、文房具等
備品購入費支出	300	300	0	
修繕費支出	50	50	0	
印刷製本費支出	80	80	0	協会パンフ増刷等
光熱費支出	280	300	-20	電気代
火災保険料支出	20	20	0	
租税公課支出	800	900	-100	消費税、法人税
清掃費支出	20	20	0	1回／年・事務所床清掃
建物管理費支出	4,600	4,370	230	事務所賃借料等、19年度賃借料値上げ
雑支出	2,280	2,300	-20	監査、保守、協賛、購読、未収金償却外
管理費支出計	29,833	29,424	409	
事業活動支出計	71,105	73,224	-2,119	
事業活動収支差額	3,577	5,233	-1,656	
Ⅱ. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
①特定資産取得支出				
事業基金積立預金支出	0	2,000	-2,000	H19年度予定なし
退職給付引当資産取得支出	370	0	370	H18年4月入社職員1名分積立
特定資産取得支出計	370	2,000	-1,630	
投資活動支出計	370	2,000	-1,630	
投資活動収支差額	-370	-2,000	1,630	
Ⅲ. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ. 予備費支出	150	150	0	
当期収支差額	3,057	3,083	-26	
前期繰越収支差額	43,045	39,962	3,083	
次期繰越収支差額	46,101	43,045	3,057	

(注) 1．収支予算書は当年度から「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年３月23日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に示された３区分の様式により作成している。
2．前年度予算額は、前年度の収支予算書の科目を当年度予算額の科目に対応させて組み替えて表示している。
3．借入限度額　30,000,000円

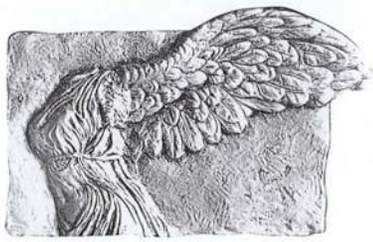
主催　日本建築協会

平成19年度　第53回工高生デザインコンクール

設計課題　こども園

課題の趣旨

少子化の進行や教育・保育に対する保護者の要望の多様化にともない、幼稚園と保育所の機能をあわせもつ、こども園が創設されています。こども園では、年齢差のあるこども達が適切な集団を保つことで、さまざまな遊びや学習の場が広がることが期待されています。また同施設が行う子育て支援などは、保護者の不安などの解消にも役立つとともに新たな交流の場ともなるでしょう。



入選賞牌

本課題では、これまでの幼稚園や保育所とはひと味異なる、室内や屋外で多くのこども達が自由に楽しく過ごせるような、認定条件にとらわれない新しい提案を期待しています。

設計条件

1．敷　　地：敷地の大きさは2000㎡程度。
2．規　　模：規模は700㎡程度。階数は自由とする。
3．所 要 室：保育室、乳児室・ほふく室、遊戯室、職員室、保健室、便所、調理室など。
4．そ の 他：上記の室以外に必要と思われる室やスペースは適宜設けてもよい。

所要図面

1．配 置 図：縮尺自由、敷地形状は自由。周辺の状況、道路との関係、方位などを明示する。
2．平 面 図：縮尺1:100
3．立 面 図：縮尺1:100（2面以上）
4．断 面 図：縮尺1:100（1面以上）
5．透 視 図：設計意図が最も反映するところ（アイソメも可）。着色仕上げ。模型写真に代えてもよい。
6．設計説明：設計意図を表すサブタイトルをつけることが望ましい。設計趣旨（立地、周囲の状況などについての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。
7．そ の 他：平面図、断面図には、室名・寸法を記入する。上記以外に必要と思われる図面は加えてもよい。

応募条件

1．用　　紙：製図用紙Ａ１判（594㎜×841㎜）１枚を使用し、その中にすべての要求図面を描くこと。
2．仕 上 げ：図面は黒色鉛筆仕上げとし、ワープロ、ＣＧ、（透視図を含む）やＣＡＤ、スクリーントーンなどによる仕上げは禁止する。（ただし、色鉛筆による着色は可）
透視図は彩色用紙を用い、製図図面にのりづけしてもよい。
透視図や模型写真以外のものを貼りつけることや、図面のパネル化は行わないこと。
3．応募資格：平成19年４月現在、高等学校在籍の生徒で、個人または共同で制作したものとする。
4．そ の 他：用紙や図面には、学校名・学年・氏名など応募者がわかるような表示は行わないこと。
※以上の条件に違反した応募作品は、失格とすることがある。

応募方法

1．別紙用紙に、学校名・所在地・学年・氏名を記入し、封筒に入れ密封し、図面の裏に貼りつけること。（記入用紙が足りない場合は複写して下さい）
2．共同制作で応募する者は、１.の記入用紙に連名のうえ、代表者に丸印をつけること。
3．応募作品は学校を通じて提出すること。

締切期日

平成19年９月28日（金）の消印をもって締め切る。

送付先

〒540-6591 大阪市中央区大手前１丁目７番31号
大阪マーチャンダイズ・マートビル（OMMビル）７階（私書箱107号）
社団法人 日本建築協会　第53回工高生デザインコンクール係
TEL.06-6946-6981　FAX.06-6946-6984
E-mail：jigyoka@aaj.or.jp　URL：http://www.aaj.or.jp

入選作品の数および賞

1．入選作品は10点とする。
2．入選作品のうちから最優秀賞１点、優秀賞２点を選び、賞状および賞牌を贈る。
3．他の入選作品には、賞状および賞牌を贈る。
4．応募者全員に参加賞を贈る。
※入選作品の版権は本会に属し、また入選作品は本会にて保管する。

入選者発表

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年１月号に掲載する。

審査員（50音順・敬称略）

委員長　林　　浩二／㈱大林組本店建築設計部部長
委　員　井上　久実／井上久実設計室主宰
　　木村　博昭／京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
　　久保　清一／大阪芸術大学芸術学部建築学科教授
　　佐々木　栄／㈱昭和設計都市・建築本部第１設計部長
　　笹村　欽也／㈱東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
　　田代　　純／大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授
　　寺岡　宏治／㈱安井建築設計事務所設計部部長
　　徳岡　浩二／㈱徳岡昌克建築設計事務所代表取締役社長
　　長坂　　大／奈良女子大学生活環境学部住環境学科助教授
　　浜田　　徹／鹿島建設㈱関西支店建築設計部長
　　平田　隆行／和歌山大学システム工学部環境システム学科助手
　　増田　俊哉／㈱竹中工務店大阪本店設計部第４設計部門設計担当副部長
　　吉羽　裕子／I. F. Architects代表
　　渡辺　豪秀／㈱日建設計設計部門設計室長

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30年より毎年テーマを変えて開催しています。

今年は10月号掲載で、応募締め切りが7月下旬となります!

若き創造者たちへ

「建築と社会」平成19年10月号
「第54回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに53回にわたって若き優秀なプランナー、アーキテクト、エンジニアをめざす人たちを紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。

54回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1．応募される人は満35歳（平成19年７月末日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。

2．原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3．応募分野は特定しない。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等々その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を1部、本会に期日までに提出する。

4．提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。（なお、提出資料は特に指示のない限り返却はいたしません）

5．「青年技術者選考委員会」において選考された青年技術者は「第54回青年技術者特集号」（平成19年10月号）に掲載するとともに、表彰式を行い、記念品を贈呈する。

6．提出資料

■すいせん用紙

請求は、すいせん依頼先担当部署、または本会事務局へ。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めて**A3判用紙5枚以内にまとめる。**

① 設計の場合――鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）――上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合――それぞれの分野にふさわしい資料

④ 上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、**本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの**（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者・本人の執筆に限る。**このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。**

7．**提出期限**　平成19年7月30日（月）

8．**提出先**　日本建築協会「青年技術者選考委員会」
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
電話 06-6946-6981　FAX. 06-6946-6984
Email：ken-sha@aaj.or.jp

9．**青年技術者選考委員会**（平成19年度）

委員長　設楽　貞樹／安井建築設計事務所常務取締役

委　員　佐々木正人／竹中工務店プロジェクト開発推進本部長
松村　秀一／東京建築事務所取締役副所長
木多　道宏／大阪大学大学院工学研究科教授
瀬戸本　淳／東京都都市整備局市街地建築部長
櫻原　健一／日建設計シビル副社長
西山　康雄／大阪市立大学大学院工学研究科都市環境工学専攻教授
田辺　光／日建設計総合研究所基本計画設計第4部副部長
伊藤　昌明／伊藤喜三郎建築研究所主宰
池田　孝夫／大成建設関西支店建築部品質管理室長
鈴吉　敬／大林組本店建築生産技術部長

折衝中

平成18年度から、青年技術者の公募は早めています。第54回青年技術者は、本年7月30日(月)までに応募できるよう準備をお願いします。

建築と社会

Architecture and Society
2007
No.1021
04
日本建築協会

■特集予告
5月号／あそび 考
6月号／こだわりが創る住まいのカタチ
7月号／住まいの設備と空間の移り変わり

編集委員会（平成18年度）

■副会長
井上　豊
中井　進
■編集担当理事
上原　正行
岡田　聿之
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
◎設楽　貞樹
竹中　統一
立成　良三
吉村　英祐
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
飯田　匡
鈴木　克彦
田中　直人
高橋　和也
辻　武之
紅谷　昇平
松田奈緒子
△三宅　次郎
森　康郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
安部　新二
△荒木　宏之
江副　敏史
奥村　朋孝
菅野　忠司
神戸　嘉也
木多　彩子
楠　敦士
小林　優子
所　千夏
野田　隆史
桃杷　健一
松森　織江
★インテリア・住宅系
阿部　泰浩
加藤　力
神谷　浩司
黒栁　亮
高野　直樹
田中　浩介
戸井賢一郎
ベリー史子
本山　仁
□構造分科会
秋田　智
岸本　光平
木下　隆嗣
瀧野　敦夫
鶴田　潤
△中塚　光一
難波　尚
肥嶋　好浩
房安　智也
向井　洋一
安野　郷
□設備分科会
△赤澤　正治
石井　勝秋
梶井　宏修
河井　康人
近藤　国夫
谷野　太志
夏井　重行
福谷　周
桝井　貴廣
村上幸三郎
山下　修
□施工材料分科会
石原　卓也
平田　茂良
平野　剛
△藤丸　啓一
山岡　篤人
吉田　正友
□法令分科会
△赤井　英稔
片岡　正和
七堂　元敏
中迫　悟志
根岸　芳之
文山　達昭
山口　一郎
■作品作風小委員会
赤木　隆
石塚なぎさ
居内　章夫
○井上　雅祐
稲垣　和江
池上　明
川上比奈子
倉渕奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
鞆野　淳司
豊田　充広
中村　文紀
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
荒本　俊明
今井　成年
大竹　賢次
○虎谷　伸幸
古畑　健一
○前田　衛
森川　幸信

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2007年3月25日
発　行　2007年4月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

Journal of the Arghitectural Association of Japan

特集　創立90周年記念号
この10年、これからの10年

§1 <挨拶>
日本建築協会90周年に寄せて●佐野吉彦 ―― 12

§2 <対談>
御堂筋から変わる都市 大阪
―都市に人の気配と緑を―●奥田　務×佐野吉彦 ―― 13

§3 <日本建築協会年表>
この10年の建築と社会●田中直人＋瀧野敦夫＋川上比奈子／ワーキンググループ（摂南大学＋大阪大学大学院＋夙川学院短期大学）― 23

§4 <日本建築協会と建築界と社会>
大正から昭和へ、日本建築協会が果たした役割の一断面
●坂本勝比古 ―― 37

§5 <日本建築協会会員・委員の声>
私にとっての この10年・これからの10年 ―― 41
●荒川治徳／生井昌樹／池上　明／植松清志／大氏正嗣／岡田信幸／片岡正和／川上　貢／川戸敏雄／黒田達雄／小浦久子／酒井重治／迫　淳海／澤良雄／七堂元敏／庄谷邦幸／関川詞之／関根幹雄／田﨑祐生／武田則明／塚口明洋／所　千夏／中迫悟志／夏井重行／根岸芳之／橋本健治／長谷部朔郎／浜野幸雄／藤城義丈／松隈　章／松田善弘／宮崎ひろ志／宮内　宏／三好　曠／村上幸三郎／門谷和雄／吉田正友／和田康由

§6 <100周年につなぐ宣言>
10年委員会発足宣言 ―― 49

§7 <90周年記念事業の記録>
・第7回「日本建築協会賞」受賞業績4点 ―― 50
・「中之島デザインアイデアコンペ」入賞5点 ―― 54

§8 <速報>
創立90周年記念式典・シンポジウム・祝賀会 ―― 57

会告　総会議決お知らせ―平成19年度事業計画.平成19年度収支予算書―. 平成19年度第53回工高生デザインコンクール―設計課題:こども園―. 若き創造者たちへ―「第54回青年技術者特集号」へのおさそい―. 1

作品作風　九州歯科大学 6

研究の風景　小玉祐一郎研究室
（神戸芸術工科大学デザイン部 環境・建築デザイン学科） 8

GAllery　使いこなされる風景（忽那裕樹）●増田敬彦 10

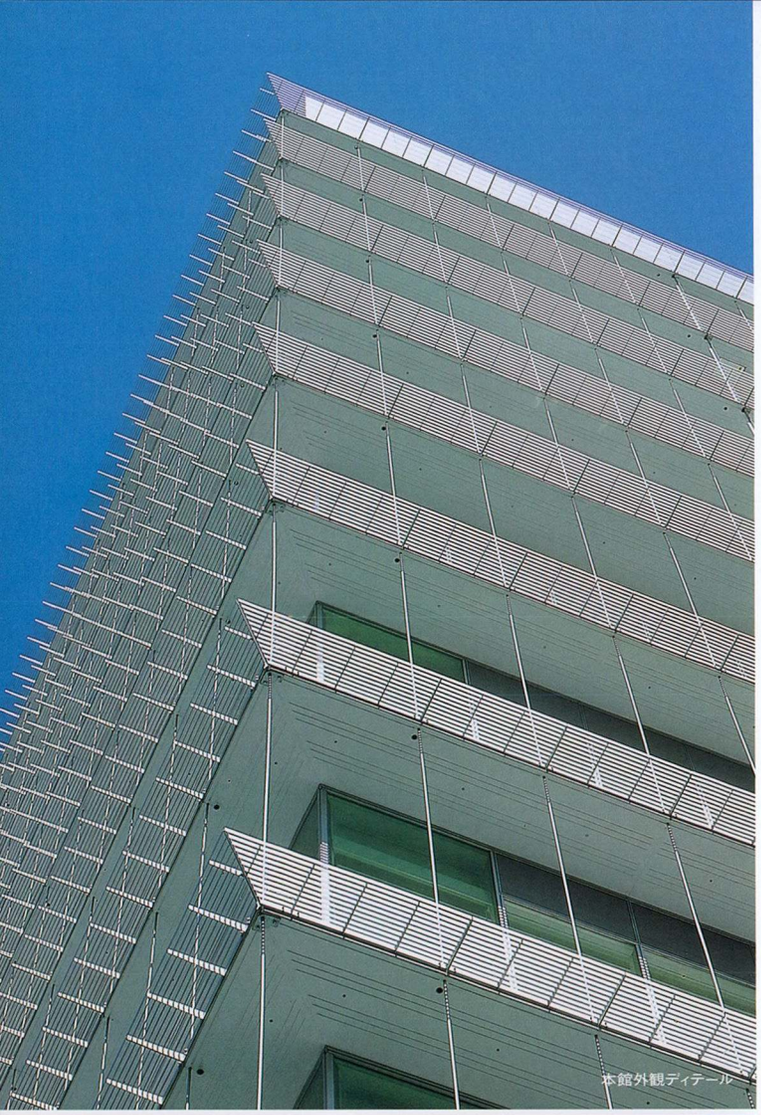
法令コーナー　エスカレーター・エレベーター等の日常事故●山本　強 58

設備の頁　ICタグの無線ネットワークシステムへの適用●山田雅弘 59

information　「ロダン―創造の秘密」展. ベルギー王立美術館展. 「ギメ東洋美術館所蔵浮世絵名品展」. 2007日本中華年「呉氏三代展」. 「熱帯花鳥へのあこがれ」. 麗しき近代美人画の世界. 「絵画と衣裳 美の名品」展. 個展_昆虫3DCGと昆虫模型. 「アトリエ・ワン展 いきいきとした空間の実践」. 藤森建築と路上観察. 飯田市 川本喜八郎人形美術館、3月25日にオープン. 竹中大工道具館「技と心」セミナー. 庭園倶楽部の講演会＋旅行 60

月間の動き　平成19年2月分 63

表紙　企画・デザイン　高橋 善丸


本館外観ディテール

作品風

設計・監理■
福岡県建築都市部営繕課
学部棟：日本・九和・スズキ・産研設計業務共同企業体
講堂棟：大建・東・木賀・トーホー設計業務企業体

施工■
学部棟：鹿島・淺沼・大同特定建設工事共同企業体（建築）
きんでん・半田電設工事・中川電設特定建設工事共同企業体（電気）
三建・ホクエイ・九州機電特定建設工事共同企業体（空調）
第一設備・葵設備特定建設工事共同企業体（衛生）
講堂棟：中村・橋口・石崎特定建設工事共同企業体（建築）
近畿・小倉特定建設工事共同企業体（電気）
オーク・サクラ特定建設工事共同企業体（空調）
九倉建工（衛生）

九州歯科大学

本施設は、全国で唯一の公立歯科大学として輝かしい歴史と実績をもつ九州歯科大学にふさわしいキャンパスの中核をなすものとして、福岡県により新たに整備された施設である。
新しく整備された九州歯科大学は、最先端の歯科大学として、教育、研究、医療の３つの機能の高度化を図るほかに、地域社会に開放された大学を目指し、オープンキャンパスとして県民に親しみやすく、利用しやすい施設となるよう計画されている。本館の附属図書館は、地域の方にも利用できるよう開放するほか、講堂は、大学の行事、国際会議・学会、シンポジウム利用以外にも、地域の方々に広く利用してもらえる方針である。
将来は、既存の病院棟と本館、講堂をデッキで繋ぎ、広場、駐車場を含む外構を整備し、地域の方々に憩いの場となる広場を利用できるよう計画している。
外観デザインは、最先端の歯科大学の先進性と、開放性のイメージを強調する意味で、白を基調とし、明るく開放的なガラスを外装に多用することによって、「大学の象徴」としてモダンで明るいデザインとしている。特に外装のバルコニー、庇のグレーチング、手すり等の現代的でシャープなイメージとともに、美しく透きとおる外観は、北九州市の新しいランドマークとなっている。

（大塚　剛/日本設計）


講堂棟ホワイエ


講堂内部ステージ

北西側の外観



配置図　1：1200


本館附属図書館


相互実習室

所 在 地 ――福岡県北九州市小倉北区真鶴2-6-1
敷地面積 ――学部棟、講堂棟19,661.24㎡
建築面積 ――学部棟1,388.19㎡、講堂棟1,464.35㎡
延床面積 ――学部棟15,647.52㎡、講堂棟3,190.15㎡
構造規模 ――学部棟S造，SRC造（地下部分）、11F、B1、T1
　　講堂棟RC造、一部S造、4F、B1
工　　期 ――2004年12月～2006年12月
最 寄 駅 ――JR南小倉駅
撮　　影 ――写真のみどり（学部棟）、上村竣一（講堂棟）

研究の風景

神戸芸術工科大学デザイン部
環境・建築デザイン学科

小玉祐一郎研究室



写真１　高知本山町の家

■はじめに

神戸芸術工科大学は、デザインを学ぶユニークな単科大学として、平成元年に開学しました。19年目を迎える現在に至るまでに、大学院(1993年)、さらに先端芸術学部(2006年）が新設され、アート、デザイン、テクノロジーを融合するバウハウス的な教育を目指してさらなる発展と充実がされました。当研究室は、デザイン学部の環境・建築デザイン学科に属しており、現在、研究室には大学院博士課程２名、修士課程３名、学部４年生７名の計12名がおり、様々なプロジェクトに取り組んでいます。

「持続可能な社会の構築」の重要性が認識されるに伴って、地球環境負荷の削減に資する建築に対する関心は非常に高くなりました。そのなかで、地域の自然や歴史の特性を読み、そのポテンシャルを生かすデザインの開発とその実践を目指して、研究活動・設計活動をしています。太陽や風、光などのデザインに生かすことを目的としてシミュレーションをベースにしたデザインツールを開発し、応用することです。また、自然の光や風をいかす伝統的なデザインの歴史的研究、五感で感じる快適さ－人間の身体感覚についての研究も行っています。デザインはさまざまな分野にまたがっていますので、専門分野を超えた学際的な研究が必要だと考えています。キーワードはサステイナブルデザイン、パッシブデザイン、エコデザイン。ここでは、これまで当研究室が取り組んだ主な設計活動、研究活動と学生の修士・卒業制作について紹介します。

■設計活動

○高知・本山町の家

四国の険しい山々を縫うように流れる吉野川の河岸に建つ住宅の計画と設計。周辺には、山に囲まれた盆地のようなのどかな田園風景が広がっています(写真１)。敷地調査では、ゼミ旅行を兼ねて周辺地域のリサーチを行いました。

環境のポテンシャルを生かし、自然の四季の変化を楽しみ、自然と交感できることが施主の要望であり、ここでのパッシブデザインの目的になっています。温暖地のパッシブデザインでは、冬のパッシブ暖房と夏のパッシブクーリングとの両立を図ることが必須であり、矛盾する場合も多いため、計画段階でのシミュレーションによる検討が重要になりました。ここでは、院生を中心にして夏、冬の計画方針の立案、デザインツールを用いた温熱環境性能予測、換気モードの通風経路と通風効果の検証をしました（図１)。

さまざまな組み合わせを設定しながら、夏の性能と冬の性能の双方を予測し、結果を比較検討しながら、最終設計案に収束させていきました。温暖地におけるパッシブデザインのひとつのプロトタイプをケーススタディを通じて提案し、部分的に検証できたと考えています。グッドデザイン賞、建築学会作品選奨などを受けました。

■研究活動

○デザインツールを用いた一連の研究

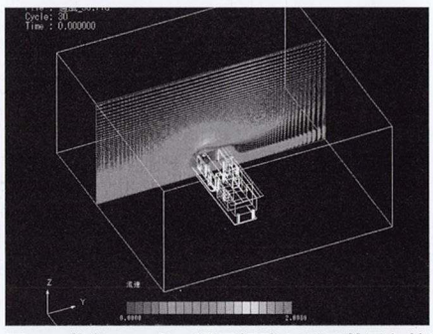
・温熱環境シミュレーション- Solar Designer

住宅の日射利用効果に関する研究では、開口面積、開口部仕様、建物方位、庇の各部位のパラメータを変化させ、その性能と影響について検討しました。「高知・本山町の家」等の実際建設した建物を使用したり、外気温や日射量の異なる各地域の日射利用効果について検討したものです。代表的なパッシブデザイン手法を組み合わせた場合の日射利用効果を地域別に検討し、気候特性による効果の違いを考察しています。

最近では、「外気導入」のパッシブクーリング効果について研究を進めています。古くから利用されてきた夏季の室内環境向上手法である通風、換気による外気導入のパッシブクーリング手法ですが、勘に頼るのではなくデザインツールで検討しながら設計するためです。空調とは異なる快適さ－「さわやか



写真２　研究室メンバー



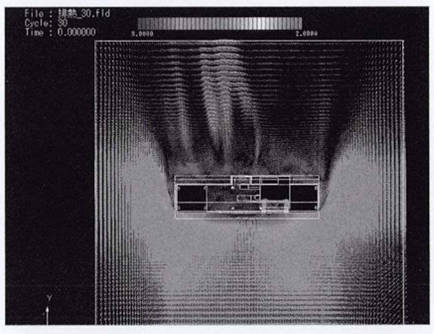


図１　換気モードの通風経路と通風効果を検証

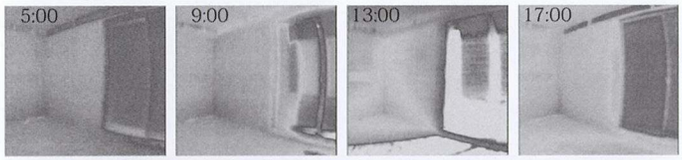
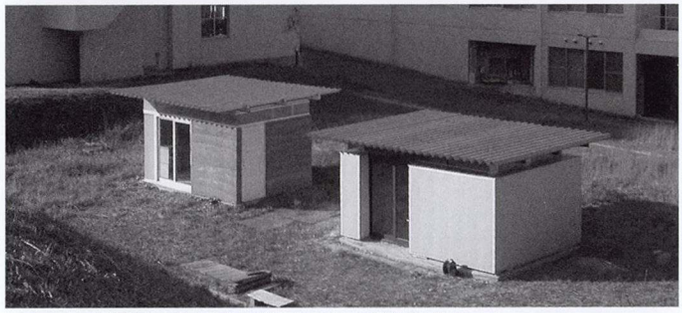
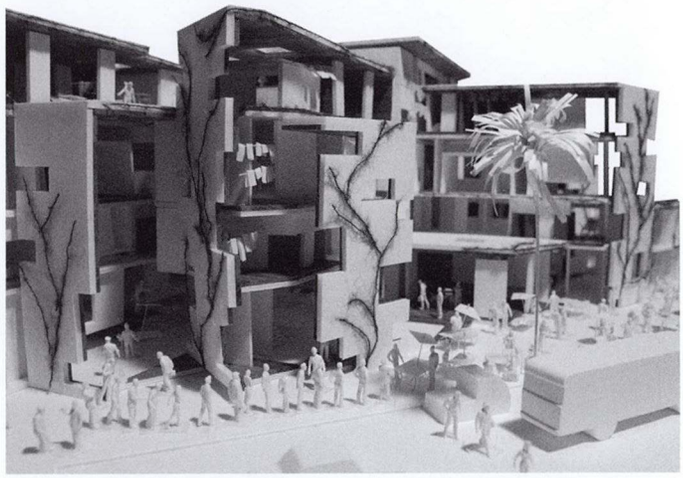


図２　版築造実験居室熱画像（2007年１月31日）


写真３　版築造実験居室（神戸芸術工科大学敷地内）


写真４　修士制作（豊崎寛樹）
TWIST

さ」・「すがすがしさ」といった自然の感触―身体感覚的な快適さによるパッシブデザインのメリットも学生に実測や見学によって体験してもらっています。近年、経済成長著しいアジア地域においては、今後ともエアコン普及や冷房エネルギー消費の増大に対処する研究の一環として通風の研究が注目されており、国際交流もしています。

・流体解析シミュレーション- CFD

換気、通風の流体解析シミュレーションは、建物性能を確認するひとつの方法です。今ではコンピュータ技術の向上によって簡易に計算できるようになりました。しかしながら、簡易になったとはいえ、入力手間や計算時間の問題や境界条件の設定など、デザインツールとして本格的に活用するのはこれからです。形と風の流れの関係を予測するデザインツールの確立をめざして、開口部や間仕切壁の位置や大きさが室内の通風に及ぼす影響、建物形態が外部気流に与える影響などの基礎的な研究をしています（図２）。その一方で、実際の設計事例にあてはめて、建物内外の気流の分析を行い、風向が変化したときの影響、建物の形を変えた場合の効果などを見る実践的な検討もしています。研究室の一貫したテーマである高温多湿気候地域のポーラス型低層集合住宅計画にも活用されています。

○版築プロジェクト

版築壁とは、土を塗るのではなく、型枠に入れ突き固めることを繰り返してつくられる土壁です。神社や、寺の土塀、基壇などによく使われており、古くから伝わる原始的な工法です。日本では建物に使用した事例は余りありませんが、海外では伝統建築のみならず、住宅をはじめとして現代建築において使われる事例がみられます。近年では、建築材料としての土が再び注目され、伝統的な工法である土壁の再評価もされるようになりました。しかしながら、建物の断熱性能が低いため、熱容量の大きい利点が生かせないことが、民家の実測結果を通じてわかってきました。本プロジェクトでは、版築壁や土壁を室内における大きな蓄熱体として捉え、パッシブデザインへの利用を目的にしてシミュレーション予測と熱環境の実測実験をしています。

実測実験は、キャンパス内にセルフビルドで建設された版築造実験居室2棟を用いて進められています。今年の1月には断熱改修をして版築の構法上の検討も行いました（図３、写真３）。

○パッシブデザインの歴史的研究

大正期から現在に至るまでのパッシブデザインの変遷について研究しています。最新の設備技術を取り入れた建築の事例分析を進める一方で環境工学の草分けのひとりとされる藤井厚二に始まる環境工学的アプローチを取り入れた設計手法、建築作品についても調査分析をしています。

藤井厚二についての研究では、全5回の実験住宅でみられた伝統的あるいは独自の工夫による環境調整技術が健康を主題とした住宅設計競技においてどう反映されたか検証しました。雑誌「建築と社会」をはじめ、古い雑誌や書籍の調査、分析を研究室で行い、年表を作成しました。

■修士・卒業制作

最後に2006年度の修士・卒業制作のいくつかを紹介します（写真４、５、図４）。

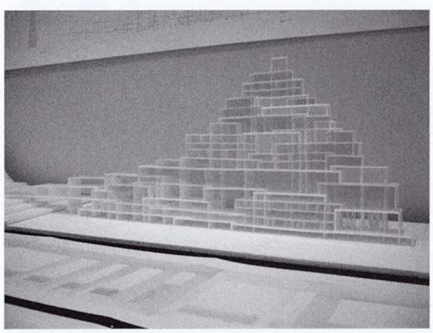
・修士制作（豊崎寛樹）
TWIST―クアラルンプールにおける低層高密度集合住宅計画。現地調査を行いながら、これからの熱帯における都市居住を提案。

・卒業制作（河内尚子）
水の建築

・卒業制作（藤岡奈保子）
歴史都市・奈良の図書館計画

・卒業制作（河野ふみ）
宮沢賢治記念美術館計画

ホームページ
http://www.kobe-du.ac.jp/env/kodama/


写真５　卒業制作（河内尚子）
水の建築

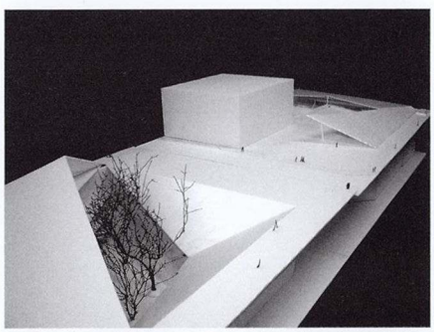

写真６　卒業制作（藤岡奈保子）
歴史都市・奈良の図書館計画


図４　卒業制作（河野ふみ）
宮沢賢治記念美術館計画



まち　建築　ひと

gallery

使いこなされる風景

ランドスケープアーキテクト
忽那 裕樹 Kutsuna Hiroki

1966年生まれ

1990年　大阪府立大学卒業
2000年　環境デザインスタジオ
　　E-DESIGN 設立
2005年　株式会社 E-DESIGN 設立

現在、京都造形芸術大学、大阪市立大学、立命館大学非常勤講師

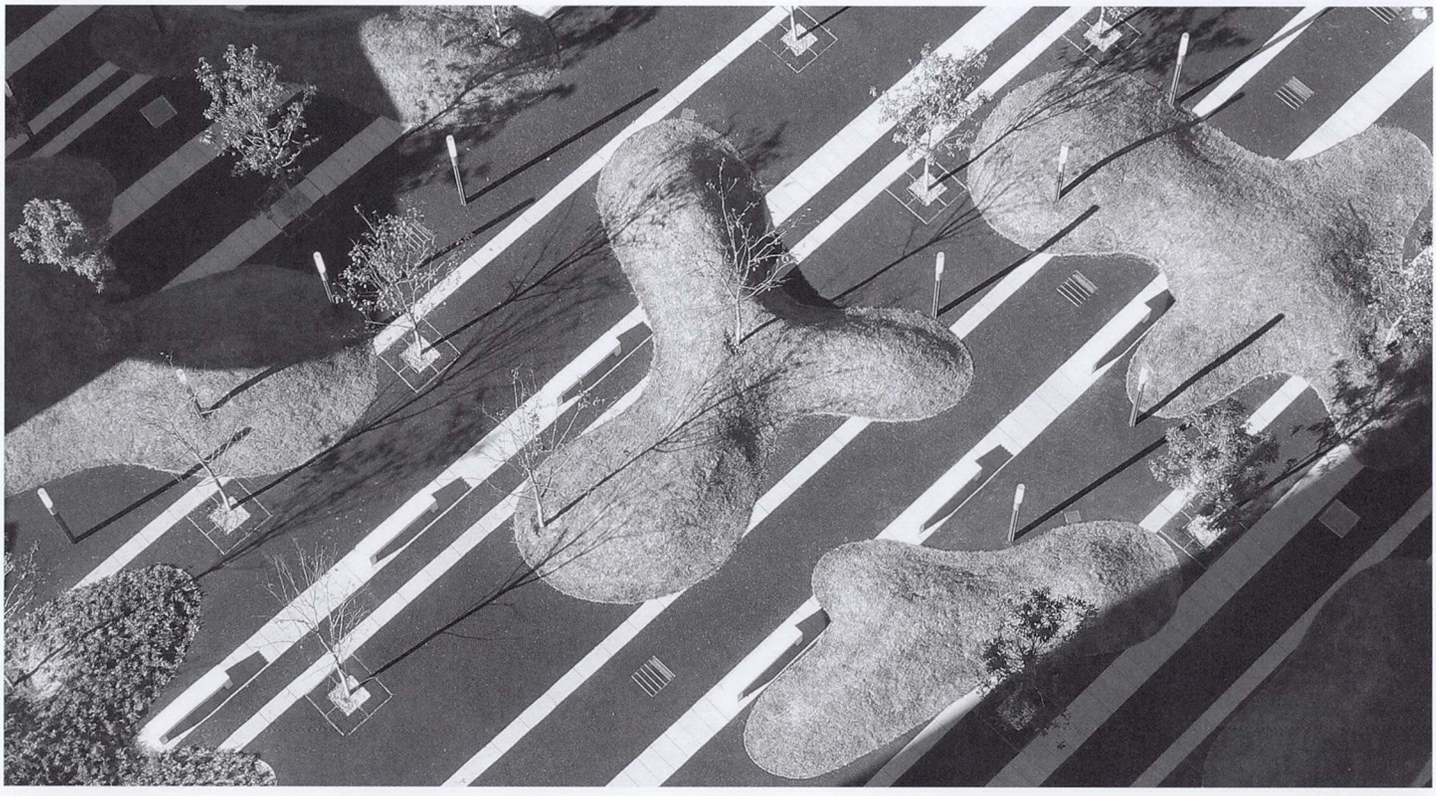
集合住宅の公開空地のランドスケープデザイン（大阪市城東）

人それぞれの場所の読み取りによって多様な活動が立ち現れてくる。
そして、その場にいる人の姿が魅力的に見える風景を生み出したい。

この広場では、何をするのかを強制するデザインを避け、使い手によって場所のキャラクターが決まることを目指した。
隣り合う道路のアスファルトを広げた場所に、向かいの桜並木に視線を誘うランダムなストライプが走る。
そこに有機的な形の緑の島を浮かべた。
見る場所によって全く違った印象を持つ広場が生み出された。
ここでは花見が行なわれ、お年寄りが佇み、買い物帰りの親子が戯れるように行きかう。
自転車でマウンドを駆け上がる子供たちの姿もあり、様々な使いこなしの風景が生まれている。
自分なりの居場所を見つける人々と共に育っていくことを願っている。

企画編集　増田敬彦（作品作風小委員会）





撮影　E-DESIGN

1917

90周年記念号

この10年、これからの10年

日本建築協会の90年の歴史とともに歩み続けてきた本誌「建築と社会」も、創刊号以降、号を重ねて、 4月号で1021号を数えることとなりました。幾多の困難な時代にも会誌発行にささげてこられた先輩諸兄のご努力と、たゆみなく会誌を支えていただいている会員の皆様のご支援に対し、この誌面を借りてあらためて敬意を表する次第です。

編集委員会ではこの4月号を、90周年記念特集号として**「この10年、これからの10年」**というタイトルで発刊します。10年前、1997年の当協会創立80周年の記念事業として「日本建築協会80年史」が協会創立以来の歴史の集大成として上梓されました。したがって、本90周年記念号では再び歴史を語ることは避け、80周年以降の「この10年」をふりかえり、そして来るべき100周年に向けて「これからの10年」を語ることで、協会の今後のあり方を語る場にしたいとの趣旨をタイトルに込めたつもりです。いわば80周年～90周年～100周年と続く道程のマイルストーンとしての位置づけです。

協会では90周年に関連する事業として、当記念号の発刊のほか、大阪ロータリークラブと共催したデザインアイデアコンペ「都市の魅力をつくる―中之島の将来を考える―」の開催、記念シンポジウム「“近代建築力”再発見」の開催、「日本建築協会賞」の選考・顕彰等々多彩な催しが繰り広げられています。本号ではそれらの事業の紹介もあわせて行っていますので、ぜひご一読ください。　　編集委員長●設楽貞樹

2007
2006
2005
2004
2003
2002
2001
2000
1999
1998
1997
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

90周年記念号企画委員
赤澤正治／石原卓也／奥村朋孝／川上比奈子／設楽貞樹／田中浩介／田中直人／瀧野敦夫／前田　衛

日本建築協会90周年に寄せて

社団法人 日本建築協会 会長　佐野吉彦

1917年、近代日本が都市のかたちを整えつつあった時代。日本建築協会はそのダイナミズムと呼応しながら、高い志のもとに誕生した。活動のなかで続いた広範な議論の基盤づくりと、社会への実践的アプローチは、一つひとつ成果として積み上げられていった。たとえば1922年に箕面桜ヶ丘で開催した＜住宅改造博覧会＞は日本建築協会の企画になるもので、社会形成の過程で建築が重要な役割を果たすものであることを、率先して世に問うものであった。その果敢だが正統的な精神をタイトルに掲げた機関誌「建築と社会」は戦時期をはさみ、1000号を超えてなお続いている。この歳月のなかにあるそれぞれの記録には、技術の革新・定着への努力が誠実に語られており、建築にかかわる者が今後とも道標とすべき貴重な知見が満ちているように感じられる。

戦後社会の発展に関しても、日本建築協会は重要な貢献をおこなってきた。それは多くの有為の人材を育ててきた軌跡である。青年技術者表彰・工業高校生デザインコンクール・工業高校生表彰は長い歴史を持ち、多くの新鮮な才能を羽ばたかせることになった。彼／彼女らのその後の建築界での活躍ぶりを見ることは、喜ばしい限りである。実務講習・出版・各種見学会や近年実施している日本建築協会賞・読者と選ぶ「建築と社会」賞・デザインアイデアコンペなどを一層充実させ、有益な機会の提供に努めたい。

現在、社会全体も建築界も、すべてがおおいなる変換期にさしかかっていると言える。そのなかで建築が信頼されるキーストーンであるために、掘り下げて考えるとともに、行動する時期であると思う。その意味では、日本建築協会の90年目は過去を振り返るだけでなく、次の10年間、すなわち100周年を見据える年でなければならない。日本建築協会は、異なる立場と役割を持つ専門家が、お互いに敬意を払いながらフラットな視点で議論を交わすことが出来る場である。その基盤を引き継ぎながら、都市のために、社会のために、能動的な役割を果たしてゆきたいと思う。会員諸兄の知恵と発意に大いに期待するものである。

§2

対談

御堂筋から変わる都市 大阪

―都市に人の気配と緑を―

奥田 務
×
佐野吉彦


奥田 務氏


佐野吉彦氏

■ 活気ある御堂筋へ ■

佐野 奥田会長とは先日大阪ロータリークラブと日本建築協会が共催しました中之島デザインアイデアコンペで審査員としてご一緒いたしました。全体的に若い人たちからの応募が多かったのですが、作品を見ていてこれからの若い世代への期待はますます大きくなりましたね。

本日は、まず今年開通70年を迎えた御堂筋に視点を置いて、さらに大阪全体の都市像をめぐる話題に広げていこうと思っております。御堂筋を含めた大阪という場所の何を継承し、これから何を育てていくかということについて、奥田会長は、いかがお考えでしょうか。

奥田 私が常々感じていることなんですが、外国からお客さまをお迎えしたとき、どこを観てもらって、どのようにしていくかとプログラム、スケジュールを作るのですが、例えば京都や奈良は歴史的な遺産や町並みがありますし、伊勢にはきれいな海があります。じゃあ大阪はと言ったときに、食い倒れと大阪城を見て終わりかということになります。私はニューヨークやミラノのまちが好きで何度も行っているのですが、そこの良さは住んでいる人が広い意味で生活をエンジョイしていることです。われわれ外部の人間もそこに入っていって、彼らがエンジョイしている生活そのものを共有できるわけです。大阪もそのような魅力をもつ必要があると思うのです。ただここで大事なことは、大阪に住んでいる人が大阪を誇りに思えるかということです。ニューヨークにしてもミラノにしても自分の都市を誇りに思っています。

私は、まちというのは住む人がいるのが基本だという持論をもっています。パリやロンドン、ニューヨークに行くと、まちがものすごく活気づいています。これは東京も同じなのですけれども、人がそこに住んでいるんですね。

最近御堂筋が随分と変わってきました。人も流入してきています。昔は御堂筋沿いのビルの1階には銀行や証券会社が入っていましたので、土日や平日も3時以降になるとシャッターが閉まっていましたが、最近は1階に商店が張りついてきましたので、土日でも平日3時以降でもお店がまちが開いています。これは非常にいいことだし、歩いてみても非常に楽しいですよね。

これからの御堂筋は、たとえば1階には賑わいのあるまちづくりがあり、上にはオフィスがある。そうして一つ裏に入ったところは人が住むようなマンションがある。そういうものが理想です。

心斎橋のまわりにも随分とマンションが建ってきて、中高年のリッチな方が戻ってこられたので、まちに賑わいが出てきているのです。この頃は大丸の心斎橋店の食品売場も賑わっています。ご年配の方からは、「デリバリーしてほしい」というお話をいただき、百


スカラ座

貨店でもデリバリーをするという動きが出てきているのです。

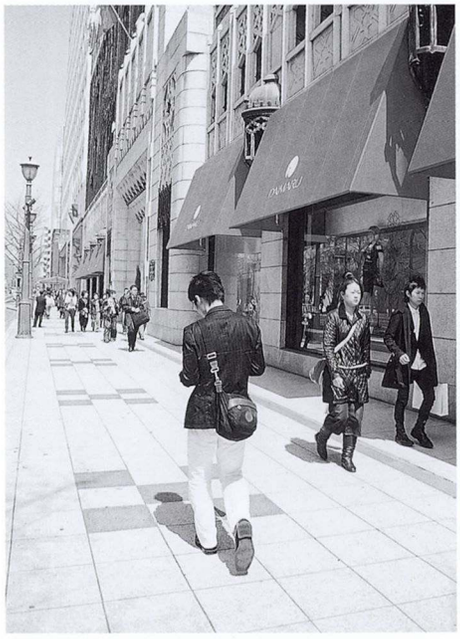
佐野　サービスも変わってくるわけですね。

奥田　御堂筋はそういうふうに変わっていけばいいと思いますね。

私は御堂筋が一つの大きな起点になって、まちを変えていけると思うのです。

佐野　大阪はもともと船場は住居地区でした。先ほどのお話のように、御堂筋はオフィスビルとしてきちんとした顔であるべきですが、一歩入ったところが住宅地というのは、ある意味、大阪の都市の成り立ちからすると、ごく自然なことなのです。

奥田　私は御堂筋は大阪の持っている文化、歴史を代表していて、非常にいいまちになっている場所と思うのです。御堂筋はある意味、大阪の誇るべき唯一の場所ではないかと思っています。



■　行政・企業・住民によるまちづくり　■

奥田　御堂筋からもうひとつ飛躍して、行政がグランドデザインをもつべきだと思うのです。それがないために規制も緩和されないし、強化もされない。日本の都市全体がそうなのでしょうが、関西はそこが無秩序で自然発生的にまちが出来てくるのですけれども、これはまずいですよね。

佐野　いろいろな視点で、都市拠点機能を強化しようという流れはきています。しかし、達成すべき都市イメージが時代によって振れたり、達成するための合意形成がはっきりしないままであることが多い。特に景気に左右されて計画は捨てられ、次の計画に塗り替えられる。それが非常に混乱を生んでいるのではないかと思いますね。



奥田　そうなんです。一貫したものがあって、それが長く続かないと、まちは5年や10年で出来るものじゃないですよね。何十年、極端なことを言えば何百年かけてつくっていくものだから。ぶれない基本的な方針のようなものが必要ですね。それと特定の地区には住居をおいて、それに商業などさまざまな機能をミックスさせて都市をつくっていくこと。外国には、そういうことが非常にはっきりと行われている例があります。まず、それをきちんと守る中で、それぞれの役割を決めていかないと、すべてがブロードウェイになってもいけない。

それから大阪のまちづくりとか賑わいということからみますと、行政は政策を間違っていましたよね。例えば住居をどんどん追い出していったでしょう。しかも、学校も追い出していきました。そうすると、ますます人がいなくなる。大阪市をもっと活性化していこうと思ったら、住むことが第一です。いま大阪はいい傾向にあると思いますね。マンションが建ってきて、それなりの方が戻ってこられている。

佐野　潜在的に「一度は郊外に出たけれどもやはり大阪のまちなかに住みたい」という方々がおられますね。確かに、都心回帰は起こっているのですが、マンションや賃貸というのは、ややもすると孤立してしまいます。本当は、まちづくりのためのコミュニティを育てていかないといけないわけですよね。大阪も、もっとうまく行政がコミュニティの力を利用して、まちをつくってゆきべきだと思います。

奥田　まちづくりについては神戸でも感じたのですが、行政と企業と住民の三つがうまく一緒になって役割分担してやらないといけませんね。

佐野　それに教育機関、大学ですね。

奥田　行政は大きなグランドデザインを引いて、役割を決めて、それをトータルで動かしていく。そういうところが足りない。

佐野　本当は大阪にはいろいろな知恵者がいると思うのです。その知恵を活かすべきです。民間の知恵で「百年の計」といいますか、単年度事業を百年度事業に変えていけるというのは民間の力、知恵ではないかという気がします。

奥田　行政にはあまりセンスがないですよね。(笑)

佐野　一度、行政と民間を含むみんなで一緒に勉強したほうがいいという気がしますね。方向性やイメージを共有することが必要だと思います。

2月24日に行われました大阪ロータリークラブ主催の「美しい大阪・美しい中之島」のシンポジウムで気づいたんですが、「美しい景観」の定義が人によってまちまちではないでしょうか。

奥田　その通りです。

佐野　「賑やかなほうがいい」という方もあれば「何もしないほうがいいのじゃないか」という方もあります。「古い建築」というのが「近代建築」のことなのか「江戸時代の建築」のことなのか、認識は種々雑多です。そのあたりを議論しながら共有したいですね。

奥田　そういうコンセプトをある程度決めたら、それを具体的なデザインに落とし込んでいく必要がありますね。

佐野　日本建築協会に属する会員は、ある意味では建築のクオリティの達成に関して責任を負っているのですが、いろいろな専門家の知恵を組み合わせる必要があると思いますね。たとえば行政と民間が出会うフォーラムのようなものが役割りを果たすべきではないかと思っています。

奥田　そうは言っても、必要なことは行政が仕切らないと。プライベートセクターだけでやると、どうしても「利益」という概念が出過ぎてしまいます。

佐野　その中でも、御堂筋は、かつての関一(はじめ)

市長が推進し大阪の明確な軸であって、70年もつインフラストラクチャーをつくったという意味で、先見の明がある判断であったと思います。



御堂筋の拡幅後（日本建築協会80年史より）

■ 都市に不可欠な緑 ■

奥田　これから解決していくべきなのは、大阪には緑が少ないことですね。海外から帰ってくると大阪は汚いまちだなと思います。やっぱり緑のないまちはだめですよ。私が印象に残っているまちは必ず大事なところに豊かな緑があります。2、3年前にイーデス・ハンソンさんとまちづくりの対談をしたときに、司会者が「ハンソンさん、大阪のまちには何が足りないですか」と聞くと、彼女はすぱっと一言で「緑よ」といったのが印象に残っています。東京は大阪よりも緑が多くて、まだしもバランスがとれているかもしれませんね。

佐野　私がこれから整備してゆくべき地域は上町台地だと思っているのです。太い一つの緑の基帯のようなものができてくる可能性があります。

奥田　シンポジウムで東洋文化研究者のアレックス・カーが言っていたように、容積率が緩和されたら、そこにとる公開空地をポイントとして、緑を形成するとか、そういう知恵はあるんじゃないですか。

佐野　環境の面からみても、ヒートアイランド現象の解決策としては「緑のボリュウム」は有効です。ただ、生物多様性の実現も含めて、さらに望ましいのは連続した緑の帯だと思います。

奥田　それはそうですね。単独ではなく街路の緑がつながることは重要です。

佐野　連続して緑がつながることの美しさは大事にすべきです。中之島は川に沿って緑をつなげるポイントが多々あるので、ここでは絶望せずに、着実に緑を育ててゆくべきだろうと思います。

奥田　そういうものが先ほどの官と民と企業の協力ということになるのでしょうけれども、官も民も企業ももっとセンスを身につけて自分たちのビルをつくるべきでしょうね。

佐野　それから大阪に不可欠なものは文化の基盤づくりだと思います。フェスティバルホールでは大阪国際フェスティバルが永年続いていますけれども、かつてはもっと華やかさがありました。ただ、あのときでも既に都心に人はあまり住まなくなっていましたが。

奥田　東京の文化がなぜ栄えているかというと、電車に乗ってもせいぜい10分、地下鉄で5分という演奏会場の近くに住んでいることが大きい。大阪、阪神間でも結構遠いですよね。恐らく団塊の世代が退職していくと、そのあたりのことは変わるかもしれませんよ。あの人たちは物は買わないけれども、旅行などには結構お金を使いますらね。そういう人たちが逆に都心に流入してくると、そのあたりのことは可能性があるんじゃないですか。

しかし、外国のまちは本当にきれいです。悔しいけれども。(笑)

佐野　中之島シンポジウムの話題にもありましたが、「水と触れあえる」ことも都市の魅力です。単に触れあえるだけでなくて、積極的に活用している例がいろいろな国でありますよね。ベネチアのゴンドラは観光名物ですし、パリの水上レストランは快適ですね。

大阪は「水の都」と銘打っているわけですから、もっと水をうまく使うべきです。

奥田　それと同時に、もうちょっと川自体をきれいにするとかね。もっとお金をかければ、ずっときれいになるのでしょうけれども。問題は住民意識でしょうか、ゴミをあんなに捨てるとかね。本当に住民の意識改革ということをもっともっとやらなければいけませんね。もとは教育に戻ってくるのかもしれないけれども。

佐野　早いうちから「大阪のまちをどのようにすべきか」ということをきちんと考えさせる教育をしておかなければいけませんね。

奥田　そうですね。もうひとつ、本当に気になるのは、中心部における看板と旗の問題なのです。東京は意外と少ないんだけど、大阪は何かというとやたらと旗と幟を立てる。

佐野　あれはぜひ禁止したいところです。特にいけないのは捨て看板ですね。

奥田　道頓堀などの一角はさておいても、少なくとも御堂筋とか普通のビジネス街は行政で規制して欲しい。

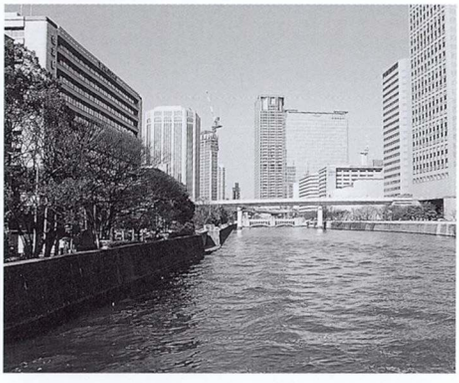
それから、電線の地中化も進めるべきですね。日本のまちが汚いことの原因は電柱がつくっています。

興味深い案で「道路特定財源を電柱の地中化に使え」というのがあります。いい案だと思いませんか。

佐野　賛成です。実行するにはお金がかかりますからね。電力会社にも積極化して欲しいテーマです。そういうことを一つひとつ解決しながら百年の計でまちをきれいにしていく努力が必要だと思いますね。

緑豊かな上町台地





■ 社会の中の建築協会のあり方 ■

佐野　われわれの日本建築協会も90年という節目を迎えました。一方、大丸百貨店はずっと長い300年近い歴史があります。その長い歴史を活かすことについてどんな展望をお持ちでしょうか。

奥田　いちばん大切なのは、われわれの社是のなかで、どういうビジョン、経営理論をもっているかということを軸にして、それをぶれさせずに改革していくことだと思うのです。大丸の例でいいますと、中国の荀子の言葉からとった「先義後利（せんぎこうり）」があります。「義を先にして利を後にする人は栄える」という意味です。平たくいえば、「お客さんのため、社会のためにいいことをやっていれば、利益なんて考えなくても後からついてくる」ということです。

いまCSR（corporate social responsibility）といっているのも大切なことなのです。企業は社会的責任をもちお客様のため、地域のため、国のためになることは何かということを常に考えていれば、利益は後からついてくるのだと。これはものすごい哲理だと思っているのです。その哲理だけは永遠に動かない。

佐野　なるほど。

奥田　常々社員には、「サービスがいいということはお客様にとって必要なこと。だけど、明治時代のお客様にとっていいサービスと、いまの時代のお客様にとっていいサービスは違う。ここに改革が生まれてくる」と言っています。「先義後利」という経営の哲理と理念は大丸がある限り永遠に変わらない。だけど、個々の内容の事象は時代に合わせていく。そういうものがないと、「いつまでも江戸時代の商売をやっているのか」ということになるわけですよね。

まちづくりも同じだと思うのです。「この大阪市はこういう理念で、こういうふうにまちが生きていくのだ」ということがはっきりとあって、その枠は崩さないで、その中で物事が変わっていくということ。いま日本でいちばん足りないのは国の理念です。「どんな国として拠って立つのか」ということがないままに「ああでもない、こうでもない」ということをやるから、経済政策と社会政策がばらばらになってしまって、格差の問題も出てくるわけです。哲学がないとだめなんです。日本人は、個々をばらばらにやっていくことは結構うまいんですよ。だけど、トータルとしてまとめることが非常に下手ですよね。これは何かといったら、上にコンセプトとか大きなグランドデザインがあって、その中にパーツが入っていくということが日本人は苦手です。

佐野　全く同感です。

「先義後利」という大変素晴らしい言葉を頂戴いたしましたので、これは日本建築協会の今後の活動の重要なキーワードとして参考にいたします。広い意味では建設業界、建築業界、私の日常の仕事も含めて参考になる言葉ですね。肝に銘じたいと思います。（笑）



奥田　補足しますと「義」というのは、われわれ社員向けには「お客様へのサービス」とか「お客様」ということをいっているのですが、もっと深い哲理があって、それは恐らく「社会正義」だと思います。

佐野　日本建築協会の出している機関誌『建築と社会』の理念は、まさに「社会あっての建築」ですから、建築が社会のために、その専門知識を生かしていくことです。共通するお話ですね。

奥田　建築というのは手段なんです。目的は社会をどうしていくかが重要ですね。

佐野　そうなんです。社会に育てられたからこそ、恩返しをしなければいけないのが建築であると思います。

日本建築協会は90年目から先、100周年に向けて、あと10年。これから協会はどうあるべきかを「建築と社会」４月号のテーマにしています。これを節目に10年間継続する活動を推進するための「10年委員会」を発足させようとしています。

今回、大阪ロータリークラブと共催でデザインアイデアコンペを企画したように、今後社会に向けて、いろいろなことの提案もしてゆきたいと考えています。

奥田　まさに啓蒙活動ですね。

佐野　言葉だけではなくて、具体的な形によって「こうすべきではないか」という主張を語ろうと思います。

奥田　日本でも外国でもそうですけれども、長く続く、いい会社というのは理念とかビジョンがしっかりしているのです。ただ、それが紙に書いたもので残すのではなく、実行されることが重要です。

佐野　今日は貴重な時間をいただき、どうもありがとうございました。

（と　き：2007年２月26日／ところ：大丸本社応接室）

注）
※１　日本建築協会・大阪ロータリークラブ共催　デザインアイデアコンペ「都市の魅力をつくる―中之島の将来を考える―」
※２　ロータリー2660 地区IM6組「美しい大阪・美しい中之島」

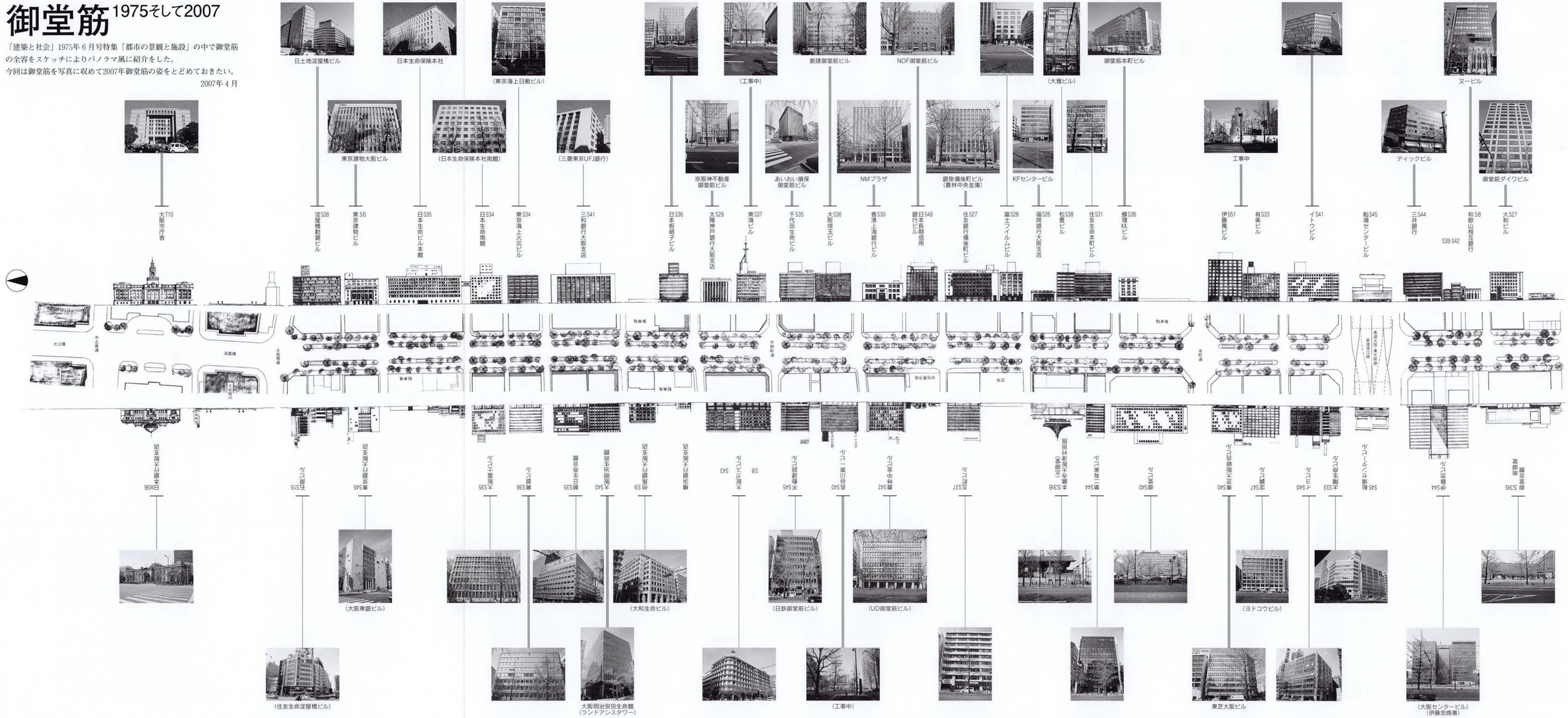
■奥田　務（大丸取締役会長兼CEO、関西経済連合会副会長、関西国際観光推進センター会長、大阪ロータリークラブ会長）
■佐野吉彦（社団法人日本建築協会会長、安井建築設計事務所社長）

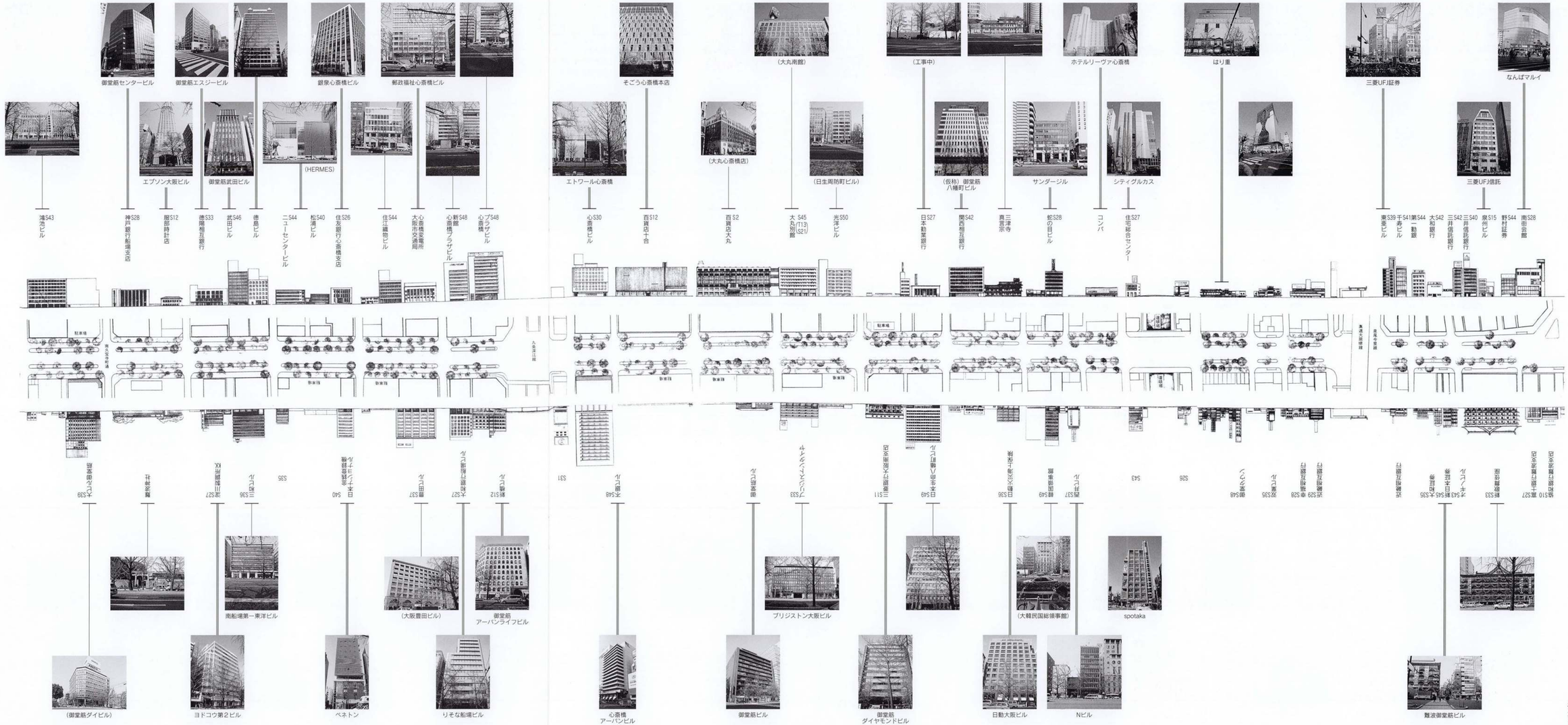
写真提供：建設通信新聞社　河合止揚

御堂筋 1975そして2007

「建築と社会」1975年6月号特集「都市の景観と施設」の中で御堂筋の全容をスケッチによりパノラマ風に紹介をした。
今回は御堂筋を写真に収めて2007年御堂筋の姿をとどめておきたい。

2007年4月





凡例

新建築及び建て替え

変更なし

ただし（名称）は建物名が変更

撮影：河合正揚

§3

〈日本建築協会年表〉

この10年の建築と社会

編集委員

●

田中直人

瀧野敦夫

川上比奈子

20世紀末から21世紀初頭にわたるこの10年は、国内外に多くの社会的課題が顕在化した時期であった。1995年の阪神大震災の教訓を活かした防災や地域コミュニティに関する取り組みが目立つが、その後も各地で地震や津波、洪水などの自然災害をはじめ、交通事故や火災、爆発事故、殺傷事件などが多発し、安全や安心を求める動きが加速されている。

建築関係ではアスベストやシックハウスの問題、建設資材やごみなどの環境問題をはじめ、構造耐力偽装や福祉基準適用の偽装など、建築士をはじめ建築関係者の社会的職能やモラル、責任の根本が問われる事件が多発している。また地球規模での温暖化が異常気象の多発の要因とも言われるなか、都市や建築のあり方が問われ、具体的な対策が急務となっている。

「建築と社会」90周年記念号の編集に当たり、これからの建築と社会の動きを予測し、あるべき姿を追い求めていく手がかりとして、年表を作成した。年表では建築協会の誕生した1917年から1996年までは協会での事業を中心にすえて、その流れを追っている。また1997年から2006年の10年間の動きは、①インテリア・建築②建築界の動向③環境④景観・まちづくり⑤福祉⑥安全と災害に大別して整理している。各年において、主要な出来事については解説を付しているが、これらの選択については、年表作成を担当した3名の委員の責任により決定した。各年における関係事項のピックアップの作業は、担当委員の所属する三大学のメンバーでワーキンググループを結成し、行った。

摂南大学ワーキンググループ
大阪大学ワーキンググループ
夙川学院短期大学ワーキンググループ

摂南大学人間・環境デザイン研究室

教授／田中直人
学生　宮井雄大
杉野嘉亮
大木麻美
河村明広
逆瀬川直樹
山雄安浩
吉田健一
岡田景子
野島香織
照崎一真
松下　翔
中尾千紗子
福西瑠衣子
福田由美
前川佳与子
江崎ゆう子
古野有紀子
井上英里加
尾﨑勇太
北村健太

大阪大学大学院工学研究科
地球総合工学専攻

助教／瀧野敦夫
学生　要友市郎
爰野将児
大仁香保里
笹倉陽子
加藤明香
中村洋志
酒井麻希

夙川学院短期大学美術・デザイン学科
インテリア住空間研究室

准教授／川上比奈子
助手／前田季実子
学生　小倉史江
倉田優衣
佐々木沙織
渡邉寛子
和田真実

写真提供

伊東豊雄建築設計事務所／竹中工務店／日建設計／日本設計／グラマラス
井倉雅子／奥野雄／加嶋章博／澤村喜久夫／田中直人／中村文紀／東出清彦／藤本壮介／宮本佳明／森田恭通／吉岡徳仁／米田充治／山田由美

年表レイアウトデザイン　前田季実子＋川上比奈子

日本建築協会の社会的活動

日本建築協会の動静

年	日本建築協会の社会的活動	日本建築協会の動静
1917		3/30 関西建築協会（現・日本建築協会）設立（片岡建築事務所内） 関西建築協会雑誌発刊　片岡安、初代理事長に
1918		
1919		日本建築協会と改称
1920		会誌を「建築と社会」と改題
1921		法制委員会成立
1922	桜ヶ丘で住宅改造博覧会	
1923	関東大震災調査	都市計画委員会発足
1924		
1925		
1926	協会社団法人認可（大正 15 年 10 月）	
1927		片岡安、初代会長に
1928	建築知識普及展覧会	
1929		住宅委員会発足
1930	婦人と住宅展覧会	
1931	**満州事変**	
1932	緑ヶ丘保健住宅博　大美野田園都市住宅博	15 周年記念号　日本建築協会紋章決定
1933	上野芝住宅博　建築講演会（ブルーノ・タウト）　千里山花壇附近住宅設計図案懸賞募集による博覧会	
1934		
1935		
1936		
1937		
1938	防空と建築展	
1939		
1940		
1941	**太平洋戦争始まる**	
1942	四会合併問題起こる　25 周年記念菖蒲池厚生住宅展	会旗制定
1943	「女性と住生活展覧会」・菖蒲池厚生住宅完成	菖蒲池厚生住宅展図譜
1944		「終刊号」3 月「建築と社会」休刊・4 月号以降「建築雑誌」を配布
1945	終戦・建築学会との合併は延期	
1946		片岡安会長死去　竹腰健造、会長に就任
1947	都市復興講演会	「建築と社会」1・2 号再刊　支部発足　「明日の都市復興」及び「大阪市区公館地区復興設計案」募集
1948		天神橋大阪建設会館に分室
1949		特集／大阪復興
1950	伸びる住宅展覧会　**神戸博 5 月**	
1951		
1952	35 年記念事業「羽衣住宅展」開催　ノイトラ講演会	
1953		特集／建築と美術　特集／水害 - 九州篇、和歌山篇、京都篇　創立 35 年記念史
1954	共催のワルター・グロピウス博士講演会・大阪ガスビル	
1955		
1956	公共住宅に関する陳情書	事務所を近畿建築会館に移転 日本建築学会近畿事務所、大阪府建築士会、日本建築家協会関西支部の事務を日本建築協会が受託


日本建築協会役員
1917 年



発刊の辞
1917 年


25 周年記念菖蒲池厚生住宅展
1942 年


通天閣
1956 年



様式の上にあれ
1919 年


桜ヶ丘住宅改造博覧会
1922 年 10 月


大美野田園都市住宅博覧会会場
1932 年 10 月

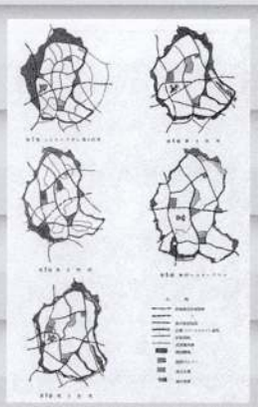
日本建築協会の社会的活動

日本建築協会の動静

	1957	
	1958	尾崎久助、会長に就任
	1959	特集／共同住宅
協会に「近代建築調査委員会」発足。1月号からスタート	1960	特集／近代建築論　特集／公共住宅
毎日放送テレビ番組「建築の広場」「建築に生きる人たち」を提供	1961	特集／居留地建築　特集／日本近代建築運動史
出版／ふるさとのすまい　1962年度「毎日出版文化賞」受賞	1962	
南海電鉄沿線に建つ新住宅設計コンクール　よろづ相談住宅展	1963	特集／地下街　特集／建築と芸術
工高生デザインコンクール１０周年記念作品展	1964	東畑謙三、会長に就任
	1965	
	1966	
「大阪城公園内に建つ休憩所」デザインコンクール当選案、後に大阪城内で実現 関西の建築50年回顧展　モントリオール万博視察団派遣	1967	日本建築協会創立50周年記念号
出版／建築データシート	1968	創立50周年記念事業記録号
超高層建築講演会	1969	特集／民家の系譜と保存計画 特集／建築史の方向－現代によみがえる過去－
第2回日本建築祭をお祭り広場で7月23日に挙行　出版／架構・空間・人間	1970	特集／日本万国博覧会と技術開発
	1971	塚本猛次、会長に就任　特集／転換期のﾆｭｰﾀｳﾝ
講演会「千日ﾃﾞﾊﾟｰﾄﾋﾞﾙ火災に学ぶ」	1972	特集／600号記念　建築ｸﾗﾌﾞ（朝食会）6月から復活
「建築と社会」のｼﾘｰｽﾞ頁「都市の開発的保存」が 鹿島研究所出版会のSD選書『都市の開発と保存』として上梓される	1973	特集／大阪大林ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ　特集／大阪国際ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ　特集／新用途地域制と環境
	1974	特集／歴史的環境保全
旧四会連合工事請負契約約款の改正	1975	特集／都市の景観と施設
建築と音楽（クセナキス・吉阪隆正・高橋悠治講演） 出版／ふるさとのすまい（復刻版）	1976	特集／証言’76－デザインの動向
建築データシートハンドブック版発刊	1977	建築と社会660号発行記念（日本建築協会60周年）
	1978	特集／組合方式による集合住宅計画
	1979	特集／転換期の再開発 特集／大阪南港ポートタウン
出版／大阪の近代建築ガイドマップ	1980	
	1981	特集／ポートピア’81
	1982	福田朝生、会長に就任 特集／絵本にみるすまいとまちづくり
	1983	協会事務所を大阪駅前第3ビルに移転
	1984	佐野正一、会長に就任　特集／21世紀への関西　特集／関西の超高層ビル
	1985	特集／大阪湾物語
日本建築協会賞創設	1986	特集／現代デザイン－ポストモダニズム10年
出版／昭和生まれ関西の建築家50	1987	創立70周年記念号
	1988	特集／建物の外装リフレッシュ　「建築と社会」800号記念
	1989	
第2回日本建築協会賞表彰 **バブル崩壊**	1990	特集／国際花と緑の博覧会
	1991	
出版／「建築と社会」復刻版	1992	特集／地球環境時代の建築
第3回日本建築協会賞表彰 出版／建築設計者のための設備知識　出版／「建築と社会」復刻版	1993	
出版／「建築と社会」復刻版	1994	特集／構造美　市川宏、会長に就任
阪神・淡路大震災　出版／「建築と社会」復刻版	1995	特集／新しい「都市・建築」の視点　特集／ライフラインと建築設備
	1996	特集／阪神大震災から学ぶ



『ふるさとのすまい』
1962年初版


千里ニュータウンマスタープラン
1962年1月


日本万博博覧会マスタープラン
1970年


建築と音楽
1976年11月15日　関電ホールにて


ポートピア’81特集より
1981年3月



ポストモダニズム10年特集より
1986年3月


ライフラインと建築設備特集より
1995年11月


関西国際空港旅客ターミナルビル
1994年

1997

インテリア・建築

建築界の動向

環境

凡例
- ● 出来事の始まった月を示す。
- ▮ 長期にわたる事業を示す。

1

▮ 小国町グリーンツーリズム

▮ 神戸市真野地区東尻池コート

● 新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法公布

● 障害者等情報処理機器アクセシビリティ指針（通産省）

● エコタウン事業創設

● 新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法施行

● 鹿児島県北西部地震（震度6弱）

6



京都駅ビル
原広司、アトリエ・ファイ建築研究所

▮ 三田市ほんまちラボ／関西学院大学との連携

● 環境影響評価（アセス）法公布

● 山陰・夢みなと博覧会



ハービス OSAKA
竹中工務店

● 宮城ゆめ博

国民一人ひとりが生涯にわたって安心して生きがいを持って過ごすことができる社会を目指して、あるべき高齢社会の姿を明らかにするとともに、高齢社会対策の基本的方向性を示すことによって、高齢社会対策を総合的に推進する。（平成７年11月８日成立）

温室効果ガスの削減を目的に気候変動枠組条約に基づき議決した議定書。しかし、経済大国であるアメリカ合衆国や近年急速な発展を遂げているインドや中国などの国々が盛り込まれていないなどの問題を抱える。

● トヨタ自動車のプリウス発売（世界初の市販量産ハイブリッドカー）

● LCAに関する日本工業規格（JIS-Q-14040）が発効



ゼンカイハウス
宮本佳明

● 高齢社会対策基本法

● 京都議定書

12



天竜市立秋野不矩美術館
藤森照信、内田祥士

景観・まちづくり

福祉

安全と災害

日本建築協会の動き

編集委員長　與謝野　久
第４回日本建築協会賞
・織物文化への貢献／（株）川島織物・南荘郎
・免震建物と免震効果の実証／（株）松村組・松村雄吾
・工高教育におけるCADの有効利用と普及に関する研究／秋田県立大曲工業高校・黒沢一元
・膜構造建築物の技術開発とその実用化並びに普及／太陽工業・能村博正
・実験集合住宅NEXT21／大阪ガス・領木新一郎（特別賞）
３月　創立80周年記念式典祝賀会
　　講演会／「建築は文化か文明か」清家清
４月号特集／80周年記念、建築と私と社会―80人の眼

1998

インテリア・建築

建築界の動向

環境

1

- 長浜市まちづくり役場
- からつ夢バンク
- 大垣市マイスター倶楽部／岐阜経済大学との連携

- **NPO法制定**

文化や福祉、環境保全、国際交流、まちづくりなど様々な分野において社会的な課題に自主的・主体的に取り組む民間の特定非営利活動を行う団体（NPO）に法人格を付与する。（1998年3月25日に公布、平成10年12月1日に施行）

- 明石海峡大橋　供用開始
- 大規模小売店舗法（大店法）の廃止
- 石垣島南方沖地震（震度6弱）

6



なら100年会館
磯崎新アトリエ

- **建築基準法改正**
（建築確認・検査の民間化・性能規定化）

阪神淡路大震災後の大幅な改正。近年、注目を浴びている建築確認・検査の民間化や性能規定（限界耐力計算）などはこの時の改正で盛り込まれている。

- **中心市街地活性化法**



HEP FIVE
竹中工務店

- パプアニューギニアで地震（M7）



岐阜県営住宅ハイタウン北方第一期
妹島和世建築設計事務所

中心地街地を面的に捉え活性化するため総合的対策の法的枠組みとして、「市街地の整備改善」と「商業等の活性化」を柱としている。（平成10年6月3日公布され、同年7月24日から施行）

- 岩手県内陸北部で地震（震度6弱）
- 地球温暖化対策の推進に関する法律公布



新潟市民芸術文化会館
長谷川逸子・建築計画工房

12

- 世界遺産／古都奈良の文化財



Ken's Dining 心斎橋本店
森田恭通・グラマラス
©Nacása & Partners Inc.

景観・まちづくり

社

福

安全と災害

日本建築協会の動き

編集委員長　宮田　照久

1999

インテリア・建築

建築界の動向

環境

凡例
- ● 出来事の始まった月を示す。
- ▮ 長期にわたる事業を示す。
- ＊ 読者と選ぶ「建築と社会」賞入賞作品

1

- ▮ 東大利地区　共同建て替えによる段階的面的整備（1994 年）
- ▮ 松江大学研究室まちづくり
- ▮ 二本松ワークショップによるまちづくり
- ▮ アートイン西陣
- ▮ 生駒駅前商店街活性化事業

- ● 南紀熊野体験博



瀬戸市立品野台小学校＊
日建設計

- ● エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）改正
- ● 地球温暖化対策推進法施行

- ● 建築基準法改正（建築確認・検査の民間開放、中間検査の導入）　施行

- ● 品確法公布

住宅の品質確保の促進と、消費者が安心して住宅を取得できる市場条件、住宅に係る紛争の処理体制を図ることを目的として、大きく瑕疵保証制度の充実と住宅性能表示制度の２つの制度が中心で構成されている。（平成 11 年 6 月 23 日に公布、平成 12 年 4 月 1 日から施行）

6



文化フォーラム春日井＊
安井建築設計事務所

- ● PFI法公布
（民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律）
- ● 関西国際空港２期事業着工（2007 年 8 月供用開始予定）
- ● 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）施行



八尾市立屋内プール＊
八尾市立建築総務課
昭和設計

- ● トルコ大地震（M7.4）
- ● 台風18号による被害
- ● 台湾大地震（M7.7）

Private Finance Initiative の略。公共サービスのライフサイクルコスト縮減のため、民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供をゆだねる手法である。

- ● ESCO推進協議会発足

Energy Service Company の略。省エネルギーの提案、施設の提供、維持・管理など包括的なサービスを行う事業のこと。



埼玉県立大学
山本理顕設計工場

12

- ● 世界遺産／日光の社寺
- ● ゴールドプラン 21
- ● 国際高齢者年の決議



バーバラードバー
森田恭通＋杉本貴志＋近藤康夫
©Nacása & Partners Inc.

景観・まちづくり

福祉

安全と災害

日本建築協会の動き

5 月号特集 / 関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる
7 月 「日本建築協会 80 年史」発刊

2000

インテリア・建築

建築界の動向

環境

1

- 墨田区向島地域芸術・文化活動
- 大阪南堀江・北堀江カフェブーム

- 公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針
- PFI法に基づいた日本初のPFI事業「茨城県常陸那珂港北ふ頭公共コンテナターミナル施設」整備及び運営管理事業
- 淡路花博「ジャパンフローラ 2000」
- 新ゴールドプラン終了



淡路夢舞台
安藤忠雄建築研究所

- 住宅の品質確保の促進等に関する法律 品確法施行
- 介護保険施行
- 消費者契約法公布

6



追手門学院食堂棟*
大林組

- 建築基準法改正（性能規定化）施行
- 循環型社会形成推進基本法
- 大規模小売店舗立地法 公布・施行
- 環境共生認定マンション



花と緑と自然の情報センター*
大阪市住宅局営繕部設計課
安井建築設計事務所

正式名は「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」で、公共交通機関を利用する高齢者、身体障害者等の移動に係る身体の負担を軽減することにより、その移動の利便性及び安全性を向上させることをめざす。（平成12年5月17日公布、平成12年11月15日施行）

- 新島・神津島・三宅島近海で地震（震度6弱）
- 三宅島噴火
- WTC崩壊
- 鳥取県西部地震（震度6強）
- 免震構法の告示化

ハイジャック機を利用したテロにより、ツインタワーが崩壊し、2749人もの犠牲者が出た。



大阪産業創造館
大阪市住宅局営繕部
東畑建築事務所

- 世界遺産／琉球王国のグスク及び関連遺産群
- 交通バリアフリー法施行
- 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律公布

12



せんだいメディアテーク
伊東豊雄建築設計事務所
©Nacása & Partners Inc.

景観・まちづくり

社

福

安全と災害

日本建築協会の動き

第5回日本建築協会賞
- 耐震診断及び改修計画の評定システムの策定と耐震診断の判定機構の確立 /（財）愛知県建築住宅センター・角岡照一
- 氷蓄熱及び躯体蓄熱空調システムの開発と普及 / 竹中工務店・竹中統一
- 建築情報管理に関する実践と啓蒙及び一連の著作等 / 建築文化研究所・菊岡倶也
- 永年にわたる都市・建築文化の調査研究・指導および実践により都市文化の向上とまち創りに貢献 / 彦根市長・中島一（特別賞）

1月　読者と選ぶ「建築と社会」賞創設

2001

凡例
- ● 出来事の始まった月を示す。
- ▮ 長期にわたる事業を示す。
- ＊ 読者と選ぶ「建築と社会」賞入賞作品

インテリア・建築



NHK 大阪放送会館・大阪歴史博物館*
日本設計
エヌ・テイ・ティファシリティーズ
シーザー・ペリアンドアソシエーツジャパン



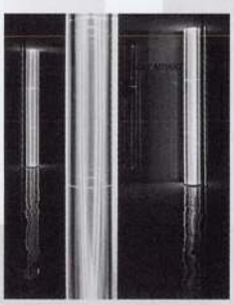
ビッグ・アイ
田中直人
建設省近畿地方整備局＋日建設計



八女市多世代交流館
青木茂建築工房



メゾンエルメス
レンゾ・ピアノ ほか



イッセイミヤケ
吉岡徳仁デザイン事務所
©Nacása & Partners Inc.

建築界の動向

1
- ● 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律施行

▮ 飯田市りんご並木整備と市民参加による再開発（1999〜2001）

6
- ● 消費者契約法公布

北九州博覧祭 2001、うつくしま未来博とほぼ同時期に行われた地方博覧会。ゴミを出さないことを徹底し、環境に配慮した博覧会となった。

- ● 北九州博覧祭2001
- ● うつくしま未来博
- ● 山口きらら博

- ● 公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン策定（国土交通省）

12
正式名「高齢者の居住の安定確保に関する法律」は、高齢社会の急速な進展に対応するために、高齢者向けの住宅の効率的な供給を促進するとともに、高齢者の入居を拒まない住宅の情報を広く提供するための制度の整備等をめざす。（平成 13 年 4 月 6 日に公布、平成 13 年 10 月 1 日に全面施行）

- ● 高齢者居住安定確保法の制定
- ● 「新しい高齢社会対策大綱」を策定

環境

- ● インド西部地震（M7.9）
- ● 2001年芸予地震（震度6弱）
- ● グローバルグリーンズ憲章
- ● 家電リサイクル法施行
- ● 東京都が改正「自然保護条例」を施行（屋上緑化の促進）
- ● 大教大附属池田小児童殺傷事件
- ● 東京都歌舞伎町の雑居ビル火災

景観・まちづくり

福祉・社会

安全と災害

日本建築協会の動き

7月　会長　金多潔

2002

インテリア・建築

建築界の動向

環境

1



大阪市中央公会堂の保存・再生*
大阪市住宅局営繕部
坂倉・平田・青山・新日設
設計共同企業体

● 奈良女子大学との共同による生駒駅前商店街活性化事業

CM（コンストラクション・マネジメント）方式とは、建設プロジェクトにおいて、発注者の補助としてコンストラクションマネージャーが技術的な中立性を保ちつつ、所期の目的に向かって円滑に事を運ぶための行為のこと。

● 国土交通省「CM方式ガイドライン」

● 阪神淡路大震災記念「人と防災未来センター」



湊町リバープレイス*
大阪市住宅局営繕部企画課
安井建築設計事務所

省エネや省資源・リサイクル性能といった環境負荷削減の側面はもとより、室内の快適性や景観への配慮といった環境品質・性能の向上といった側面も含めた、建築物の環境性能を総合的に評価するシステムである。

● CASBEE事務所版完成

● 土壌汚染対策法公布

● アルミニウム建築構造の告示化

● コンクリート充てん鋼管造（CFT）の告示化

6



兵庫県西播磨総合庁舎*
設計組織 ADH+ 法政大学渡辺研究室
兵庫県企業庁科学公園都市設備課

● 入札談合等関与行為の排除及び防止に関する法律公布

● 大阪駅北地区が都市再生緊急地域に指定

● 高さ 100m を超える免震住宅



京都アクアリーナ*
京都市都市局営繕部営繕課・設備課
京都市建設局水と緑環境部緑政課
仙田満＋環境デザイン研究所
團紀彦建築設計事務所

● 建築基準法改正（シックハウス対策のための規制の導入）公布

シックハウスの原因となる化学物質の室内濃度を下げるため、対象は住宅、オフィス、病院をはじめとするすべての建築物の居室で、使用する建材や換気設備を規制するため建築基準法が改正された。（平成 15 年 7 月 1 日に施行）

今後の老朽化マンションの急増に対応して、区分所有者による良好な居住環境を備えたマンションへの建替えを円滑化し、民間が主体となった都市の再生を図るため、マンション建替組合の設立、権利変換手法による関係権利の円滑な移行等を内容とする新たな法制度を整備。（平成 14 年 6 月に公布、同年 12 月に施行）

12



丸の内ビルディング
三菱地所設計

● マンション建替え円滑化法

● 国立市景観のため新築マンション取り壊し判決

● 障害者基本計画



横浜港大さん橋国際客船ターミナル
foa

景観・まちづくり

社

福

安全と災害

日本建築協会の動き

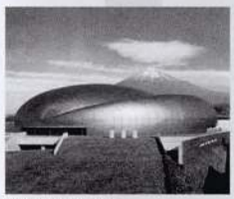
編集委員長　設楽貞樹
9 月　日本建築協協会ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの開設
12 月号特集 / 大阪市中央公会堂の保存・再生

2003

凡例
● 出来事の始まった月を示す。
＊ 読者と選ぶ「建築と社会」賞入賞作品

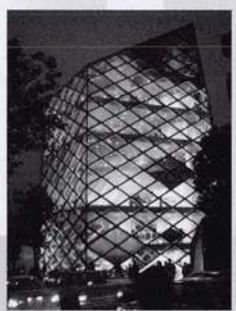
インテリア・建築


オアシス 21*
大林組


静岡県富士水泳場*
昭和設計


ジーニス大阪
東畑建築事務所


ルイヴィトン六本木ヒルズ店
青木淳建築計画事務所


プラダ ブティック 青山店
ヘルツォーク&ド・ムーロン
アソシエートアーキテクト
竹中工務店

建築界の動向

1
- 建築基準法改正（シックハウス対策のための規制の導入）施行
- 入札談合等関与行為の排除及び防止に関する法律施行
- グループホーム
- 指定確認検査機関で初の破産
- 国内最大規模の木造トラス屋根架構を有する「愛媛県武道館」竣工
- 大阪球場跡地になんばパークスオープン
- ハートビル法改正（1994,9 施行）
- 六本木ヒルズがオープン

痴呆性高齢者ケアの切り札として福祉・医療・民間企業をはじめ、さまざまな分野から事業化への関心が高まる。

6
- 新障害者プラン
- 身体障害者補助犬法

1994 年に成立したハートビル法を、バリアフリー化の努力を求める建物に拡大したほか、デパートなど不特定多数が利用する建物や老人ホームなど高齢者や身体障害者が利用する建物のうち、政令で定める規模（2000 平方メートル以上）の建物、及び地方自治体が条例で定める建物のバリアフリー化が義務づけられた。(2002 年 7 月に公布、2003 年 4 月に施行)

- シックハウス対策に係る法令等施行
- 「大阪駅北地区全体構想」策定

12
- 世界一の超高層ビル「TAIPEI101（台北国際金融センター）」オープン

環境

- 土壌汚染対策法施行
- 宮城県沖で地震（震度6弱）
- 2003年宮城県北部地震（震度6強）
- 朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故
- 2003年十勝沖地震（震度6弱）
- イラン、ケルマーン州バムで大地震（M6.7）

景観・まちづくり

福祉・社会

安全と災害

日本建築協会の動き

4月　会長　佐野吉彦
12月号特集／第 50 回青年技術者＋青年技術者顕彰 50 年

2004

インテリア・建築

建築界の動向

環境

1

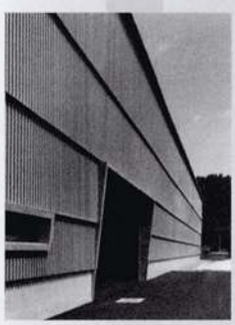
景観法を創設

● ランドスケープ事務所が急成長

都市、農山漁村等における良好な景観の形成を図るため、良好な景観の形成に関する基本理念及び国等の責務、景観計画の策定、景観計画区域、景観地区等における規制、景観整備機構による支援等を定めた我が国で初めての景観についての法律（平成16年6月18日公布、平成16年12月17日施行）

六本木ヒルズ回転扉事故

6歳の男児が正面入口の大型回転ドアに挟まれ死亡する事故が発生した。これを機に、大型ビルの回転ドアで事故が多発していることが分かり、全国に自動ドアの安全性を見直す動きが広まった。



国分寺文書センター*
竹中工務店

● しずおか国際園芸博覧会「パシフィックフローラ2004」

6

● 自動回転ドアの事故防止対策に関するガイドライン

● 世界遺産／紀伊山地の霊場と参詣道



COCON
隈研吾建築都市設計事務所

● 大阪駅北地区まちづくり基本計画



金沢21世紀美術館
妹島和世＋西沢立衛・SANAA

● 紀伊半島南東沖地震（震度5弱）
● 台風18号による被害



竹中工務店東京本店新社屋
竹中工務店

● 新潟県中越地震（震度7）

● 逆デイサービス
● ユニットケア

● スマトラ島沖地震（M9.3）大規模な津波被害
● 釧路沖で地震（震度5強）

12



Iisn
野井成正デザイン事務所
©山田誠良

● 景観行政団体

景観・まちづくり　福祉　安全と災害

日本建築協会の動き

第6回日本建築協会賞
・戸建免震住宅の研究開発とその実用化並びに普及／（株）一条工務店・山本庄一
・永年に亘る建築関連書籍の出版／鹿島出版会・荒井欣弥
・大阪市中央公会堂の保存と再生、活用「大正浪漫を次世代へ」／大阪市長・關淳一（特別賞）
・二十一世紀の都心「六本木ヒルズ」の実現／森ビル（株）・森稔（特別賞）
2月　国立国際美術館見学会
6月　第3ビルから大阪マーチャンダイズ・マートビルへ移転
10月　“近代建築は関西がおもしろい”シリーズ講演会、見学会開始

2005

インテリア・建築

建築界の動向

環境

凡例
● 出来事の始まった月を示す。
＊ 読者と選ぶ「建築と社会」賞入賞作品

1

● E-defence（実大三次元震動破壊実験施設）披露式

● 日本初の PFI 事業による病院「高知医療センター」が開院

● 「愛　地球博」開催

● 福岡県西方沖地震（震度 6 弱）

● 火山防災マップ

● エネルギーの釣合いに基づく
耐震計算等の構造計算（エネルギー法）

● 鋼鉄製橋梁の談合事件

● 千葉県
ユニバーサルデザインの指針を策定



愛 地球博　長久手日本館
日本設計

● 石綿 (アスベスト) 問題への対応

● 世界遺産／知床

● 千葉県北部地震（震度 5 弱）

● 「ユニバーサルデザイン政策大綱」
公表（厚生労働省）

ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、生活環境や連続した移動環境をハード・ソフトの両面から継続して整備・改善していくという理念に基づく国土交通行政を推進するため策定。
（平成 17 年 7 月）



京都迎賓館
日建設計
©村井修

6

● 宮城県南部地震（震度 6 弱）

● 台風 14 号による被害



長崎医療センター＊
国立病院機構本部財務部施設課
＋安井建築設計事務所

● 障害者自立支援法成立

● 改正耐震改修促進法公布

● 耐震偽装（姉歯事件）

1 級建築士が行った構造計算書の偽装を、建物の建築確認・検査を実施した行政および民間の指定確認検査機関が見抜くことができず、建築基準法に定められた耐震基準に満たないマンションやホテルが数多く発覚した。



田原本青垣生涯学習センター＊
東畑建築事務所

12

● 洪水防災マップ



高島市立静里なのはな園＊
徳岡昌克建築設計事務所

景観・まちづくり

福祉

安全と災害

日本建築協会の動き

1 月号特集 / 震災から 10 年～震災により生まれた都市再生の潮流～
7 月号特集 /1000 号記念号

2006

インテリア・建築

建築界の動向

環境

1

- 改正耐震改修促進法施行
- 防衛施設庁談合事件
- 表参道ヒルズの再開発
- 旧同潤会青山アパート建て替え
- 東横イン不法改造問題法律・条例違反
- 神戸空港開港



神戸空港
神戸市みなと総局
梓設計

- 長崎さるく博'06
- 省エネルギー法
- 伊豆半島東方沖地震（震度6弱）
- 京都高さ規制 45mから31mへ
- 高齢者雇用安定法
- 介護保険制度改正
- ジャワ島中部地震（M6.2）

6



大阪弁護士会館
日建設計＋日建スペースデザイン



登別のグループホーム
藤本壮介建築設計事務所

相次いで官製談合事件が発覚し、都道府県知事が特定業者に落札させる入札妨害を行い、3カ月の間に3人の知事が逮捕されるという異例の事態となった。

- 福島県での官製談合
- 和歌山県での官製談合
- 宮崎県での官製談合

- ふしみ野市プール事故
- 地震時の避難マニュアル
- つやざきショッピングプラザ エスカレーター事故
- 高齢者と熱年男性が目立つ（2005年の住宅火災死者）



表参道ヒルズ
安藤忠雄建築研究所

- 新東京タワーのデザイン

12

- バリアフリー新法

正式名、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律。建築物及び敷地内での規制であった「ハートビル法」と駅舎などの交通公共機関内での規制であった「交通バリアフリー法」を統合。社会のバリアフリー化を「点」から「面」に広げる。
（平成18年6月21日公布、同年12月20日施行）



青森県立美術館
青木淳建築計画事務所

景観・まちづくり

社会

福祉

安全と災害

日本建築協会の動き

11月　デザインアイディアコンペ「都市の魅力をつくる―中之島の将来を考える―」作品募集
8月号特集 / 建築物の安全・安心
講演会「建築物の耐震強度偽装問題 / その背景と今後の展望」巽和夫

これからの10年
2007年～

ユニバーサル社会をめざして

田中 直人

本格化する少子高齢化に対応した、社会環境の整備も急がれている。これまでの福祉のまちづくりは、ノーマライゼーション理念の確立・浸透、高齢者や障害者のバリアの解決を目指したバリアフリーデザインで、様々な課題を抱えながらも着実に発展してきた。現在では全国の主要な自治体において、独自の条例や要綱を制定し、国では1994年にハートビル法を公布し、2000年に交通バリアフリー法も制定した。さらに2006年にはこれらの2つの法律を統合し、これまでの点としてのバリアフリー化から、地域一帯を“面”としてとらえるバリアフリー化を進めることになるバリアフリー新法が成立している。

このようなバリアフリーの取り組みの一方、すべての利用者にとって使いやすいものとしてユニバーサルデザインが登場し、新たな都市像が求められるようになった。しかしユニバーサルデザインといいながらも個々の場面では依然として、従来のバリアフリーを超えられない状況も多い。さらにユニバーサルデザインでなく、すべての人がいきいきと暮らせるユニバーサル社会づくりをめざそうという動きが顕著である。しかしながら家庭や近隣地域、学校においては暴力やいじめ、トラブルが続出し、簡単に人を傷つけたり、自殺する事件が止まない。建築や都市の物理的な環境整備のみならず、人間社会の再構築をめざした動きも期待したい。

景観法の制定に代表されるように、もとの地域環境の資源を活かし、美しい街並みや個性ある建築やまちづくりを実現する取り組みが期待される。これまでのスクラップアンドビルドの新しきデザイン志向だけでなく、古き味わいを活かす再生や転用のデザインも今後本格化すると予測される。

これからの時代のキーワードとしてはより一層、人間と環境のあるべき関係が重視されるが、新技術や情報に流されることなく、元来の伝統的な価値観や感性にも目を向けた、すべての人の基本的な生活を保障する社会的な規範や文化的センスなどの調和が求められる。

安全と災害、環境問題を考えて

瀧野 敦夫

構造問題については、1998年に建築確認・検査の民間開放や性能規定化などを盛り込んだ建築基準法・同施行令の大幅な改正が行われ、性能設計における一つのツールとして限界耐力計算が基準法に新たに盛り込まれた。しかし2005年に発覚した耐震偽装問題を機に、確認検査機関のずさんな管理体制や一級建築士による認定プログラムを悪用したデータの改ざんや、許容応力度等計算や限界耐力計算といった設計法の違いによる耐震性評価の違いなど、現状の問題点が新たに数多く浮き彫りにされた。これらを踏まえ 2006 年6月に建築基準法が再び改正され、1年後の施行に向けて細部の規定見直しが緊急に進められているが、最も重要なことは個々の技術者の倫理観であり、これまで真面目に取り組んできた技術者にとって有益な制度の実現が望まれる。

環境問題については、1997年に議決された京都議定書が2005年に発効され、地球環境問題への注目が急激に加速した10年でもあった。日本は、京都議定書において1990年ベースで6％の温室効果ガス排出量削減の目標を掲げるも、2005年度の報告書では逆にプラス8％と増加傾向にあり、具体的な解決案はいまだはっきりと見えていない。近年では、日本国内はもちろんのこと世界各国において異常気象が目立つようになり、今まではあまり実感のなかった環境劣化が急速に進んでいる事態を目の当たりにさせられている状況である。多くのエネルギーを消費する建築業界でも ISO14000 シリーズの取得や現場での産業廃棄物の分別、リサイクルの促進、耐震改修・リニューアル・コンバージョン等の地道な努力を始めている。これら建築業界での省エネルギー化に対する取り組みによって、地球温暖化問題に対してどれほどの効果が得られるのかは現段階では未知数であるが、これからもこのような継続した活動やさらなる技術開発が必要とされるであろう。

社会性とファッション性の相克を超えて

川上 比奈子

1997年から2006年までの年表にあげたインテリア・建築の作品写真は、90周年特集編集委員会の意向により、まず読者と選ぶ「建築と社会」賞の入賞作品を再掲載し、次に関西圏の作品を優先的に選択、最後にエポックメイキングとなる作品を若干取り上げる、という選定基準に従っている。

読者と選ぶ「建築と社会」賞は、社会性に配慮した建築作品を顕彰するもので、入賞作品に共通する傾向は、景観との調和、優れた環境性能、歴史的建築物の保存・再生、地域に開かれた公共性などである。デザインの新奇性より社会性を重視する協会創立以来の理念は、これまで、他の建築雑誌、特に全国区の商業誌とは全く違うスタンスを示すと捉えられてきた。しかし近年、他誌も同傾向を示し始めている。ポストモダン、バブル崩壊、阪神・淡路大震災を経て、建築界全体が環境配慮や公共性、持続性を、以前にもまして重視せざるをえなくなったからであろう。言い換えれば、本協会に貫かれた理念に時代が沿ってきたとも言える。

一方で、別なる傾向、例えばファサードを重視するブランドショップやイリュージョンの限界に迫る商空間が百花繚乱となった現象も無視できない。それらには、環境性や公共性とは真反対のファッション性が読み取られがちだが、人間の空間意識そのものを対象に、概念と実作の関係性を問い直す試みが、繰り広げられてもいる。

つまりこの10年には、地球環境と弱者を同時に守ろうとする姿勢と、デザインの可能性を掘り返そうとする姿勢が拮抗する側面があった。今後10年は、これらの傾向を対立させるのでなく、相互に浸透させながら、柔軟な発想で難題を乗り越えようとする世代が育ち、新しい局面を迎えるはずである。

§4

〈日本建築協会と建築界と社会〉

大正から昭和へ、日本建築協会が果たした役割の一断面

坂本勝比古

日本建築協会がこのたび創立90周年を迎えたということに、その強靱な生命力に改めて敬意を表したいと思う。もちろんその間に幾多の浮沈を繰り返してきたが、それをいつも支えたのは歴代会長以下会員、職員の諸兄であった。

この小論を書くに当たり、今から90年前の創立当時の記録を読み返してみて、改めてその遠大な目標と時代を変えたいという意気込みを、ひしひしと感じとることができる。またこのような協会の歴史を語り、会員相互の信頼と共感を繋いできたものは、「建築と社会」であった。創刊以来この４月号で1021号を迎えたというこの機関誌は、まさに日本の近代建築史を映す鏡にもたとえられるものである。ある時は関東大震災の報道を通じて都市の防災と安全を説き、また常に変わらぬ市民の住環境改善のため住宅改造博覧会（大正11年）、婦人と住宅に関する展覧会（昭和５年）などとなり、また建築思潮に関しては、関西を中心とした時代の先端をいった会員の建築家たちの率直な意見が紹介されてきた。

今回は紙面の都合もあり、極端にテーマをしぼって、箕面桜ヶ丘で開催された住宅改造博覧会と昭和戦前の大阪モダニズム建築について若干の所見を述べ、日本建築協会が果たしてきた大きな役割の一断面を概観したい。

未来へ続く 箕面桜ヶ丘の住宅改造博覧会

日本建築協会の創立以来一貫した主張は、住宅改造への取り組みであった。その初期の段階における決定的なイベントは、この住宅改造博覧会である。この博覧会は奇しくも東京上野で同じ年に開かれた平和記念東京博覧会における文化村出品住宅と比較することができるが、東京の場合は東京府が主催したいわば官の行事であったが、大阪の場合は、全く官の助成を受けない民の行事であった点で、当時の協会の実力、そして大阪の民のエネルギーの高さを感ぜざるを得ないのである。大正11年、大阪で開催が予定された時、最初の会場は天王寺公園が候補に上っていた。もしそうであったならば、その結果は東京と同じ仮設の住宅展示で終わった恐れがあったであろう。

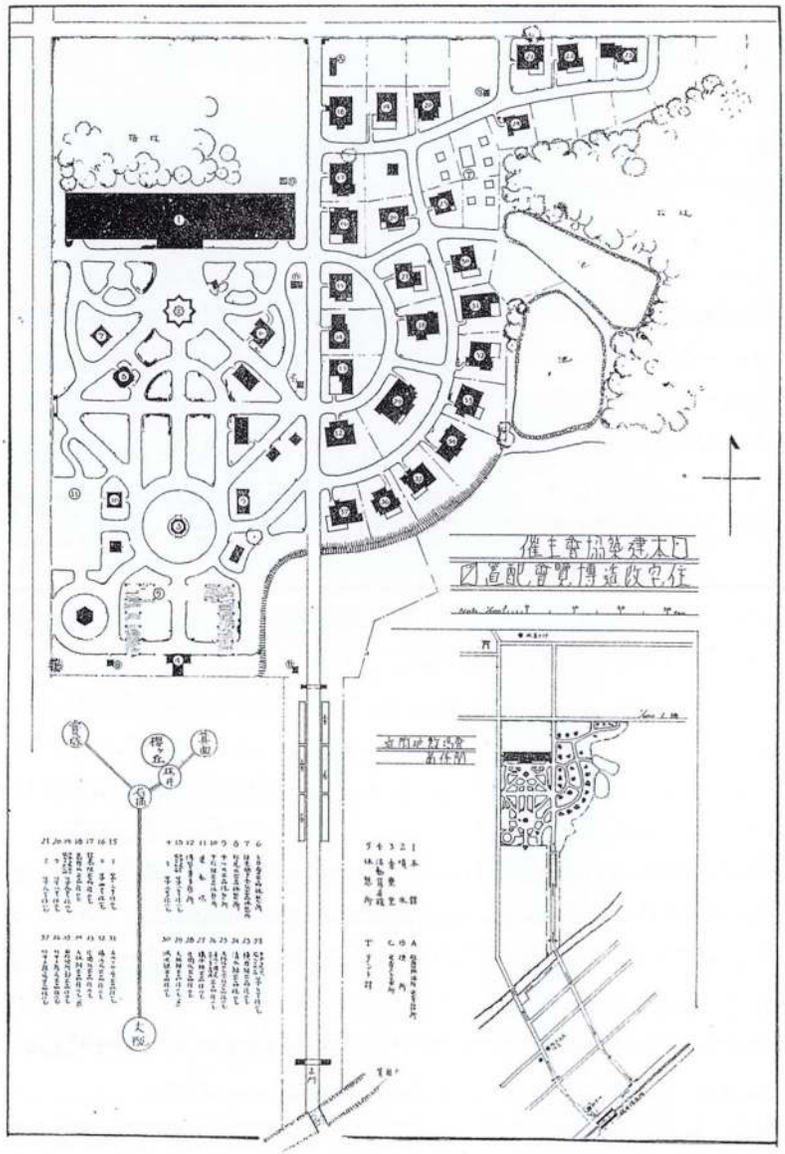
しかし幸運とでも言うべきか、天王寺公園の案は潰えて箕面の土地が浮上したのであった。このような変更が誰の発案でなされたのか不明であるが、恐らく当時の首脳部であった片岡安、葛野壮一郎、横濱勉、宗兵蔵らの合議で決まったものであろう。

この博覧会の幹事長として活躍した葛野壮一郎は、大正10年12月号で「住宅改善の要諦」として“その要諦は土地其のものゝ整備から出発しなければならぬ、交通の便利、道路の整備、上水下水の完備、瓦斯、電灯、電話其他家庭用動力の安価な供給が必要であり、家は従で寧ろ土地が主であり、市内市外を論ぜず、住宅地其物の整備が無い限りは完全な改良住宅は到底求められない”とした。この主張は博覧会が開かれた大正11年の前年末に載せられたものであり、彼のこの意見は、すでに桜ヶ丘住宅地の整備を予測したとも思われる発言であった。実際、箕面桜ヶ丘の住宅地は、すでに阪急電鉄が明治43年石橋～箕面間を開通させており、同電鉄が経営した桜井駅や桜井住宅地に近い位置にあるので、まさに理想的なロケーションにあったと言える。

この敷地を入手するに当たっては、地主であった田村真策の協力があった。田村真策は栃木県出身、大阪に出て先代田村伊之助の養子となり、松沢常吉商店社長で香料の輸入商であった。田村は地所部を設け、予定地の道路計画、配置計画などは当時としては斬新なものであった。この博覧会の成功の一因は、仮住まいの住宅展示でなく、その土地や環境にしっかり根を下ろした、実際に住むことができる臨場感のあるモダーンな住宅を建てることができたからにほかならない。

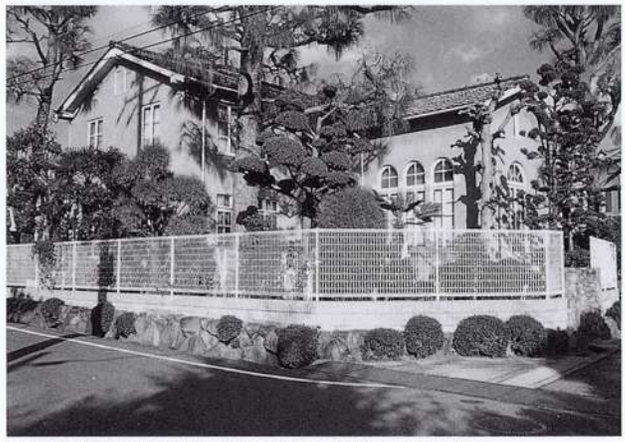
この住宅博の開催について、建築協会は戦略として改良住宅懸賞設計と題した住宅コンペを行い、入選作を実物展示するという方針を打ち出した。これにより、実際に２回にわたるコンペでの入選作８点を協会出品作品として展示することができた。これは画期的なことで、若い建築家たちに大きな刺激を与えることとなった。

さらに出品に当たって設計を担当した設計事務所は、片岡、横河、真水・三橋、葛野建築事務所、あめりか屋に加え、大手請負会社



「住宅改造博覧会」会場配置図と出品第1号住宅
（大正11年10月発行「住宅改造博覧会出品住宅図集」より）





現存する第1号住宅（1998年11月28日、撮影／坂本勝比古）

の竹中工務店、大林、鴻池、錢高、橋本組など実績のある会社に参加を求めている点で、それぞれ質の高い住宅を出品し、加えて家具装飾、電灯、給排水設備、庭園整備、なかには暖房装置を調えたものもあって、中流住宅と言いながらかなりレベルの高い住宅として完成させたことである。したがって建築費の合計は、土地を含め１棟当たり10,000円～15,000円前後、なかには20,000円前後（土地100坪～150坪を含む）に達するものもあった。そのため全部が一度に売却されることにはならなかったが、10月１日から11月26日までの約２カ月間で７万余人の見学者が訪れ、10月８日の開会式には総裁として後藤新平子爵を招き、関一大阪市長の祝辞など盛況であったと言われる。協会としてはこの事業を遂行するに当たって、総予算を25万8,000円とし、その半額に近い11万5,000円に上る額が寄付金として集められた。いずれにしてもこの博覧会は、後に各地で進められた郊外住宅地開発に大きな影響を与えたと言えるのではないかと思う。

なお、現在箕面市桜ヶ丘地区となっているこの地は、今でも優れた郊外住宅地であるが、博覧会が開かれた地区には現在もいくつかの住宅が残されており、そのうち建築協会出品住宅第１号、第６号と鴻池組出品住宅、さらに住宅博終了直後に地区内に建てられた住宅１棟の計４棟が、箕面市と住民の努力で箕面市都市景観条例に基づく都市景観形成建築物に指定され、併せて文化財保護法に基づく登録文化財に指定されて、歴史的景観保全に貢献している。まさに建築協会が理想に燃えてつくりあげた遺産が、現代に受け継がれ、未来へ語り継がれる証しとして生き続けているのである。

なお、この博覧会については、日本建築協会創立70周年記念出版「住宅近代化への歩みと日本建築協会」（企画・編集　日本建築協会創立70周年記念住宅展委員会、1988年５月12日発行）に詳しい。

■ 新鮮なモダニズムへの視点

わが国の近代建築史のなかで大きな変化のひとつは、新鮮なモダニズムの登場であった。

分離派建築会

このモダニズムに先立った動きとして、大正９年（1920）の分離派建築会の動きがあった。これは過去の様式建築からの分離を意味したウィーンのO．ワーグナーの動きにならったものであったが、その造型的表現はドイツ表現派や構成主義の流れを汲むものであった。その分離派建築会（森田慶一、滝沢真弓、石本喜久治、山田守、堀口捨己、矢田茂）のうち３人までが、後に関西で活躍することとなった。すなわち、森田慶一は京都大学で

建築論を講じ、傍ら楽友会館の傑作を残している。滝沢真弓は神戸高等工業学校教授として建築論を開講するが、建築協会の行事にもしばしば参加して多弁であった。石本喜久治も一時期竹中工務店に籍を置き、山口銀行東京支店や朝日新聞東京本社などを手掛けた後、独立している。石本は後に片岡安と連名で事務所を営むこともあった。またこの大正9年東大卒の組では、ほかに中沢誠一郎が大阪府建築課長、尾崎久助は日建設計工務㈱社長として関西に移り、尾崎は竹腰健造のあとを継いで、日本建築協会の第三代会長を務めている。

インターナショナル建築会

関西のモダニズムのなかで注目される動きに、インターナショナル建築会の活動があった。この活動は昭和2年7月2日（1927）6名の建築家（本野精吾、上野伊三郎、伊藤正文、石本喜久治、新名種夫、中尾保）が京都に会し、日本インターナショナル建築会設立の宣言と綱領とを日本及び外国に発表し、インターナショナル建築の日本における発展を志した。また、この時パリに在った中西六郎も発起人のひとりとして、欧州各国の建築家と意見の交換を行い、多くの賛同を得た。その外国会員にはブルーノ・タウト、E. メンデルゾーン、G. リートヴェルト、J. ホフマン、J.J.P. アウト、P. ベーレンス、W. グロピウス、A. リュルサ、R. ノイトラなどそうそうたる顔ぶれが名前を連ねることとなった。

このほか日本の会員では本多正道、竹内芳太郎、南信、桐本楠雅、貞永直義、平松太郎、安井武雄、今和次郎、蔵田周忠、西村辰次郎、小川安一郎、川口一二、武藤武夫、富士岡重一といった人々の参加があり、他にも多くの入会者を得ていた。

当時を回想して発起人のひとりだった上野伊三郎は、つぎのように述べている。「会員は最初京都、大阪在住の者のみであった。他に外国の同一傾向の建築家に呼びかけの手紙をだしたところ、それぞれ激励の返事がきて、外国会員たることを承諾した。ブルーノ・タウト教授が来日にいたった機運はこのときに結ばれたものであった」とし、さらに「会の活動は年に1～2回の公募展を開くようになって若手建築家の応募で盛況をきわめるにいたり、大阪三越の展示場を満たした。作品写真、模型、設計図、試作家具等が主であった」と、その活動の実態を述べている。（日本インターナショナル建築会、上野伊三郎、「建築と社会」1961年12月号）

タウトが来日したのが1933年5月3日であり、日本建築協会は早速5月10日、朝日新聞社の後援を得て朝日会館で新興建築講演会を開き、超満員の参加者のなかで、竹腰健造が開会の辞を述べ、中西六郎、中尾保、滝沢真弓、村野藤吾が話した後、タウトが登壇して、“日本建築と西洋建築との関係に就いての第一印象”と題して講演、池田實が閉会の辞を述べるなど、タウトの来日を歓迎した。また、朝日新聞主催の下で新興建築展覧会が開かれている。

*

昭和初期の大阪で、モダニズム建築の代表的作品が相次いで誕生した。わが国の建築のモダニズムは、昭和戦前から戦後の昭和時代を通して長く続くが、昭和初期のモダニズムは、長い様式建築の歴史を変える動きとして新鮮な感覚で受けとめることができる。ここに紹介する三つのモダニズム建築は、その典型とも言えるものである。

石川純一郎

そのひとつは堂島川河畔、渡辺橋に面して建った大阪朝日ビルディング（昭和6年）である。この建物は竹中工務店設計部にいた石川純一郎（大正11年東大卒）の設計になるものであった。SRCの構造で、地下2階、地上10階の建物はシンプルな無装飾のデザインでまとめられている。全体のデザインとしては東北のコーナー部分を放物線状の曲面とし、各階に帯状の横線が繰り返し強調され、屋階には塔状のペントハウスがあって、あたかも船のブリッジを思わせる構成で、斬新さが強調されている。外壁は小型のモザイック白タイル貼りとし、1階より3階手摺りまでをニッケル・クローム鋼（ステンレス・スチール）板を貼りつけたメタリックな材質感は、現代的なイメージを与えている。



大阪朝日ビルディング（昭和6年）

筆者はかつて、石川純一郎にこの建物の設計意図についてお尋ねしたことがあった。その折の説明では、“ステンレスを用いた第一の理由は、朝日新聞社の社長だった村山長挙氏（村山竜平翁の娘婿）から「商業建築というものは、骨組は本来しっかりしたものでなければならないが、外装などは時代の推移とともに変化していってもよいのではないか」といった考え方があって、自分もこの考え方に賛同し、同じやるからには当時としてはほとんど使われていなかった金属性材料を思い切って使用し、それも良質のニッケル・クローム鋼やアルミニウムを用いることとした。当時はこれらのメタル製品はまだ発展途上のものであり、今日では一般化しているが、その実用化については、非常に苦心を払ったものだった。例えば耐錆力や強度、硬度など、品質の検討や加工、組み立てなどの工夫の問題があった”と当時を思い起こしての苦労話を伺ったことがあった。


石川純一郎　撮影／坂本勝比古
1967年12月11日　於 大阪ガスビル8階食堂

安井武雄

御堂筋に面して完成した大阪瓦斯ビルディング（昭和８年）を、当時の「建築と社会」では白哲の巨人の姿が御堂筋に現れたと評した。これは設計者安井武雄が自ら称した「使用目的及構造に基ける自由様式」の言葉の通り、近代的なオフィスビルの真価をいかんなく発揮した建物と言える。外壁は下層部分を黒色の稲田石を用いて安定させ、上部全面を磁器タイル貼りの白色とし、コントラストを強めている。各層間は鼠色の磁器タイルを貼って水平線を強調し、縦の線は、連結する窓の間に白磁のタイルによる縦の方立を入れて立体感を出し、シンプルで簡素、明快な構成は見事である。建設当時、周辺の低層木造の町屋建築群のなかですくっと建つ姿は、まさに白亜の殿堂の趣にふさわしいものであった。



大阪瓦斯ビルディング（昭和８年）



安井武雄　安井建築設計事務所提供

なお昭和41年、この建物の北側に大阪ガスビル新館が建てられた。優れた既成の建物に増築することは大変困難な思いをするものであるが、この場合は、その困難を十分にクリヤーした表現でまとめられているのは見事である。設計を担当したのは安井武雄の女婿であった佐野正一、公私ともに私淑したであろう佐野にとって、苦心のうえでの傑作と言えよう。

彼はこの新館を受け持つに当たって次のように語っている。“これに増築するについては安易な木に竹を継ぐ仕事をしてはなるまい。安易な考えでは新館とともに本体のデザインをも損なうことになる。私のしたことは、この際もう一度大阪ガスビル設計の原点に還って安井の設計を詳細に見直し、通すべきは通し、守るべきを守って新館設計に当たることで、これが出発点となった。”（建築画報2000.4.36巻）と。

村野藤吾

やはり御堂筋に面して建った百貨店そごう（昭和10年）である。建物は残念ながら現存しないが、昭和戦前期の大阪に建ったモダニズムの数少ない傑作のひとつであった。村野藤吾はかつてこの建物を引き受けるに当たって、つぎのようなことを筆者に洩らしていた。

“そごう百貨店は私にとって思い出深い建築であった。それは、そごう百貨店をやることになって渡辺節先生の事務所から独立することになったからである。そごうは社屋を建てるに当たって最初、石本喜久治さんと私に案をもって来させた。自分はその時、地下３階建を計画した。地下３階には機械室を置いて、地下２階まで売り場を使える案を出した。そごうは私に何の関係もなくフェアーで、ただ純粋に私の方がよいだろうということで、私に頼みに来た。”

その当時のそごうは大丸の隣、今の場所に古い店舗を構えており、すでにライバル大丸は立派な大きな店舗を建設していた。そごうにとってはその時、これから出発しようとするいわば伸るか反るかの大事業であった。そごう社長の木水栄太郎は、村野藤吾につぎのように言ったという。“そごうが将来どのように発展するかは、一にかかって、あなたの力量にまつところ大である。そごうの力は４分しかなく、あとの６分はあなたの建築上の手腕に期待したい”と。村野はこの話を聞いて、建築家としての責任の重大性に身の引き締まる思いであったという。

また村野は昭和５年独立する時、欧米外遊の旅に立った。シベリア鉄道を利用し、革命



村野藤吾　撮影／坂本勝比古
1975年5月7日　於 村野、森建築事務所（阿倍野）



そごう百貨店（昭和10年）

の10年後のソヴィエトの共産主義的建築、リアリズムの建築を見たいと思ったからであった。その時タトリンにも会ったが、ヨーロッパに渡ってハンブルグでドイツ表現派の巨匠で、チリー・ハウスを設計した建築家フリッツ・ヘーゲルに会って、そごうの計画案を見てもらったことがあった。ヘーゲルはその案にいろいろと意見を述べ、現在のような全部同じ垂直線で処理した方がよい、さらに、塔をやめて彫刻を付けたらどうかと言われた。「いま自分が考えても、その方がよかったと思う」と語っておられた。

この話を聞いたのは今から32年前のことであったが、村野藤吾はまさしく大阪の土壌のなかから育った建築家であり、大阪商人の心の機微や大衆のこころを理解した建築家であった。彼が渡辺事務所にいた頃、渡辺節先生の厳しい薫陶のなかで、“様式の上にあれ”と題した一文は「建築と社会」の大正８年５月号から７月号にかけて連載されたものであるが、若かりし頃の村野藤吾の心情が吐露されたものとして高く評価することができる。

（さかもと　かつひこ　神戸芸術工科大学名誉教授）

§5

〈日本建築協会会員・委員の声〉

私にとってのこの10年これからの10年

日本建築協会会員・委員

(掲載50音順、職場・部署はコメント受理当時のもの)

アカウンタビリティ、耐震改修

荒川治徳

この10年、特に感じたのが、一般に人は建築のことをよく知らない、誤解している、極端に偏った知識しか持っていない、過敏すぎるということです。例えば、コンクリートや木材のひび割れ、床の撓みなどです。われわれ専門家から見ると、これらのことは、ある程度やむをえないものですが、この辺りの事情が個人の方には伝わっていません。われわれ建築専門家は、もっと素人の人に説明する責任があると思っています。(当協会の企画本『建築トラブルにみる常識非常識』参照)

あと10年生きられるか分かりませんが、実務を通じ、説明責任を果たしていきたいと思っています。

それから、建築物にも、一般の工業製品についている注意書きのようなものつけたらどうでしょうか。

もう一つ大きな経験は例の地震で、新工法開発などにより住宅の耐震性向上のお役に立てればと思っています。

(あらかわ　はるのり　(有)荒川建築技術コンサルタント)

人・建築・都市 ～内なる時間の復権～

生井昌樹

この10年の事象で強く思うことは、首都東京の限りない膨張に対する、大阪など地方都市の停滞ないしは衰退である。その基調にあるものをひとつ挙げるとすれば、グローバルに動き回る資本の台頭に違いない。そして、それは建築のあり方にも大きな影響を及ぼしている。指摘したいのは、その結果として、経済合理性の名目のもと、建築が持つ本質的価値が希薄化しつつあることである。

長い時間の経過の中で、建築は本来の目的を超えた価値を獲得してきたのではなかったか。それは、私たちの生きる意味にもかかわるものではなかったか。栄光の時代も含め大阪近代の記憶を伝える建築の少ないこの街から、本当にその街を愛し、誇りとする気持ちが生まれにくいと感じるのは私だけだろうか。

次の10年では、「建築に内包されるべき時間」の再認識を通じて、従来の経済合理性の枠を超え、都市と人間のあるべき関係が語り始められることを期待したい。

(いくい　まさき　阪急電鉄㈱流通事業本部)

これからの北梅田

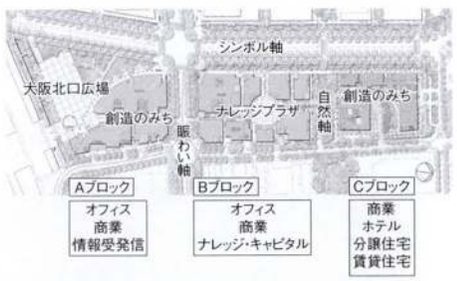
池上　明

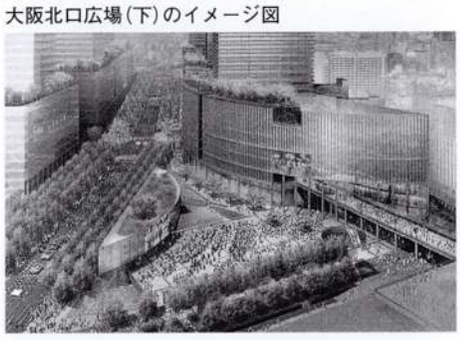
この10年の大阪の再開発では、フェスティバルゲートのように2，3年でゴーストタウン化したプロジェクトもありました。ほかにもWTC、大阪ドームなど鳴り物入りのビッグプロジェクトが相次いで破たんしています。

2011年には北梅田地区のまちびらきが予定されているようです。学生の頃、研究室で梅田貨物庫跡地利用のドーム球場の計画案を見たことを思い出します。30年前のことでしょうか。

北梅田地区は面積も広く、施設だけではなく道路整備等、周辺地区に及ぼす影響も大きいと思われます。情報発信、交流をめざすナレッジキャピタル等の複合的な機能が北梅田の高いポテンシャルをいかし、新しい都市のスタイルを生み出していき、将来的に隣接する淀川リバーフロントにつながる準工業地域も活性化されていけばよいのですが…。

(いけがみ　あきら　エーアイ アーキテクト スタジオ)





A～Cブロック全体(上)と
大阪北口広場(下)のイメージ図

職場を大学に移して6年

植松清志

私の所属する人間環境学科では、「環境との共生」を教育のキーワードに掲げている。環境との関連で建築を語る際、建築のデザインだけでなく、都市の環境、緑化、ユニバーサルデザインなど、多岐にわたる建築のソフトな面を話題とすることが多い。一方、建築士の資格取得を目指す学生には、「設計製図」や「構造力学」などのハードな面も必要だ。「文系でなぜ構力？」と面喰らう学生も多いが、安易に建築を選んだとしても、それに順応する者が多いことも確かである。

職場を工高から大学に移して6年、この間、環境と建築の共生、都市や伝統的建築の魅力、設計の面白さなどを伝えてきたつもりでいる。建築に興味をもつ学生が増え、卒業後の進路も多様に広がりつつある。

文系・理系を問わず、建築や環境問題を身近に感じる学生の増加は、建築のトータルレベルのアップにつながるだろう。そのためには、自身も興味の輪を様々な分野に広げる必要があることを痛感している。

（うえまつ　きよし　大阪人間科学大学人間環境学科）

情報の公平性、公開性が求められる時代へ

大氏正嗣

「社会システム変動の過程」、それがこれまでと今後10年の感想である。

一般的に普及した情報化は、社会のシステムを大きく変えつつある。もちろん、外的要因としての人口減少などもあるが、社会の末端まで情報が広がることとなった事実がなにより大きい。誰でも、気軽に些細な情報すら手に入れることができる。それは、情報リテラシーの向上とともに、商品やサービスの選別を加速させている。社会のあらゆる分野において、その選別に生き残るために、より高い公平性、公開性が求められつつあるのだ。こうした状況は、経済の世界において顕著である。

日本は、日本人のメンタリティと欧米式の倫理観に引き裂かれたような状況になっているように見える。グローバルスタンダードではない、日本式の良さが社会のあらゆる分野で再構築されていくことを期待したい。

（おおうじ　まさし　㈱デザイン・構造研究所）

大阪市の参加型まちづくりの行方

岡田信幸

この10年は、社会経済的に言えばバブル崩壊からの空白の10年のあとの回復期であり、また、阪神・淡路大震災の被災地から言えば本格的な復興の10年であっただろう。私自身の10年はどうだったのか？

10年前と言えばまだ大阪市の行政の中で、阿倍野再開発事務所から1996年12月に計画局計画部にもどってきたところで、翌97年4月には、「地域まちづくり推進部まちづくり支援課」が新しく出来て、そこに配属されて、「まちづくり支援制度（要綱）」を立ち上げることとなる。

計画局とは、1888年の「東京市区改正条例」から始まったと言われる国家事業としての「都市計画」の、大阪における中枢である。その中に都市計画の反対概念としての「まちづくり」の「支援」を標榜する組織が出来て、市民の身近な生活環境や住環境の整備改善を市民が自ら考え、行政と協動して「まちづくり」に取り組むことを支援する制度要綱を97年11月に制定し、実施に移すこととなる。その組織である地域まちづくり推進部まちづくり支援課は99年3月末で廃部となる。だが、その制度は残って、現在までに支援を受けている推進団体は、33団体に上っている。

（おかだ　のぶゆき　摂南大学工学部非常勤講師、元・大阪市）

新東京タワーから2011年の東京を見下ろす

片岡正和

10年前の学生時代、「建築のお勉強」との大義名分のもと、旅したフランス。エッフェル塔、凱旋門、オペラ座、ノートルダム寺院、ベルサイユ宮殿、サボア邸等々、写真でしか見たことのなかった様々な建築物をこの目でじかに見て、単純に感動したものです。なかでも、エッフェル塔の透かし模様の装飾で埋め尽くされた鉄骨のディテールの美しさ、そして展望台から見たパリのまちなみの美しさにすばらしく感動したのを覚えています。

それから10年が経ち、日本、世界に様々な「塔」が生まれました。そして2011年には、いよいよ新東京タワーが完成する予定です。建設にあたっては賛否両論、様々な意見がありますが、「五重の塔を参考にした地震などによる揺れを抑える構造で、外観は日本刀の緩やかな曲線」をイメージして建築される新東京タワーの完成が個人的には楽しみです。建築的な美しさ、展望台から見える首都「東京」のまちなみは、はたして…。

（かたおか　まさかず　公務員、堺市在住）



「新タワー」　東武鉄道㈱・新東京タワー㈱提供
―このパースは、現時点での想定に基づくものであり、今後の検討により変更される場合がある。

行政改革、景観法におもう

川上　貢

この10年、わたしの生活の重点は、半世紀にわたる大学における研究と教育から、文化財保存の調査と普及活動へ移動した。この間に、大学では、国立大学法人へ組織と運営の大きな転換が実施され、また新キャンパスへ移転するなど、かつての経験からはうかがうことの難しい情勢の変化をみた。これからの10年は、大学の新しい組織と活動の充実の期間であり、外部からその動きに注目したい。

わたしの生まれ育った大阪市の都市景観は、戦前から戦後への大きな変化のなかで、

懐かしい思い出をつくる。中之島では朝日ビル、朝日会館そして大阪市庁舎が建て替えられたが、府立図書館や中央公会堂は旧観を持続し、後者は保存整備を終えた。中之島の大川の流れに沿ってつくる都市景観は大阪を特徴づけるものであり、これからの中之島地区の景観保存に寄せる期待は大きい。

（かわかみ　みつぐ　京都大学名誉教授）

●

建築物から健蓄物へ

川戸敏雄

これまでは、建物内外の各種工事に伴う劣悪な材料によりシックビル・シックハウスが多発し、建物使用者の健康を害する事件・事故が多発してきた。これは、イニシャルコストを安くするため、大量に生産してきたメーカー側にも、それを使用した業者側にも責任があり、そのつけがユーザーに重くのしかかってきたのである。

しかし、これからは、シックビル・シックハウスではなく、ヘルスビル・ヘルスハウスという考えのもとに建築関係者は、行動する必要がある。そうすることにより、これまで普通であった建物が「健康を蓄積する入れ物」となり、[建築物=健蓄物]になる。すなわち、その健蓄物の家や建物で生活する人は、生活開始以後の健康が約束されることになるのである。（かわと　としお　近畿大学理工学部建築学科）

●

『コンテクスチャリズム』を景観理念に

黒田 達雄

景観法はできたが、単に規制するだけでなく、問題はその運用理念にある。今日に至るモダニズム思潮は、「場所性」を顧みないインターナショナルスタイルだけでなく、グローバリズムによる飽くなき都市間競争と技術競争によって、ヒューマンスケールを超えた画一的景観を創出し、地域コミュニティをも破壊してきた。ポストモダンも商業的キッチュに陥り（京都北山通）、イズムとしての思潮を持ち得ず、バブル崩壊とともに見捨てられた。

今後の景観・まちづくりの理念として、『コンテクスチャリズム』をキーワードとしたい。筆者の定義は、「ある地域の歴史的・文化的・自然的環境等の文脈（コンテクスト）の中に、地域住民が共感・共有できる有形・無形の価値を見出し、それを地域住民と共に守り発展させる立場」とした。

都市間競争でナンバーワンを目指すより、地域に根ざした施設・まちづくりで、オンリーワンの自立的創造的な景観と地域コミュニティを育てる時である。

（くろだ　たつお　兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課）

●

建築の社会的価値の創造

小浦久子

これから人口が縮小していけば、都市も郊外も集落も、そのかたちを変えていくことが迫られる。郊外住宅団地の空き地や空き家、住む人がほとんどいなくなった集落に、その兆しが見える。もともと建築は、地域に固有の集住のかたちを形成してきたのであり、これから進むであろう都市・郊外・集落の再編は、その生活空間をつくっている建築のあり方を考えていくことと直結するはずである。

しかし商品化した建築は、市場の経済合理性によってつくられている。それが今、町並みや地域の風景の混乱となって現れ、そこに建築の地域性や公共性が問われている。収益を生む床面積の量や付加価値としてのデザインといったモノの価値だけではなく、こうした町並みに対する価値や都市をかたちづくる建築の社会的価値を評価できる文化と経済市場をつくれるかどうかが、今後の集住のかたちの再編を左右する。

建築と社会の関係に価値を生み出すのが、都市の建築であろう。

（こうら　ひさこ　大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻助教授）

●

世間に貢献できる場を

酒井重治

長年、本会の事業委員をしてきましたが、会勢は力及ばずの感がありました。

今考えると、会員同士の交流を重視して、世間への情報発信を後回しにしていたと思われます。講演会などの催し物の案内は「建築と社会」のみで一般には伝わらず、定員越えの場合は会員を優先し、しかも一般は参加費も少し高めに設定していました。これからは「㈳日本建築協会」の存在を世間一般に親しく、広く知ってもらうことが重要なのではないでしょうか。

今、世間は建築に不審を抱いています。信頼できる公正な相談機関、情報発信機関が求められているのではないでしょうか。建築協会は多種の業界の集まりですので、その特殊性をいかした建築相談会等、会員が世間に貢献できる場を設けてはいかがでしょう。講演会、見学会も同様。自分が在職していた時に若い人に入会をを進めてもメリットがないと断られて、逆に退会者が増えて困りました。世間に広く親しく信頼される、日本建築協会の会員であることが自負できるようでありたいものです。

（さかい　しげはる　元・日本建築協会事業委員）

●

勿体無い

迫　淳海

とにかくこの10年は、ひたすら地球環境の保護。地球温暖化による海面上昇という未曾有の恐怖が現実に表出してきたことが契機だと思う。環境資源をストックするアイテムが商品化され、取り組む姿勢が点数評価され…。

しかし待てよ。誰しも幼少期から言われ続けてきたのではないか、勿体無い、と。幾多の監視の目や評価手法を並べるよりはるかに早く確実な、勿体無い、と思う心を座右に掲げ、縁あって向き合っている案件に対し、“そこに建てること”自体から、“そのボリューム”“廊下の幅”“コンセントの個数”に至るまで、そのように言い続けよう。

そして、ぜひ10年後には年をとるのも惜しむほど口やかましい親爺になろう。今も昔もそういう人々こそが建築を、そして社会を創ってきたと、真剣に思う。

（さこ　あつみ　清水建設㈱関西事業本部設計部）

擬和風

澤　良雄

＜擬洋風＞とは、民間の棟梁たちが設計し、建てた西洋建築をいう。

「東京帝国大学建築学科の卒業設計に、木造和風二階建ての住宅を設計して、教授たちから不評を買った」（1910年）安井武雄は、大学の存在自体に挑戦した。

堀口捨己は以下のように確信して、和の道を究めて行く。「私はギリシャのパルテノンの傍に立った。そこでギリシャの古典は、東のはてからきた若男に『柄にあった身についた道を歩め』とささやいてくれる女神ではなかったが、冷たくきびしく寄りつくすべもない美しさの中に、打ちのめされて、柄にあう道を探さざるを得なかった。妙喜庵茶室、桂離宮…等々の日本の数寄屋造りを」（1923年）。

そして「利休が心配したとおり、草庵茶室は金持ちの遊びとなり、数寄屋造は料理屋建築に堕した」（1972年『書院造』）と太田博太郎が指摘した。

今日、日本建築の教育を受けてない建築家たちによって、見よう見真似の＜擬和風＞が世の中に蔓延している。

（さわ　よしお　アトリエサワ）

コンプライアンスと建築基準法の改正

七堂元敏

2005年に発覚した耐震強度偽装問題は、翌年に建築基準法の改正へと至りました。それは、構造設計を第三者機関（構造計算適合性判定機関）で審査するという新しい制度によって、信頼性の確保を図ろうとするものです。この制度改正は構造計算の二重チェックによって構造計算書の偽装やミスを防ごうとするものです。法改正以前の実務では、設計者が専門技術を検討し、自己責任をとる制度でした。昨今では、食品や運輸等の分野においても、安全性・信頼性を揺るがす事件が多発しています。コンプライアンス（法令遵守）を無視することで発生したこれらの事件から、構造設計者はコンプライアンスについて見つめなおし、安全性・信頼性の確保に努めることは論を待ちません。

今回の法改正で、構造設計者と第三者機関の両者が審査を行うことにより、コンプライアンスの実践という立場で、専門技術を議論し、より安全性・信頼性のある建築物が、供給されることを、期待して止みません。

（しちどう　もととし　堺市指導監察課）

平和と景観と伝統を守ろう

庄谷邦幸

(1) 21世紀前半の人類史的課題は、地球上の国際紛争を中止させることである。そのため、核保有国は自らの核保有量を縮減し、陸・海・空軍の軍縮に真剣に取り組んでほしい。日本政府はそのためのイニシアティブを取るべきだ。最近、映画「硫黄島からの手紙」を鑑賞した後の感想である。

(2) 地球環境問題を考えると、1997年の京都議定書に署名していない先進国と発展途上国にぜひ署名をしてほしい。

(3) 景観法、景観条例に基づく「都市景観形成推進計画」が具体化しつつある。各都市に残存している歴史的建造物（民間、公的所有を問わず）を保全、修復、再利用をすべきである。

(4) また、都市の緑化率を高め、アメニティの水準を向上しなければならない。例えば、大阪市の梅田北地区はコンクリートブロックの街に変貌しようとしている。ニューヨーク市のセントラルパークのように都心に緑の空間がほしい。

(5) わが国の産業政策の一環として、「産業クラスター」「知的クラスター」計画を見ると、すべてハイテク志向であり、バイオ、ナノテク中心のクラスターである。在来産業、伝統産業、地場産業の中でもユニークで、アクティブな企業群も少なくない。それらを包摂したクラスター計画を再構築してほしい。

（しょうや　くにゆき　桃山学院大学名誉教授）

我が街の生き残りのために

関川詞之

私は約30年前に開発された、いわゆる「ニュータウン」の一つに住んでいます。住居形態はほとんど独立住宅で、集合住宅は限られています。居住者はほぼ同世代の人々で、子供が独立して出て行った老夫婦所帯の比率が増えています。その中で、３世代で住んでいる家庭も徐々に見られるようになってきています。しかし、私を含む高齢者が生活者の中心である時代は、あと10～20年ほど続くでしょう。生活に必要な商店や役場、病院や郵便局、銀行等が「営利主義」で動くことは明らかです。それらの施設が撤退しても、自分たちの生活が成り立つような街に脱皮させてゆかねばなりません。そのような街では、誰もが自分にできる役割を担ってお互いに支えあってゆきます。この街をそんな街にするには、互いが深く知り合い信じあえることが基本となります。そのため、コミュニケーションを深めるための仕掛けを、多くの人とかかわってつくってゆこうとしています。

（せきかわ　のりゆき　関川建築研究所所長）

混迷から清明へ

関根幹雄

わたしにとってのこの10年は、年齢的にも50歳代であったし、これからの10年は60歳代となるので実感として分かりやすい。

阪神大震災の時は公衆電話に並んだが、この10年の通信手段の変化は激しい。

パソコンを前に視力の衰えも感じたし、メールというものが電話に比べて誤解を生みやすい代物であることも痛感した。

しかし調べものについては検索に随分助けられる。ペーパーレスから程遠い生活でなく、これからの10年はそれを日常生活にいかに組み込めるかというのが、組織から離れての生活術になろう。

要らぬ情報やモノを追い求めず、心の充足に向けた生活を家族と自分のペースで歩んで

いく。大自然のもたらす限られた範囲での落ち着きが来るはずだ。

（せきね　みきお　堺市理財局）

●

〈いやしくなく〉「住まうこと」

田﨑祐生

永六輔が、ある職人の言葉を引いている。「人間、〈出世したか〉〈しないか〉ではありません。〈いやしいか〉〈いやしくないか〉です」。

このところ、時代の寵児ともてはやされ、地方のリーダー、国民の代表を自認するような社会的に〈出世した〉人々の〈いやしさ〉がやたらと目に付く。吉田兼好が物の多さを嫌ったのとは異なり、恥ずかしげもなく平気で嘘を付き、手段を選ばないゲーム感覚で無節操に追い求められた、ヴァーチュアルな「金額」の大きさが生み出す〈いやしさ〉であるようで、残念ながら、そうした〈いやしさ〉に「建てること」は近づきやすいようだ。

本来、私たちの日々の「住まうこと」に結びつき、もっともリアルな「ものづくり」であったはずの「建てること」が、今後、多くの人々の信頼を取り戻すためには、まずは具体的な「住まうこと」との結びつきを改めて見直すことから始めなければならないだろう。

（たざき　ゆうせい　大阪成蹊大学芸術学部）

●

豊かな地域社会をつくる

武田則明

大震災後、動けなかった。すべてを失って悲しいが、反面全く自由になった。神戸の「まちづくり」がうまくいったのは交通機関がすべて断絶して、個人的に自由で、解放された状態が、すばらしい「まちづくり」運動につながったのだと思う。復興して少し物持ちになり、家も建った時にボランティアで「まちづくり」に活動した人は普通の生活にもどり、「まちづくり」は衰退していった。

今後の10年を考えた時に、何のための豊かさであったかを考えさせられる。人間は少し貧しい方が地域社会活動を通して精神的に豊かになる。すべての価値観が、お金だけになった時に、人間関係は何と貧になるか。

地球資源が限られた状況の中で真に豊かになるために、今何をすべきかを考え直し、少し金銭的に貧しくとも食えれば良い。豊かな地域社会をいかに形成するかを考え、行動することが、これからの10年の課題となろう。

（たけだ　のりあき　神戸山手大学環境文化学科）

●

よみがえる10年

塚口明洋

私の事務所のある大阪市西区新町３丁目は管材、ポンプ等の卸業者の町でした。この10年は徐々に顔の見えない分譲マンションが増え、風景が消えていく10年でした。経済的合理性で町が動くのは仕方ありませんが、多様な価値観を持ちたいものです。幸い若者たちが古いアパートの１階に５坪ほどのショップをオープンし、町を楽しくしています。

今、経済的合理性の行き過ぎが言われ、日本の良さを見直そうという動きが出てきています。これからの10年こそは、現代社会で失われたものが新しい形でよみがえる好機だと思います。無駄なものとして重きを置かれなかった文化、歴史、哲学を建築プロジェクト、風景の中に反映していきたいものです。

建築協会は、唯一、建築にかかわる研究者、施工会社、設計者からメーカーまでが自由に意見を言える場を提供しています。長期的なビジョンを築くための意見交換の場としての役割を期待します。

（つかぐち　あきひろ　㈱塚口明洋建築研究室）

●

「信じる力」を取り戻す

所　千夏

プロの仕事は、信頼関係がないと成り立たない。建築設計も同じだ。昔、建築家も大工の棟梁も、建築主と何の約束をせずとも自分の面子にかけていい仕事をしようとしたし、建築主は、その人を全面的に信じて任せるという形が一般的だった。この10年という訳ではないかもしれないが、それが成り立ちにくい社会になってきた。建築家や棟梁の説明だけではなく、断熱係数だの構造計算だの設計内容を数値化したり、第三者に認定を受けたりして建築主はようやく安心する。もちろんそれも重要なのだが、根本のところで建築主の「信じる力」が衰えているように思う。ただしそれを衰えさせたのは、信頼できない仕事をしてきたわれわれプロフェッショナル側だ。

これからの10年は、建築業界だけに限った話ではないかもしれないが、ひとを「信じる力」、ひとに「任せる力」、ひとから「信じられる重さ」という基礎力を取り戻すことだけは常に忘れずにいたいと思う。

（ところ　ちか　アトリエCK代表）

●

「試行錯誤」から「発見・展開そして共生」へ

S.N.

この10年は、バブル経済崩壊の影響もあり、従前の様々なルールが見直された。まちづくりにおいても、民間活力の活用のために規制が緩和され、「試行錯誤」しながら、民間や行政、住民の役割等について議論が展開された。これは、規制緩和にあたり、きっちりとした精神がなく、時代の流れのまま対応された結果だと考えている。

今後の10年は、今まで積み重ねた経験等を検証し、規制すべきことと権限移譲すべきことを見極め（「発見」）、それらのルール化を図っていくことが必要だと考える。その上で、まちづくり事業に関連する者が、おのおのの役割を認識しつつ、協働で事業等を「展開」していくことが、本来の「共生」を実現することになると思う。

住みよいまちを実現するためにも、子どもたちに引き継ぐことができる日本とするためにも、前向きに取り組んでいきたい。

（まちづくりにかかわる堺市在住の公務員）

●

90周年を機に箕面住宅博を見直す

夏井重行

建築協会が大正11年９月29日から11月26日まで箕面桜ヶ丘で住宅改造博覧会を実施したのは、偉業であった。現時点から考えても、協会の存在価値と今後のあり方にとって、こ

のような企画は大いにプラスとなるもので、他の建築団体ではできないものである。

この博覧会以来84年が経過しているが、桜ヶ丘にはこれらの住宅が群として残されている。ここに、実用性、コミュニティ、間取りの変化、設備の変化、リフォームの経過などを、90周年を機に確認する記念事業の開催を提案したい。

具体的には、現在の居住者に住み心地やコミュニティのありようなどをアンケートし、大正11年当時の設計図面と、現在の間取りや設備との比較を行う。この比較をもとに、住民、箕面市、協会の三者で意見交換会をもち、人生80年の時代、住まいづくりにおいて設計者が留意すべきことを抽出していきたい。

さらに現地見学会を実施して、その暮らし振りを垣間見ることができればいいのだが…。

（なつい　しげゆき　元・富士ネオ工業㈱）

●

地域力による ニュータウンの再生

根岸芳之

昭和30年代から始まったニュータウン開発において、初期のものでは約40年が経過し、団地の老朽化、人口減少、少子高齢化、商業施設の衰退など、いわゆるオールドタウン化現象が見られます。都心や最寄り駅からの距離、商業施設等のセンター機能、住宅の種別の違いなどによってその状況は様々であり、ポテンシャルや人気にも違いがあります。

人口減少局面を迎えるなか、これからの10年で、選ばれるまち、選ばれないまちといった格差がより激しくなるものと考えられます。ニュータウンの再生にとって都市基盤や施設のリニューアルも大切ですが、いちばん重要なのはそこに住む地域の人々の取り組みではないでしょうか。地域にはたくさんの課題がありますが、地域住民がそれらを自分たちの課題と捉え、課題解決に向け主体的に行動していけるかが重要です。これこそが本当に住みよいまちをつくる原動力になりうるものと考えています。地域力がニュータウンを再生する10年となってほしいものです。

（ねぎし　よしゆき　神戸市建築指導部建築安全課）

●

保存活用の 社会システム希求

橋本健治

本誌とのかかわりは、'70年ルナ・ホール掲載、「建築家の課題と責任」座談会参加から始まって、作品作風委、'85年ホール特集企画、デザインコンクールと青年技術者の選考参画、そして'99～'02年「大阪市中央公会堂の保存・再生」にかかわる一連の報告が、この10年の中核となる。

公会堂創建時、設計監督で本会創設者の片岡安氏の遺徳というべきか、'18年（大正7）本誌掲載内容に助けられ、保存再生後報告で「建築と社会」誌元編集長松井昭光氏と邂逅でき、建築諸運動にかかわるご縁に感じ入る。'70年代旧山邑邸保存運動以来、'95年震災前後の神戸高校校舎、旧台南州庁舎、旧乾邸など頻発する保存活用提言要望対処につながる。先人が成し遂げた業績に学ぶ愉悦にはまりつつ、設計演習課題の展開に、住まう岡本梅林地区まちづくりに、生かしたい。

もう失いたくない建築資産の保存活用が、新建築レベル相当に一般的経済活動となる社会システム形成に、これからの10年にむけて本会・本誌が貢献されるよう希求する。

（はしもと　けんじ　意匠人設計房）

●

倫理の再構築に向けて 奮起を

長谷部朔郎

COP3京都会議後の世論の動向を受け、また阪神大震災以降次々と起こった大地震の被害に対する反省から、省エネ対応の研究、試行が行われ、成果を上げるまでとなり、地震災害対策も耐震構造の見直しから制震構造、免震構造の採用も盛んになった。さらに高齢化社会に適応するため、デザイン優先でなく安全で人や地球に優しいロングライフな建築が志向された10年であったと思う。

一方、常軌を逸した耐震偽装事件は多くの建築関係者の地道な努力を無にして、建築界の信頼を一挙に下落させ、特に住宅、マンションでの手抜き工事が未だに無くならない現実は嘆かわしい限りである。

次の10年は、倫理の再構築を図り、建築界の信頼を取り戻すことが最重要課題であろう。ここに、建築を通じて社会に貢献してきた建築協会会員の奮起が望まれる。そのキャンペーンのためには、元の分厚さを早く取り戻して活躍する「建築と社会」誌となることを期待したい。

（はせべ　さくお　元・日建設計 大阪）

●

地域発のまちづくり

浜野幸雄

地方行政から見て大きな出来事と思えるものが二つあった。一つは、民間確認検査機関の登場である。違反建築が横行し建築基準法がザル法と揶揄される中で打ち出されたが、確認検査を市場原理に委ねることの危険性は既に耐震偽装問題で明らかになった。もう一つは、都市計画法などのまちづくり権限の国から地方への委譲である。長引く不況の下で「地方の再生は地方の手で」とされたものだが、地方分権は極めて不十分である。地方の目には、どちらも国の責任放棄と映った。地方がしっかりしなければ…。

まちづくりの障碍でしかない違反建築は、地域の手で排除されねばならないし、不十分とはいえ委譲された権限は、地域の創意工夫で活用しない手はない。今後、各地域で住民、業界、行政が対等な協力関係をつくり、智慧を出し合い、安全な建築や個性的なまちづくりのためのルールづくりが進むことを期待したい。

（はまの　ゆきお　元・京都府建築指導課）

●

バランスを持った 価値観を築く

藤城義丈

建築においてこの10年、技術的・機能的な改善は、シックハウス、ユニバーサルデザインなどをはじめとして、進んだと言えよう。震災後コミュニティーのあり方が見直され、地域活動への前向きな取り組みも見られる一

方、ますます余裕を持てないわれわれは、少しでも時間的余裕を得るため、便利で、維持管理が簡単で、コスト削減の施工方法を建築素材や工法を決定づける優先条件としている。

建築の実現が、売り文句としての部分の氾濫となったとき骨格は脆弱化する。快適・便利で見栄えはよいが、出来上がったときが一番よくて時間とともに価値が下がるのが現実では、本質的なビジョンが見えてこない。耐震偽装問題、環境問題もひとつ間違えば、本質を離れた商品価値を上げるための要素となりうる。

もっと本質を大事にした価値観を社会に定着させることをものづくりの中から広めることに努力し、未来に負の遺産とならない建築を残すことが私にとっての課題である。

（ふじしろ　よしたけ　㈱徳岡昌克建築設計事務所）

●

“持続可能性の建築・都市”を目指して

松隈　章

阪神・淡路大震災の復興が進んでいた1997年から10年。この震災が、建築や都市のあり方の10年、いや20年先をも先取りして示していた。震災直後、被災した都市に対して「建築家に何ができるか？」と言った多くの問いかけがあった。しかし、日常、地域や一般社会から離れ、いわば村社会を形成していた「建築家」が非常事態に俄仕立てでできることは限られていた。

私自身が震災復興の中でかかわりはじめた「歴史的建造物の保存」（芝川邸・聴竹居）、そして、企画に参加した2001年以降各地で開催された歴史的建造物に関連した展覧会（関西のモダニズム建築展やドコモモ展等）、さらには2005年秋、発表者として参加した「サステナブル・ビルディング世界会議・東京大会」を経験して想う「これからの10年」で目指すべきは、人間の生息環境である「建築・都市」を社会にきちんと開き（大切さを理解してもらい）、人々の想いが入った持続可能な建築・都市に再生していくことである。

（まつくま　あきら　㈱竹中工務店大阪本店設計部）

●

建築の寿命

松田善弘

最近、建築の寿命について考える機会が多くなった。先日もローマ時代の水道橋のものづくりの原点を垣間見た。そこでは未来永劫これが使われ続けるという視点での設計、配慮がなされており、一種感動を覚えた。

私自身、60年前の田舎の木造家屋に住んでいるが、未だ現役であり、その気になればさらに100年以上住み続けることも可能である。サスティナブルとか長寿命とか言うものの、技術が格段に進歩しているはずの今の建築が、ことこの点においてどれほど退化していることかと考え込んでしまう。

建築を創るシステムとして入札からPFIまで安くて短寿命を助長する点が、また技術についても10年、20年の寿命しかない材料が氾濫している点も気にかかる。建築を創る姿勢として100年、200年、場合よって1000年と言った視点からものづくりを考えていた意識はどこに行ったのか。今、私たち建築家は、常識の問題として、建築の寿命について考える時が来ていると思う。

（まつだ　よしひろ　㈱昭和設計）

●

みんな、予習課題できたかな？

宮崎ひろ志

近年、「地域」という単位は「家族」という単位に取って代わるもののひとつになったと感じています。20世紀「家族」は「核家族化」し「単身家族化」してきました。こんな具合に家族が気化し、霧散していったものですから、いま21世紀、建築デザインの向かうべき方向のひとつは、家族を単位としたような建築単体から個の塊、例えば「地域」などに向かうのは自然かなと思えるのです。

ここで「地域に向かう」と言うのは、家族に代わる地域システム構築など社会的なソフトを含む空間デザインに向かう、という意味です。大正時代に本会が掲げた「建築と社会」の視点をいま再び、というところでしょうか。

ところで1995年阪神・淡路大震災からの復興は「地域の再生デザイン」に向けた【予習課題】だったのかもしれません。あれは「少子高齢化」「人口減少」も加わった、かなりの難題でした。予習をしてきた人は進み具合が早いなどと言いますけど、みなさまいかが？

（みやざき　ひろし　兵庫県立大学
自然・環境科学研究所講師）

●

建築業界の古い体質

宮内　宏

「建築」。この言葉を十分に理解し、完全に説明できる人が何人おられるか？　高台住宅地に建てられるマンションの建設工事現場を毎日見る羽目になり、着工以来１年余りで間もなく完工引き渡されようとしている。中堅の上場ゼネコンが施工しているが、最近の現場責任者は若く、技術的には優れているかも知れないが、近隣の無視、工事協定の無視も強く、下請け管理、工事管理などに建築業界の古い体質をそのまま継承しているように思われてならず、何度か大声で注意をすることになった。機械化が、無知な作業者に使用する意義や目的を知らしめない結果を導き出し、事故の原因になるとも言い得る。

某大手ゼネコンの部長は、「公共建築物以外の非生産的建物は、災害等で倒壊しても差し支えない」と公言をして憚らない。全国的に糾弾されている談合で元請けの利益中心主義を排して、適正な材料や価格での工事が可能なように、中小企業の優秀な技術も適正に採用しなければ、建築業界の明日は明るいとは言い得ないように思う。

（みやうち　ひろし　宮内商会自営）

●

若人を育てる

三好　曠

阪神・淡路大震災から12年。いまだに忘れ難い、ある人の言葉がある。「数多くのボランティアや専門家たちは真摯に援助活動をしてくれたが、建築関係者はなぜか自分たちの仕事の囲い込みに走りがちで、その社会性に疑問を感じた。……」。

もうすぐ大学の卒業制作展の季節が巡って

くる。いつも何らかの違和感が残る。旧態依然たる卒制の位置づけとともに、求められているコトと、表現されているモノとの乖離。

今や、安易に建築の道を選ぶ若い人たちをどうやって社会が求めているプロに育て上げていくかが緊要の課題である。ボールは受け入れる側に投げ掛けられている。

当協会の設立の主旨、幅広く多様な会員構成を考えると、建築教育プログラム改革への努力を共有する役割は貴重である。協会100年の計にとっても大きなチャンスであろう。

（みよし　ひろし　建築家）

●

建築色彩が都市景観を創る

村上幸三郎

京都の都市景観を色彩の側面から調査・考察しようと、1990年に有志が集ってボランタリーの市民研究グループを立ち上げた。以降、シンポジウムなどの催事を開催するとともに、都市景観色彩に関する共同研究など、多くの成果を上げてきた。その後、神戸でも同じ趣旨の会が結成できたし、「大阪市色彩景観計画」の策定に参画してきた。

改めて、都市景観は建築物に依存するものであり、建築家の責任が大きいとつくづく痛感する。折角の街並みがたった一棟の建築外装色彩で壊されている事例も多く目にする。都市がどのように景観を構築しようとしているのかが、色彩景観の中に投影される。すなわち、都市の文化性が色彩景観に表出されるのである。

2006年末に、京都市は新しい景観政策を発表し、その中で初めて色彩規制にも着手すると示した。これからの建築は、自らのデザインのみならず、都市景観形成への責任を負っていることを自覚せねばならない。

（むらかみ　こうざぶろう　村上デザイン事務所）

●

建築創りの確からしさ

門谷和雄

建築とその創り方への確からしさを再確認する時期にあるように思える。耐震偽装が主題ではない。

10年以上前のバブルに沸いたとき、一度は味わいそして失った豊かさのごときものが、我慢をした後に訪れたここ数年来の再景気により、建築をまた主役のひとつに押し上げている。そしてあの頃以上に、格差社会という言葉に現れるような差異の表出をより強く求められ、そのことを建築とその創り方もが担っているように思える。

都心に見られる超高層のビルや集合住宅、既視感の無さを争う表皮の高級ブランドビルや商業施設、一般誌までにぎわす個人住宅、それらの差異をいかに早くつくれるかは、建築が経済活動の表出である限り必要なことではある。しかし、その先に残る建築と社会を透視しながら、建築とその創り方について、自分としての確からしさをもう一度見つめてみる時期にあるように思える。

（もんたに　かずお　㈱竹中工務店設計部）



御堂筋に面したブティック　撮影／河合止揚

●

二つのキーワードに寄せて

吉田正友

阪神・淡路大震災：阪神・淡路大震災では、直接の地震規模もさることながら、その後の火災の規模の大きさには驚嘆させられた。火災の研究に携わる者として、様々な貴重な火災現場を見る機会が与えられたことは研究面では大いに有益であった。

防犯：最近、犯罪の急増に大いに懸念を抱く。プレハブメーカーなどは積極的に防犯設計を導入している。犯罪を未然に防ごうという対策である。犯罪を減少させるという建設的な解決策として、「老人と子供が共育できる施設」の創造を提案したい。老人介護施設、保育園は現在、多くの問題を抱えている。その特効薬として、二つの施設をドッキングさせ、日頃接する機会のない者同士が心底からのコミュニケーションを図る…。認知症、いじめなどの問題の解決に繋がり、老人や子供の犯罪が軽減されるであろう。

（よしだ　まさとも　㈶日本建築総合試験所試験研究センター建築物理部長）

●

守るべきものとは

和田康由

工高生教育小委員会で工高生デザインコンクールに携わって、早20年が過ぎた。その間、工高の教育環境が大きく変貌し、工業高校が工科高校や総合高校などに学科改編した。建築科、電気科、機械科などが一つにまとめて募集されたり、建築科と都市工学科がくくり募集されたりしている。純粋に建築科として生き残れているところは少ない。

その渦中にあって、工高生デザインコンクールの応募数は、多少の増減はあっても100点30校はある。どの学校も、さまざまな教育事情の中、苦労して作品を創り上げている。委員として感謝に堪えない。また、「黒鉛筆仕上げ」とする設計条件を50年以上守り続けている。これからもこれだけは譲れないとみんなで頑張っている。この設計条件は、全国の高校や審査委員の間で評価されている。

社会の変化とともに変わるべきものと守るべきものを、もう一度見つめ直す時期が、これからの10年ではないだろうか。

（わだ　やすよし　大阪市立都島第二工業高等学校建築科）



第52回工高生デザインコンクール表彰式の一日
（2006年11月18日）

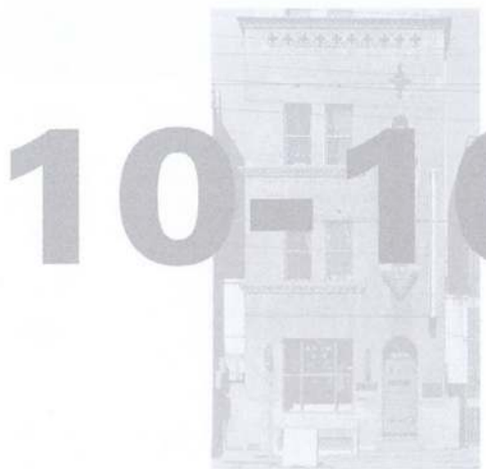
以上の38人のコメントは、90周年記念号編集企画中の今年１月15日に、日本建築協会会員・委員から寄せられたものです。（編集部）

10年委員会〈発足宣言〉

日本建築協会はその発足当時から「建築を通じて社会に貢献する」ことを理念に活動を継続してきました。大正11年には桜ヶ丘で行われた住宅改造博覧会に代表されるように、みずから主催した博覧会・展示会等を通じ、あるべき住宅像を世に問うなど、建築にたずさわる専門家の団体として積極的に社会貢献してきた歴史があります。90周年を迎えた今もその活動理念は変わることがありません。

本号の巻頭言に書きましたが、編集委員会では100周年に向けて「これからの10年」の活動が大切と考えています。10年間継続で、社会に働きかける具体的活動を立案・実践していく予定です。そのための担当委員会を「10年委員会」として立ち上げ、活動内容の立案・具体化・実践のための実働部隊として委嘱し、委員長には前川治彦氏にお願いすることにしました。10年間活動を継続させることにより、100周年には日本建築協会が活動してきた足跡・成果としてまとめることができれば意義深いものになると期待しています。
委員会は発足したばかりです。活動案策定もこれからですので、会員諸氏からのご声援も必要になってくることでしょう。よろしくお願いします。

編集委員長　設楽貞樹



「これからの10年、そして100年に向けて」
このロゴは、これからの10年の成果をもって100周年を迎え、それを次の100年の始まりとしたい、その願いを込めて作成しました。今後このロゴを見かけられたら10年委員会関連の報告です。

90年、その長きに亘り諸先輩方か活動され、いろんな形で積み重ねてこられた社会貢献への意志、いまその重さをひしひしと感じております。
振り返れば社会情勢や建築都市を取り巻く状況は大きく様変わりし、一口に「建築を通じて社会に貢献する」といってもその在り方は実に多様で、身近な生活環境から都市環境に至るまで、新たに何かを造ることと、すでに在るものを維持し再生していく事、それぞれが大きな意味を持つようになったと思います。

当委員会ではこれからの10年を考えるにあたり、気負わず自然体でありながら、現実の社会に向けて長く息の続く活動を第一にしたいと考えております。
活動案として
エコをテーマに各地の街づくり活動をより発展させるもの。
随所に残る近代建築や歴史遺産の再生活用を提案するもの。
水辺の景観、緑の景観、美しい都市づくりに繋がるもの。
また先般の中之島アイデアコンペのようなコンペ方式も活用したい。
など、いくつか意見は出ておりますが、まだまだ白紙状態であり、今後各支部はじめ会員のみなさまのご意見を頂戴しながらじっくりと練り上げていき、2008年より具体的な活動を開始したいと思っています。
今後の経過などは随時本誌などでご報告して参りますので、この活動が実り多き成果を残す事ができますよう、みなさまの暖かいご支援ご指導をどうぞよろしくお願い致します。

10年委員会長　前川治彦

§6

〈90周年記念事業の記録〉

第7回「日本建築協会賞」受賞業績4点



竹中大工道具館　3階展示室

日本建築協会賞

有形の「道具」と無形の「技術」の保存と伝承

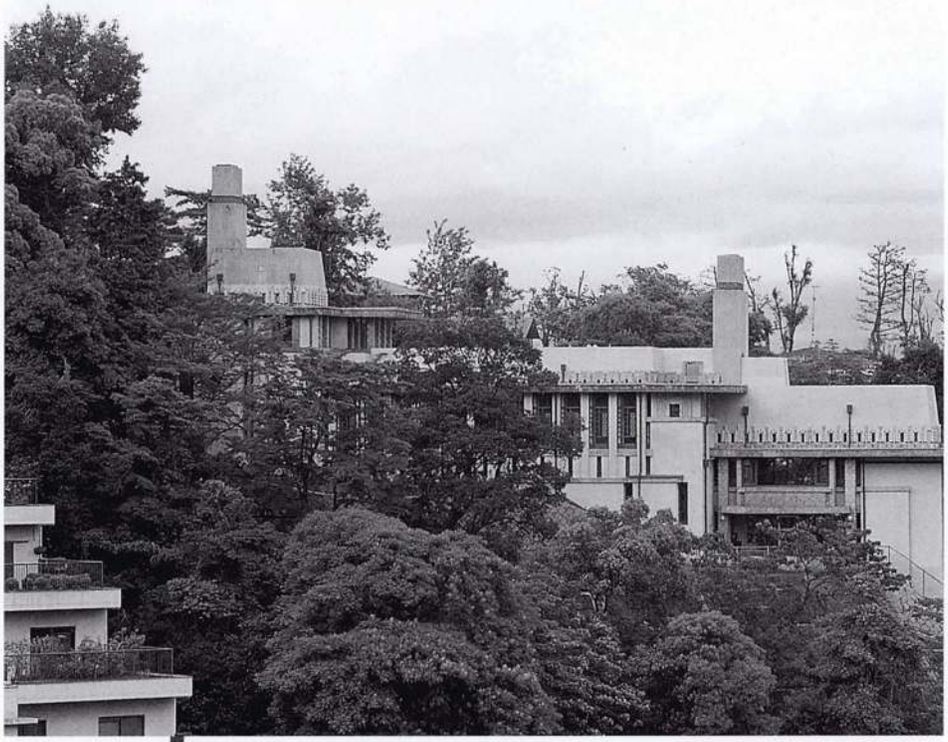
財団法人 竹中大工道具館 理事長　竹中統一

竹中大工道具館は、「建築の生産方式のシステム化が進み、工場生産と省力化による効率化が優先し、電動工具が普及する現代にあって、次第に消えていく古い時代の道具、優れた道具を民族遺産として収集、保存し、これらの研究、展示を通じて工匠の精神や道具鍛冶の心を後世に伝えていくため」（『設立趣旨』）、1984年に開館した。

有形の道具は、日本の大工道具を中心にヨーロッパや中国などの道具も含め、積極的に収集活動を行い、現在約17,000点が所蔵されている。これらの道具はすぐに使える状態にまで手入れが施され、神戸本館で常設展示されるとともに、収蔵庫で保管されている。収蔵庫保管の道具は毎年開催する企画展で展示公開され、他の博物館からの依頼で貸し出しもされている。

こうした有形の資料の保存とともに、無形の「技術」を後世に伝えるための活動も積極的に行われている。具体的には、未来を支える子どもたちに「体験教室」や「出張授業」を通じて、大工道具に触れる機会を設け、「モノづくり」の楽しさを伝えている。また、映像資料の制作も重要な活動である。道具の「使い方」（大工）や「作り方」（鍛冶）などの伝統的な技術の中には、後継者がいないために消え去ろうとしているものが多い。これらを映像で保存する努力が続けられている。さらに、調査研究活動を通して、無形の技術を写真や文章で記録し、デジタルアーカイブや出版物で公開することも継続的に行われている。

竹中大工道具館による有形の「道具」と無形の「技術」を保存する活動は、開館当初から高く評価され、「日本建築学会賞」をはじめ多くの受賞をしている。「手仕事」の良さや「モノづくり」の重要性が見直されている現代にあって、竹中大工道具館の果たす役割は、ますます重要になってきている。



ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）

日本建築協会賞

ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の保存と活用

株式会社 淀川製鋼所 取締役社長 **國保善次**

阪急・芦屋川駅から芦屋川に沿って少し遡ると、緑の間からF・L・ライト設計の旧山邑家住宅が現れる。帝国ホテルの設計のために来日したライトが、灘の酒造家（櫻正宗）山邑太左衛門の依頼を受けて1918年（大正7年）に設計したものである。実施設計は高弟の遠藤新と南信が行って、氏の帰国後1924年（大正13年）に竣工している（RC造・4階建・延床面積542㎡）。

1947年（昭和22年）に㈱淀川製鋼所の所有となり、社長公邸として使用した後、一時転用されていたが、1974年（昭和49年）国の重要文化財の指定を受けた。調査と保存修理を経て、社の迎賓館として一般公開していたが、阪神淡路大震災で一部損壊したため、改めて調査と本格的な補強・修理がなされ、今日の姿となった。

1998年（平成10年）に工事を終えた後、一般公開が再開され、改めて誰もが接することができるようになった。建物は複雑な地形を利用し、アプローチのピロティ部分からスキップしながら4層を重ね、バルコニーと深い軒、多用された大谷石がライトの建築の特色をよく伝えている。内部空間も、同様に豊かな構成を見ることができる。

ヨドコウ迎賓館は運営目的として、貴重なライトの作品の維持管理を行って、「その建築的・文化的価値を広く一般に公開することによって文化の振興に寄与する」ことをうたっている。その内容としては、年間を通じて建物を公開し（日数は約180～190日）、関係資料の維持管理と建築関係者（含学生）への資料提出を行うとともに、公共性のある活動への情報提供を行っている。また、山邑家が所蔵していた雛人形の公開（毎年）や、講演会・添花展を随時行うなど、多様な活動が展開されている。

日本建築協会賞は、協会創立70周年（昭和62年）を記念し、これを契機として、建築界における総合団体としての性格にもとづき、建築にかかわるあらゆる分野において社会に貢献した団体または個人に対して、その業績を讃えるとともに、わが国文化の向上と公共の福祉に寄与することを目的として創設されました。

今回、その第7回の実施にあたり、広く各界に応募を呼びかけましたところ、締切日（平成18年8月31日）までに、16件の応募がありました。

今回の選考に際し、第7回日本建築協会賞選考委員会（委員長：金多潔、同委員9名）にて慎重に審議いたしました結果、日本建築協会賞3件、日本建築協会賞特別賞1件を選定しました。

平成19年3月30日、日本建築協会創立90周年記念式典の会場にて表彰式を挙行し、それぞれの業績に対し、賞状並びに賞牌を授与いたしました。

日本建築協会賞

有形の「道具」と無形の「技術」の保存と伝承

財団法人 竹中大工道具館 理事長

竹中統一

●

ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の保存と活用

株式会社 淀川製鋼所 取締役社長

國保善次

●

西梅田エリアの電力負荷平準化の計画と実施

株式会社 竹中工務店 設計部 設備部長

田ノ畑好幸

設備課長

小宮山研二

日本建築協会賞特別賞

大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）の運営

大阪市立住まいのミュージアム



氷蓄熱関連技術の開発と推進を進めた西梅田エリア

日本建築協会賞

西梅田エリアの電力負荷平準化の計画と実施

株式会社 竹中工務店 設計部 設備部長 田ノ畑好幸
設備課長 小宮山研二

地球環境問題において、地球温暖化防止と省エネルギーを実現する方策としての電力負荷平準化と電力の安定供給維持を図ることは、重要な国家施策として位置付けられている。

竹中工務店は、特にその電力負荷平準化を達成する技術として、早くから流動性の高いダイナミック型氷を夜間に蓄える氷蓄熱システムを開発し、250件以上の建物に採用してきた。

この氷蓄熱システムを基盤に氷の低温性を最大限に活用し、動力を必要としない「冷媒自然循環空調システム」、建物のスラブに熱を蓄える「躯体蓄熱」、夜間の蓄熱だけで昼間の空調を行う「全蓄熱空調システム」等、一連の氷蓄熱関連技術の開発を推進してきた。西梅田の建築群において、これらの技術が全面的に採用された。

西梅田エリアの計画が始まったのが1990年頃である。基本構想段階において、社会的ニーズを先取りする形でエリア全体の電力負荷平準化を設計理念として掲げ、氷蓄熱技術の開発と採用を推進した。このオフィス群は、ほぼ氷蓄熱システムだけで熱源を構成したいわゆる「夜間電力移行エリア」として世界でも類例を見ないものである。

その結果、この西梅田エリアでは、大型ビル1棟（延床10万㎡）分に匹敵する電力ピークカット（7500kW）を達成し、一般的なビルでの電力負荷率である45％程度を大幅に上回る65％にまで飛躍的に向上させている。この電力負荷平準化によるCO_2の削減量は、森林530ha（甲子園球場361個分）の二酸化炭素吸収量と同じ効果が得られている。この取り組みは、今後の地域開発における地球温暖化防止と省エネルギーを解決する上で、ひとつの大きな示唆を与えるものである。

■第7回「日本建築協会賞」選考委員
●委員長
金多　潔
京都大学名誉教授
元 日本建築協会会長
●委員
天野　直樹
㈱竹中工務店大阪本店設計部長
井上　豊
大阪大学名誉教授
㈶日本建築総合試験所試験研究センター長
上村　英彦
㈱きんでん取締役技術本部長
片倉　健雄
元 近畿大学教授
貝野　猛
大阪市住宅局建築指導部長
岨　良政
大阪府建築都市部建築指導室長
森井　繁夫
㈱大林組常務執行役員
山口　祥悟
㈱日建設計常務執行役員技術監査担当
和田　克朗
元 ㈶日本建築センター大阪事務所顧問
（50音順・職場は表彰式当時）



大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）

日本建築協会賞
特別賞

大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）の運営

大阪市立住まいのミュージアム

「大阪市立住まいのミュージアム」（愛称：大阪くらしの今昔館）は、「大阪市立住まい情報センター」の活動の一翼を担う、日本初の住まい専門のミュージアムで、大阪市住宅局が設置し、大阪市住まい公社が運営している。このミュージアムは、大阪が蓄積してきた都市居住に関する歴史と文化を展示し、未来の大阪を考える情報拠点の役割を果たしており、2001年４月の開館以来、６年の活動実績を有している。

施設内容については、常設展示として江戸時代の町家・町並みの実物大での再現や、近代大阪の住まいと暮らしを精密な縮尺模型で展示している。これらは、住居・建築学の研究者が膨大な時間をかけて資料収集し、細部にわたる復元の考証を行い、歴史・民俗・美術等の専門家の監修を受けたもので、それ自体が貴重な学術研究の成果である。とくに江戸時代の町家の再現工事は、文化財建造物の修復に実績を持つ工務店が担当し、歴史資料の再現建造物としても、また、新築の木造建築物としても極めて高い完成度に達している。大阪市内の町家遺構がほとんど失われている現在、大阪の住文化とその空間を次世代に継承する大きな意義を有している。

また、展示設計と建物設計の同時進行、「触って、味わい、体験できる」展示、運営へのボランティアの参画など、博物館の運営に関しても新たなビジネスモデルを提案している。特に、ボランティアの「町家衆」は現在150名以上が登録しており、実物大に再現された町並みの特性を活かして、町の住人になりきり、振り売りや大道芸人のパフォーマンスを行うなど賑わいのある町の姿を現出しており、他の博物館にないアミューズメント性がある。

このようにミュージアムは、市民の日常生活に根ざした知的好奇心に応え、ボランティアの積極的な参加を得ながら、多彩な企画と運営を行っており、21世紀の博物館のあり方を先取りしたものといえるもので、大阪を中心とする住まいに関する展示や活動の功績は、建築文化の発展への貢献はもとより、わが国文化の向上に大きく寄与するものである。

■「日本建築協会賞」第1～6回の受賞実績

第１回●1987年
- 日本建築総合試験所の設立と運営／(財)日本建築総合試験所・前田敏男
- 技能訓練校の設立と運営／近畿電気工事・若山繁
- 「季刊大林」の刊行と「復元と構想」の出版／大林組・大林芳郎
- 建設業界へのTQCの導入／竹中工務店・竹中統一
- H形鋼の開発／新日本製鐵・武田豊
- 大阪駅前市街地改造事業の完成／大阪市長・大島靖〈特別賞〉
- ポートアイランドの建設／神戸市長・宮崎辰雄〈特別賞〉

第２回●1990年
- 大阪市の総合設計制度／大阪市長・西尾正也
- 電気工事士技能競技大会の継続実施／(社)大阪電業協会・若山繁
- RC造超高層建物の建設システムの確立／鹿島建設・鹿島昭一
- 大阪ビジネスパークの開発推進／大阪ビジネスパーク開発協議会
- 神戸市北野、山本地区の都市景観保全／神戸市長・笹山幸俊〈特別賞〉

第３回●1993年
- 「コモンシティ星田」における全地中配電方式の技術開発及び適用／関西電力・秋山喜久
- 耐火鋼による無被覆鉄骨造建物の実用化／新日本製鐵・斎藤裕
- INAXギャラリーの活動とブックレットの刊行／INAX・伊奈輝三
- まちづくり会社「黒壁」の事業展開とその成果／(株)黒壁・長谷定雄
- 大型美術陶板等の開発と施工法の技術開発／大塚オーミ陶業・大塚正士
- 制震構造の研究とダイナミックインテリジェントビルの開発／京都大学名誉教授・小堀鐸二〈特別賞〉

第４回●1997年
- 織物文化への貢献／(株)川島織物・南荘郎
- 免震建物と免震効果の実証／(株)松村組・松村雄吾
- 工高教育におけるCADの有効利用と普及に関する研究／秋田県立大曲工業高校教諭・黒沢一元
- 膜構造建築物の技術開発とその実用化並びに普及／太陽工業・能村博正
- 実験集合住宅NEXT21／大阪ガス・領木新一郎〈特別賞〉

第５回●2000年
- 耐震診断及び改修計画の評定システムの策定と耐震診断の判定機構の確立／(財)愛知県建築住宅センター・角岡照一
- 氷蓄熱及び躯体蓄熱空調システムの開発と普及／竹中工務店・竹中統一
- 建築情報管理に関する実践と啓蒙及び一連の著作等／建築文化研究所・菊岡倶也
- 永年にわたる都市・建築文化の調査研究・指導および実践により都市文化の向上とまち創りに貢献／彦根市長・中島一〈特別賞〉

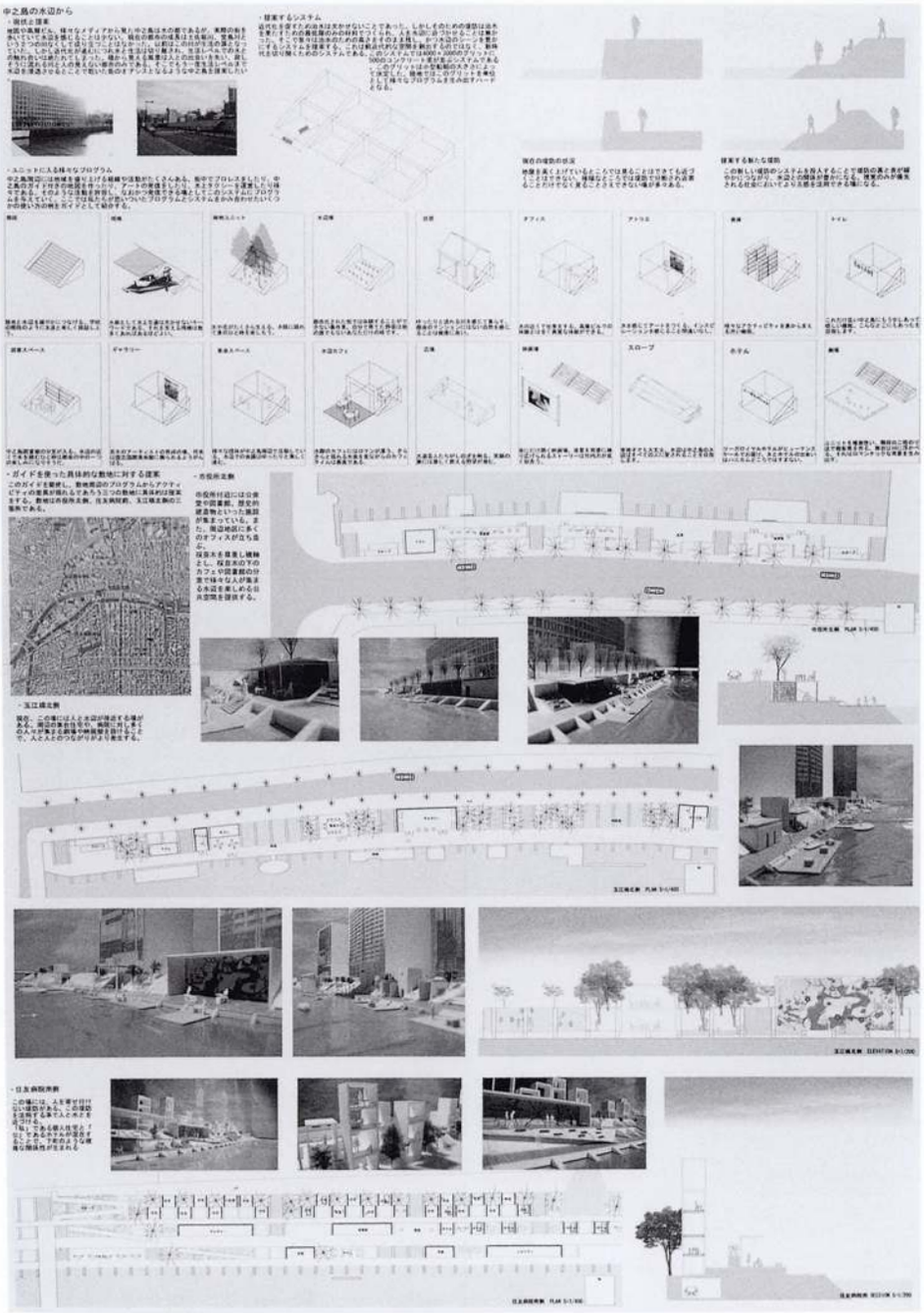
第６回●2004年
- 戸建免震住宅の研究開発とその実用化並びに普及／(株)一条工務店・山本庄一
- 永年に亘る建築関連書籍の出版／鹿島出版会・荒井欣弥
- 大阪市中央公会堂の保存と再生、活用「大正浪漫を次世代へ」／大阪市長・關淳一〈特別賞〉
- 二十一世紀の都心「六本木ヒルズ」の実現／森ビル(株)・森稔〈特別賞〉

§7

ロータリー2006地区IM6組
「美しい大阪・美しい中之島」

中之島デザイン アイデアコンペ

—社団法人日本建築協会・
大阪ロータリークラブ共催—



最優秀賞　**上西香那子**　関西大学工学部建築学科
（共同制作者：広岡周平・松宮和人・白石京士／関西大学工学部建築学科）

●審査員（50音順・敬称略）

橋爪紳也／大阪市立大学都市研究プラザ教授 —委員長—

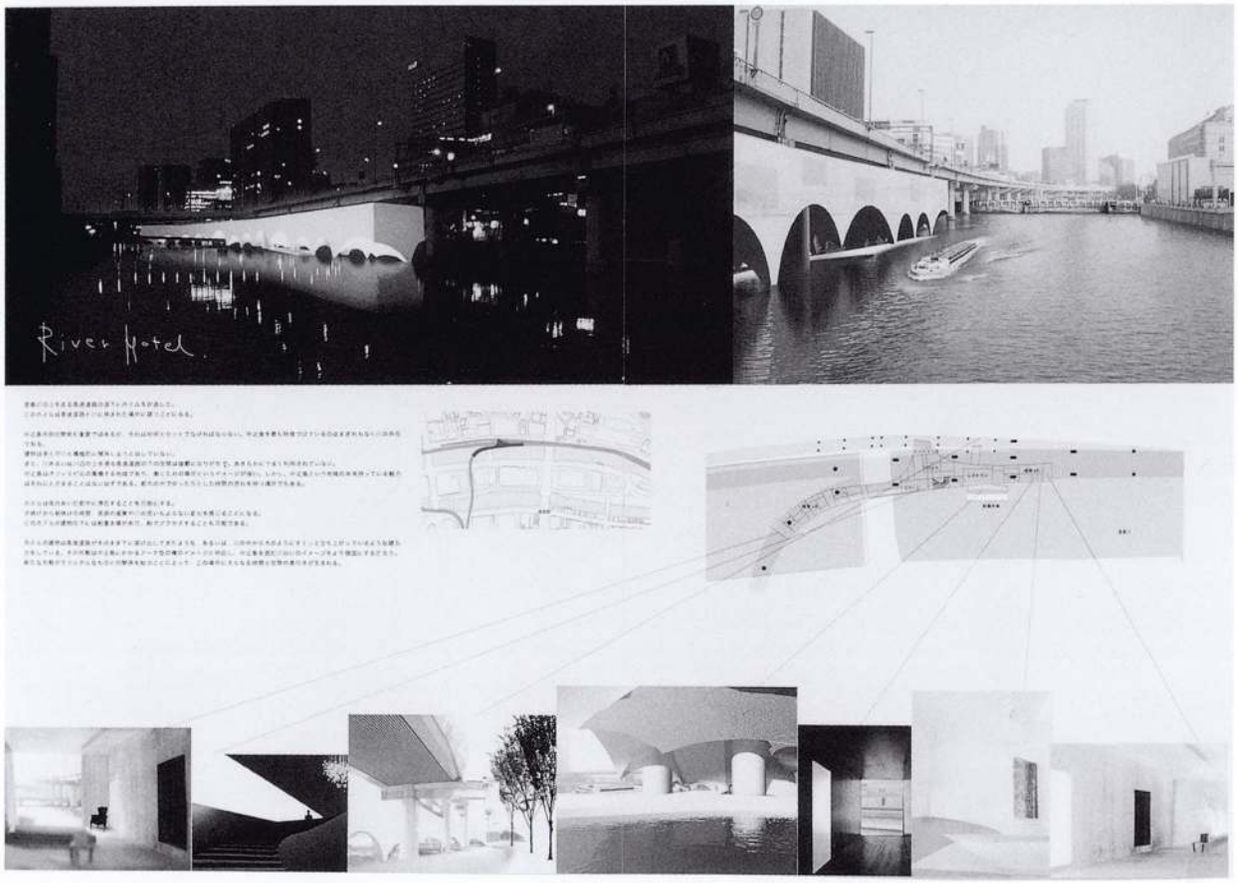
遠藤秀平／遠藤秀平建築研究所代表

奥田　務／㈱大丸代表取締役会長兼CEO、大阪ロータリークラブ会長

佐藤友美子／サントリー㈱次世代研究所部長

佐野吉彦／㈳日本建築協会会長、㈱安井建築設計事務所取締役社長、大阪ロータリークラブ会員・IM6組実行副委員長

堀井良殷／㈶大阪21世紀協会理事長、大阪ロータリークラブ会員



優秀賞　**尾野克矩**　京都工芸繊維大学大学院建築設計学専攻

総評

審査委員長　**橋爪紳也**

中之島は大阪の象徴であり、この都市にゆかりのある私たちの心の拠り所である。かつては諸藩の蔵屋敷がならび、「天下の台所」と呼ばれた商都を支えた。近代以降は、金融やビジネス、地方行政、文化のセンターという役割を担う。

夏季には遊興の地となっていた中洲を埋めたてて、東部に日本で初と呼ばれた「水上公園」が整備された。難波橋や天神橋などの橋梁のデザイン、河岸のプロムナードはパリを模範とする美観を提供した。日本銀行、府立図書館、市庁舎、中央公会堂がならぶ中央部はシビックセンターと呼ぶべき集積である。さらに朝日新聞社が社屋を構え、かつては朝日会館、大阪大学医学部が立地していた。フェスティバルホール、科学館、国立国際美術館などの存在とあいまって、戦前・戦後を通じて、大阪における学術・文化の拠点となった。大阪を代表する企業の本社やビルディングが集まる西部は、大阪を代表するビジネスセンターである。同時に国際性豊かなエリアでもある。その機能は国際観光の必要性が喧伝されるなか、官民協力のもとに新大阪ホテルが建設された昭和初期にまでさかのぼる。近年は国際会議場が開設されたことで、コンベンション機能が強化された。

要するに、各街区の単位が比較的大きな中之島地区は、大阪が近代都市として発展するなかで、必要とする都市施設の受け皿となってきたわけだ。結果として、経済・地方行政・学術・文化の拠点、さらには市民の憩いの場という実に多彩な機能を複合するかたちをとった。

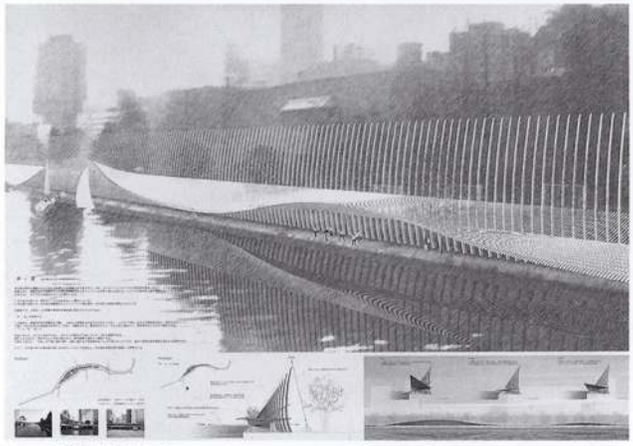
大阪の都市再生が進むなか、中之島界隈のシビック・センターが注目されている。西部での再開発事業、東部では公園の再整備、そして島全体を地下で貫く新たな鉄路の工事が進んでいる。2008年から2009年には話題のエリアとなることだろう。ひろくアイデアを集め新しい中之島像を描こうとする今回のコンペは、機をみた試みである。

応募者の属性は、現役大学生から六〇歳代の建築家まで、じつに幅がひろい。応募案をみると、中之島全体のビジョンを描こうとするもの、島内および近傍にある特定の場所を定めた提案に大別される。また後者では、川に面した地域特性を活かした空間システムやライフスタイルの提案、募集要項に特記されていたように既存の施設や未利用の空間をうまく活用したいとするアイデアもあった。

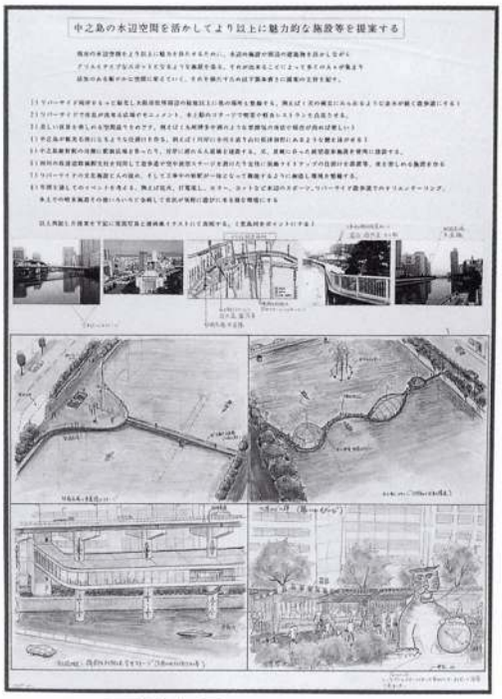
中之島全体のビジョンを示す提案は、総じて環境問題に配慮しようというものであった。現在駐車場などに暫定利用がなされているような土地をすべて空地として維持しつつ、屋上緑化などを果たすことで、環境に配慮した地域にしたいとするものが主である。意図は明確だが、その方法論にあっては斬新な提案はなかったように思う。

個別の提案では、芸術性の高い線形の構築物を陸と川とのエッジである堤防沿いに設置する案、東端に眺望できる場を確保する提案などを例示することができる。

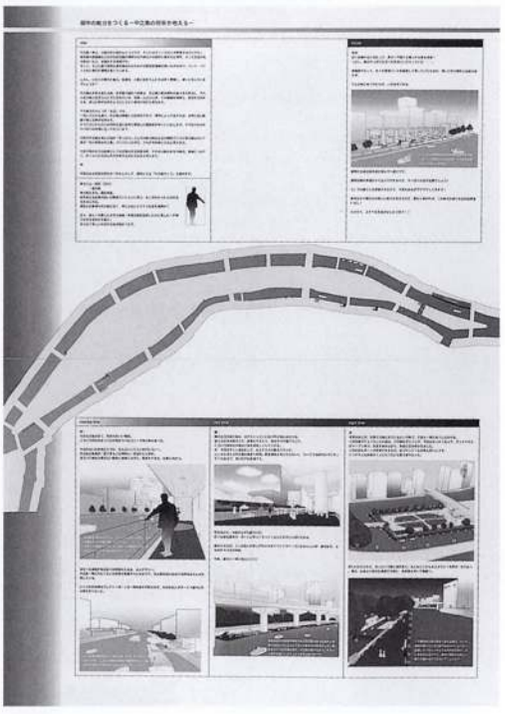
審査は二度の投票で上位の作品を絞り、最終的に審査員全員の挙手によって最優秀案一点、および最優秀案に順じる評価を得た作品一点を優秀案に選定した。その後、委員全員の賛同を得て、入賞以外の作品のなかから佳



佳作　**藤井洋之**
京都大学大学院工学研究科建築学専攻



佳作　**西川忠男**　西川建築設計事務所



佳作　**松本　拓**　松本拓建築事務所

作を選出することとし、二段階の審査を経て最終選考に残った作品三点を推すこととして審査を終えた。

審査の最終段階では、最優秀案・優秀案となった二作品に意見が集中した感がある。島内の三ヶ所を選定、堤防そのものをシステム化することで、川との密接な関係を持つ生活の場に改めようとする最優秀案に対しては、応募作のなかでもっとも中之島の現状を把握し、水路に挟まれた島の空間特性と向き合った提案とする評価があった。

阪神高速道の高架下をホテルとして利用しようとする優秀案に対しては、中之島の外部を想定しており、募集の趣旨に合っているかという問題提起があった。しかしあまり利用されていない境界空間を利活用するべきとする問題意識の高さを評価する意見が強かった。また水路側への具体案はあるが背後の陸側との関係性は稀薄である点、河川という公共空間にあって公共性への配慮がないという指摘もあった。

総じて言えば、水辺に親しむ空間を確保しようというアイデア、見捨てられたような場所を社会的な資産に転換しようとする提案があった点を評価する声が強かった。また緑陰や水辺の快適さを評価した生活提案を含む案が多かった点は注目に価する。文化と経済の中核という地域の特性を活かした新たな都心像を描くものではなく、むしろ親しみやすい日常の場として中之島を把握しようとする提案が多数を占めた。これまでのような都市の近代化を象徴するシビック・センターではなく、もう少し身近な生活空間としての中之島が求められているのだろう。

ある委員からは「もっと暴れたような提案があったらよかった」という声もあった。確かに大阪の都市再生事業にあって焦点となっている都心を対象に具体的な提案を求めるアイデアコンペであったのにも関わらず、地域社会に土地利用や導入機能の再考を促すような、あるいは世界に誇るべき大阪のブランドとなるような大胆な事業計画のアイデアは目につかなかった。想像力の飛躍と向上を求める意味からも、この種の事業を継続して実施することを主催者側に望みたいと思う。

■応募数　16作品
■審　査　2007年1月26日（金）
■表彰式　2007年2月24日（土）

§8

速　報

社団法人日本建築協会 創立90周年 記念式典・シンポジウム・祝賀会

と　き：平成19年３月30日
ところ：東天紅（OMMビル20階）

日本建築協会は、3月30日にOMMビルにて創立90周年記念式典を開催した。参加者は延べ350名を超え、盛会に行われた。詳細については、次号5月号に掲載予定。

《記念式典》 式辞/来賓祝辞/第７回日本建築協会賞表彰



日本建築協会会長　佐野吉彦


大阪府住宅まちづくり部技監　吉田敏明


大阪市住宅局建築指導部長　貝野　猛




国土交通省近畿地方整備局建政部長
坂　真哉


日本建築学会副会長
嘉納成男

■日本建築協会賞
・有形の「道具」と無形の「技術」の保存と伝承
㈱竹中大工道具館
・ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の保存と活用
㈱淀川製鋼所
・西梅田エリアの電力負荷平準化の計画と実施
㈱竹中工務店設計部
■日本建築協会賞特別賞
・大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）の運営
大阪市立住まいのミュージアム

《シンポジウム》 基調講演/パネルディスカッション



■基調講演
演題　関西の近代建築を支えた人々
講師　神戸芸術工科大学名誉教授
　　坂本勝比古氏



■パネルディスカッション
テーマ　「都市づくりに活かす“近代建築力”」
パネリスト
　坂本勝比古氏・栗本智代氏・松隈　章氏
司　会　佐野吉彦

《祝賀会》



社団法人日本建築学会
副会長　嘉納成男氏




社団法人日本建築協会
副会長　門川清行





436

法令コーナー

エスカレーター・エレベーター等の日常事故

山本　強

大阪府住宅まちづくり部建築指導室建築安全課

「大阪府建築物に附属する特定の設備等の安全確保に関する条例」（以下「条例」という）の施行から、この4月1日で1年が経過した。この条例は平成16年3月に、東京六本木ヒルズの自動回転ドアで児童が挟まれて死亡した事故を機に制定された。

本稿では条例に基づき届出のあった事故から見えてくる日常事故の実態と、事故防止への取り組み等を紹介したい。

なお、条例の概要は本誌平成18年1月号を参照されたい。

届出事故の現状

（1）条例に基づく事故の届出件数

平成18年12月末現在、大阪府内の建築物に設置されたエスカレーターは5,562基、同じくエレベーターは59,627基（ホームエレベーターを除く）である。これらの昇降機によって建築物内の上下移動の利便性が増大し、バリアフリーにはなくてはならないものになっている。しかし利用者が増えれば、事故に遭う人も増えてくる。これまでエスカレーターやエレベーター等での日常的な事故については、その実態が不明であったが、本条例により、これら設備での受傷者数を把握することができた。

表1は、条例で届出を義務付けた設備（以下「特定設備」という）別、平成19年2月16日現在の届出件数（合計129件）である。

表1

特定設備	件数
エレベーター*1	28
エスカレーター*2	93
自動ドア*3	7
機械式駐車場*4	0
遊戯施設*5	1

＊1　建築物に附属するもので、ホームエレベーターを除く。
＊2　建築物に附属するもので、動く歩道を含む。
＊3　自動回転ドアを含み、不特定多数が利用する建築物に設置されたものに限る。
＊4　不特定多数が利用する建築物に設置されたものに限る。
＊5　建築基準法施行令第138条に規定する遊戯施設

（2）届出のあった建築物等の用途

図1は、事故の発生した場所（建築物）別のグラフである。百貨店、スーパーマーケット、物品の販売店の用途の建築物で全体の4分の3を占めており、予想通り、不特定多数の集客施設において事故が多いことが認められる。これらの施設は、老若男女を問わず、また一年を通じて人の動きが絶えない施設である。

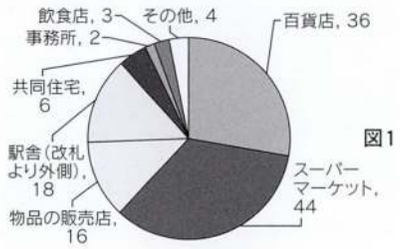


図1

（3）エスカレーター事故の現状

表2は、エスカレーター事故における事故の事象と、受傷年齢の関係を整理したものである（年齢不詳の1名を除く）。高齢者の転倒事故が目立って多いことがわかる。

では、受傷者が事故に遭遇した状況はどのようなものだったのか、それをまとめたものが**図2**である。上位4種で4分の3近くを占めているが、手すりベルトをきちんと握るという基本的な乗り方さえ守っていれば、防げたはずの事故である。ショッピングカートなどを押していて、手すりベルトが握れないような状況であれば、無理をして乗りこまず、エレベーターなどを利用すべきであった。「その他」には、高齢者の転倒で、なぜ転倒したのか理由が不明であるものが11件含まれている。

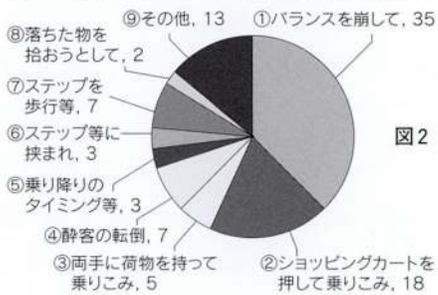


図2

（4）エレベーター事故の現状（表3）

5歳以下で、ドアに挟まれる事故が目立つ。これは、幼児がエレベーターのかご内において、手のひらでドアに「ぺたり」と触れていたため、“幼児にとっては”突然に開き始めたドアから手を離すことができず、引きこまれたものである。これを防ぐには、同乗している周りの大人が注意してあげることであろうと思われる。

（5）自動ドアの事故

届出は7件で、事故を分析するまでのデータとなっていない。ただ、自動ドアが開ききっていない場合にぶつかる等の事故が6件届け出られており、人の歩行スピードと自動ドアの開閉スピードに関連性が出てくる可能性がある。

届出実績の詳細

特定設備で発生した事故の届出は、ホームページでご覧いただける。http://www.pref.osaka.jp/kenshi/kikaku/anzen/ziko/jyouhou.html

この制度は、より多くの事故情報を収集することが不可欠であり、届出をすることがマイナスイメージとなり、届出を渋ることだけは避けなければならない。したがって、届出のあった施設名称は公表しないこととしている。

事故情報の発信

この条例は、事故届出の制度により、事故が発生した設備での単発的、偶発的な事故に終わらせず、その事故情報を同種の設備の管理者等や一般の利用者が共有することで、再発を防止することが目的である。

届出事故を見る限り、同様の事故はどこで起こっても不思議ではない。特定設備の管理者等は、事故情報を参考に、事故防止対策への参考としていただきたい。

今後は、これらの事故情報を多くの人々に伝えるため、より実効性のある方策を検討していかねばならないと考えている。

（やまもと　つとむ）

表2　エスカレーター事故

	～5歳	6～12歳	13～19歳	20～64歳	65歳～
転倒	●●●●●●●●	●		●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●

ICタグの無線ネットワークシステムへの適用

山田雅弘
㈱日立製作所 都市開発システムグループ ソリューション統括本部

ICタグの活用状況

ICタグは、流通分野での業務効率向上の目的にとどまらず、安心・安全・利便性の向上など社会経済活動を支える技術として期待されており、さらに適用範囲、分野を広げるべく研究・開発が進められている。

ICタグはその特徴によって、読み取り装置からの電波によって駆動し電波を送信するパッシブタグと、自らが駆動電源を持ち自立的に駆動し電波を送信するアクティブタグに分けられる。

パッシブタグはその利便性に加えて大きなデータ容量、改ざん困難な高いセキュリティにより、バーコードに代わる技術としてすでに様々な分野で利用されており、米ウォルマート・ストアーズでは商品やパレット／ケースにICタグを取り付けて商品管理を行うシステムが稼動し始めている。一昨年に開催された愛知万博入場券には日立製作所のミューチップが採用され、セキュリティの高さも実証された。医薬品に付与し、患者への投薬時にその患者の情報とリンクさせることで医療過誤を防ぐなど、安心・安全の分野での利用も可能である。

経済産業省の研究開発委託事業として始まった「響プロジェクト」では1インレット（ICタグとアンテナが一体となったもの）5円という目標を掲げ、それを実現するための要素技術の開発が行われたが、この成果をもとに各社で製品化が進められており、流通する商品すべてにICタグが付与されることも現実のものとなってきている。

これに対し、アクティブタグは自らが電池を持つ特性を活かし10mを超えるデータ送受信に用いられるほか、最近では車のキーレスエントリーにも適用され、ICタグを持っていれば特別な作業を行わなくてもドアを開けたりエンジンをかけたりできるなど、高いセキュリティと利便性を両立させている。このアクティブタグを用いた技術に、センサネットワークシステム（以下センサネット）がある。センサネットは、ユビキタス社会を支える新たな技術として多くの企業が取り組んでおり、最近、実際に適用され始めた。

センサネットとは

センサネットとは、身の回りのモノや人の状態、環境情報等をネットワークで収集し、その情報を設備機器の制御やサービスに結びつける技術である（図1）。

センサノードの使用する電力を極力抑えることで小型化、低価格化を図り、設置が難しかった場所に数多く設置できるようになったことや、マイコンを搭載することで異常が発生したときのみデータを送信するなど、センサノードが知的になったことがセンサネットの大きな特長と言える。当社で製品化している据置型センサノードを図2、表1に示す。

センサネットはセンサノードが装備するセンサにより、温湿度センサ、パーティクルセンサを用いた環境／衛生モニタリング、脈拍センサ（図3）による高齢者見守り、ひずみセンサによる構造物劣化モニタリングなど、同じプラットフォームを用いて様々なアプリケーションに対応できる。適用が期待されている分野には、以下のようなものがある。

- 家屋、ビル、施設への不審者の侵入や破壊、放火、盗難などの監視、各種機器の定期点検の自動化、空調制御のインテリジェント化
- 林野火災や土砂崩落、地盤変異、河川の水位変化といった自然災害の予兆の検知
- 移動中の商品の温度、傾き、衝撃をモニタリング。ロジスティクスの全ルートでの品質確保
- 介護施設やマンションでの高齢者の健康状態管理、安否・位置確認。緊急時の通報

食品工場向け環境モニタリングシステム

このセンサネットを用いて開発したものに、食品工場向け無線環境モニタリングシステムがある。この環境モニタリングシステムでは、その特長を活かして、従来の課題を解決した。

①設置場所を選ばない

センサノードは電池駆動、無線通信であり、作業者の手元や足元などモニタリングや制御のために実際に測定したい場所への設置が可能である。コンテナのような移動物にも付与でき、食品の入出荷全ルートのルート追跡や環境状態を把握することが可能である。

②設置場所の変更や追加・削除が容易

測定が不要となった場所から取り外し、別途必要になった場所に設置し直すなどの作業も手間がかからない。本システム実適用案件においては、天井裏に設置した5個の中継ノードと1個のゲートウェイにより、測定が必要と考えられる約2000㎡フロアをカバーしており、そのエリア内であればどこでもセンサノードを移動可能である。

③センサ数増加に伴うコスト増加の抑制

配線工事が必要でないため、センサノード増加に伴うコストパフォーマンスに優れる。また、システム稼動後に追加が必要になった場合も新たな工事を必要としないため、センサノード購入費用だけで増設が可能である。

*

センサネットを用い、モニタリングした情報を設備機器に伝えることにより、より細やかな空調制御なども可能となる。将来的には複数の施設や生産ラインの環境状態を一元的に遠隔でモニタリングすることによる、品質管理業務の効率化と環境状態の適正化を両立させるような利用が期待される。

（やまだ　まさひろ）

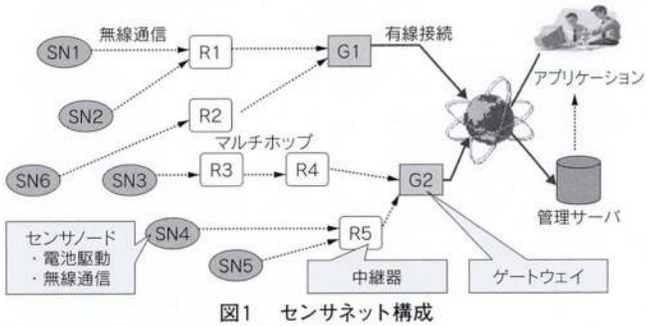


図1　センサネット構成



図2　センサノード



図3　脈拍センサ

表1　温湿度センサノード仕様

内蔵温湿度センサ	測定範囲	0～50℃
	精度	温度±0.4℃（25℃時）、湿度±3.0%RH（25℃時）
本体寸法		*H*45mm×*W*60mm×*D*20mm
質量		120g
無線方式・周波数		IEEE　802.15.4、2400-2480MHz
通信距離		屋内：～40m、屋外：～100m（見通し）
電池		リチウム電池CR123A
電池寿命		5分間隔通信で3年間動作、10分間隔通信で4年間動作

お知らせ information

▶「ロダン―創造の秘密」展

パリの国立ロダン美術館が所蔵するオーギュスト・ロダン（1840～1917）の作品190点が、開館5周年記念展として兵庫県立美術館で展示される。キーワードは「白と黒」。ブロンズの彫刻「黒いロダン」に加えて、大理石や石膏による「白いロダン」が紹介される。

会　期　2007年4月3日(火)～5月13日(日)
10:00～18:00(金、土曜日は20:00まで)
月曜日休館、4/30（月・祝）は開館、翌5月1日（火）は休館

会　場　兵庫県立美術館・企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
阪神「岩屋」駅から南に徒歩8分

観覧料　一般1,300円、大高生900円
中小生500円

出　品　彫刻146点（カミーユ・クローデルによるロダンの肖像彫刻などを含む）、版画・素描18点、写真26点の計190点

招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。



オーギュスト・ロダン《眠り》　ロダン美術館
Photo：Adam Rzepka　©musée Rodin

▶ベルギー王立美術館展

油彩は15世紀のフランドル地方（今のベルギー）で開発された技法であり、16～17世紀にはルーベンスやブリューゲルらに代表されるフランドル絵画が、イタリア絵画とともにヨーロッパで主導的な役割を果たした。

ベルギーが誇るベルギー王立美術館は200年以上の歴史を持ち、15～20世紀の約20,000点を所蔵する。今回の国立国際美術館の展覧会では、所蔵品の中から16～20世紀の作品87点を展示する。とくに、ピーテル・ブリューゲル〔父〕の作とされる「イカロスの墜落」が日本初公開されることは注目される。

会　期　2007年4月7日(土)～6月24日(日)
10:00～17:00（金曜日は19:00まで）
月曜休館（ただし4/30は開館）



ピーテル・ブリューゲル「父」(?)《イカロスの墜落》
16世紀後半　©KMSKB-MRBAB

会　場　国立国際美術館
大阪市北区中之島4-2-55
地下鉄四つ橋線「肥後橋」より徒歩10分、JR「大阪」駅より徒歩20分

観覧料　一般1,400円、大学生1,100円、高校生600円、中学生以下は無料

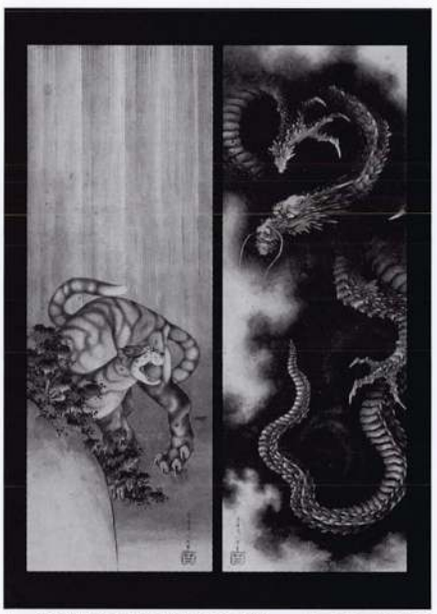
出　品　ピーテル・ブリューゲル〔子〕《婚礼の踊り》、ポール・デルボー《ノクターン》、ルネ・マグリット《光の帝国》、ジェームズ・アンソール《燻製ニシンを奪い合う骸骨たち》ほか

招待券は日本建築協会（TEL 06-6946-6981）へ。

▶「ギメ東洋美術館所蔵浮世絵名品展」

世界屈指の東洋美術の殿堂として知られるギメ東洋美術館は、1889年に実業家エミール・ギメ（1836～1918）によって設立され、1945年には、ルーヴル美術館の東洋美術コレクションが移管されている。

近年ギメ東洋美術館に寄贈された北斎の「龍図」が、太田記念美術館所蔵の「虎図」と双幅であることが分かり、美術史上の大発見と新聞紙上を賑わした。今回の展覧会で、世界



左：葛飾北斎「虎図（雨中の虎）」　太田記念美術館蔵
右：葛飾北斎「龍図」　フランス国立ギメ東洋美術館蔵
©Musée Guimet／Thierry Ollivier

で初めて双幅で展示される。

■特別展「ギメ東洋美術館所蔵浮世絵名品展～パリを魅了した江戸の華―北斎・写楽・歌麿～」

会　期　2007年4月10日(火)～5月27日(日)
9:30～17:00
月曜日休館（4/24～5/6は無休）

会　場　大阪市立美術館（天王寺公園内）
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
地下鉄御堂筋線・谷町線・JR「天王寺」駅下車

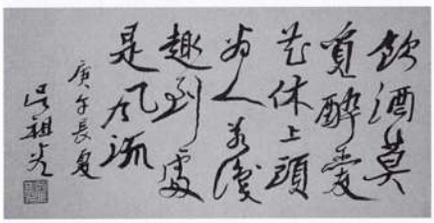
観覧料　一般1,200円、高大生900円、中学生以下、大阪市内在住65歳以上は無料

・ギメ東洋美術館所蔵―葛飾北斎23点、東洲斎写楽11点、喜多川歌麿19点、歌川広重14点、鈴木春信7点、鳥居清長10点ほか
・太田記念美術館所蔵―葛飾北斎「虎図」

■作品解説（1階講演会室、定員150名）
4月28日(土)、5月5日(土)、5月12日(土)、5月19日(土)　13:30～14:30

特別展の招待券希望者は日本建築協会（TEL 06-6946-6981）へ。

▶2007日本中華年「呉氏三代展」



書画　呉祖光

呉氏三代は中国の芸術家一族として活躍してきた。祖父・呉瀛（ごりょう）は書画・篆刻の大家、父・呉祖光（ごそこう）は戯曲家・書道家、そして呉歓（ごかん）（1953～）は書道家・画家。

東京で、2007日本中華年スプリングイベントとして、呉氏三代の書画芸術の作品約40点を展示する。同展大阪展は9月に開催予定。

会　期　2007年4月27日(金)～5月8日(火)
11:00～19:00　会期中無休

会　場　有楽町朝日ギャラリー
東京都千代田区有楽町2-5-1
有楽町マリオン11階

入場料　無料

▶「熱帯花鳥へのあこがれ」

17歳のころ、上村松篁が展覧会で見た石崎光瑤の「熱国妍春」「燦雨」などは、松篁の熱帯花鳥を描く夢をふくらませた。そして40年後、57歳の松篁はインドや東南アジアへ旅立つ。本展では、若き松篁に多大な影響を与えた石崎光瑤の作品と、松篁自身が築き上げた熱帯花鳥の世界約60点を紹介する。



上村松篁「樹下幽禽」　1966年　日本芸術院蔵

会　期　2007年4月3日(火)～5月20日(日)
10:00～17:00　月曜日休館
ゴールデンウィーク中は無休

会　場　松伯美術館　TEL 0742-41-6666
奈良市登美ヶ丘2-1-4

入館料　大人1,000円、小中生500円

展　示　・石崎光瑤―「筧」「藤の森」「熱国妍春」「燦雨」「雪」「白孔雀」「秋光」「寂光」ほか
・上村松篁―「熱国睡蓮」「熱帯花鳥」「ハイビスカスとカーディナル」「冠鶴」「燦雨」「鳳凰木」ほか

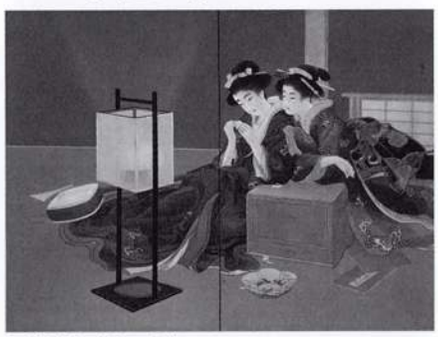
▶麗しき近代美人画の世界

一人のコレクターが独自の視点を持って美人画を蒐集してきた、培広庵コレクション。コレクションは大正期から昭和初期の美人画を中心に集められており、その中から約80点が西宮市大谷記念美術館で公開される。

会　期　2007年4月7日(土)～5月20日(日)
10:00～17:00　水曜日休館

会　場　西宮市大谷記念美術館
西宮市中浜町4-38
阪神「香櫨園」駅下車、南西へ6分

入館料　一般800円、高大生600円、小中生300円



石井滴水「後の月」　1907年頃

構　成　・東都・江戸の風味を残す美人画―鏑木清方、池田輝方・池田蕉園、伊東深水ほか
・京・大阪の伝統―上村松園、寺島紫明、樋口富麻呂ほか
・大阪の画家たち―北野恒富、島成園、木谷千種ほか
・金沢の伝統―広田百豊、紺谷光俊

招待券は日本建築協会(TEL 06-6946-6981)へ。

▶「絵画と衣裳 美の名品」展

丸紅㈱の企業コレクションの中から約200点を、京都文化博物館で展示する。

会　期　2007年4月13日(金)～5月27日(日)
10:00～18:00　月曜日休館(祝日開館)

会　場　京都文化博物館4階・3階展示室
京都市中京区三条高倉

入場料　一般1,200円、大高生800円、中小生500円

展　示　・「淀君の辻が花小袖復元」ほか
・図案意匠―竹内栖鳳「磯つづれ」伊東深水「秋晴れ」ほか
・ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー「ヴィル・ダブレーのあずまや」キスリング「ミモザの花」ほか
・藤島武二「浜辺」熊谷守一「熱海」梅原龍三郎「桜島」中川一政「鉄線花」岡鹿之助「積雪」ほか

招待券は日本建築協会(TEL 06-6946-6981)へ。



サンドロ・ボッティチェリ「美しきシモネッタ」　15世紀

▶個展__昆虫3DCGと昆虫模型



昆虫3DCGと昆虫模型展より

仕事で生物模型を作って以来、微小な生物のかたちに魅了されたという三木昭氏（京都市立芸術大学彫刻科中退）の、彫刻刀や粘土ベラを持ち替えてコンピューターと3DCGのソフトを用いた立体写真の展示会が開かれる。

会期　2007年4月24日(火)～5月6日(日)
11:00～20:00、月曜日休廊

会場　アートスペース虹　TEL 075-761-9238
京都市東山区三条通神宮東入る3丁目

▶「アトリエ・ワン展 いきいきとした空間の実践」

アトリエ・ワン（塚本由晴、貝島桃代）が実践する「いきいきとした空間」を、ギャラリー・間で展示している。入場無料。

会場には、アトリエ・ワンのマイクロ・パブリック・スペース（囲いのない公共空間）の代表作「ホワイト・リムジン・屋台」や新たに制作する「人形劇の家」が、グローカル・テタッチド・ハウス（地域性に配慮しつつグローバルな視線に立った戸建住宅）の代表作「ガエ・ハウス」「ハウス&アトリエ・ワン」、さらに世界5カ国8都市で進行中のプロジェクトが20分の1の模型によって展示される。

会　期　2007年3月8日(木)～5月12日(土)
11:00～18:00（金曜日は19:00まで）
休館日＝日曜、月曜、祝日

会　場　ギャラリー・間 TEL 03-3402-1010
東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル

詳しくはhttp://www.toto.co.jp/gallerma/へ。

▶藤森建築と路上観察

昨年の第10回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展で開催された「藤森建築と路上観察：誰も知らない日本の建築と都市」は、日本の現代建築のもうひとつの顔として話題を呼んだ。東京オペラシティアートギャラリーに、再びヴェネチア・ビエンナーレ建築展がヴァージョンアップした形で登場する。

■藤森建築と路上観察―第10回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展帰国展

①「見たこともないのに懐かしい」藤森照信の「野蛮ギャルド建築」―自然の素材、地域に残る昔ながらの技法など近代建築が排したものを取り入れた「過去に向かっての前衛」の試み。

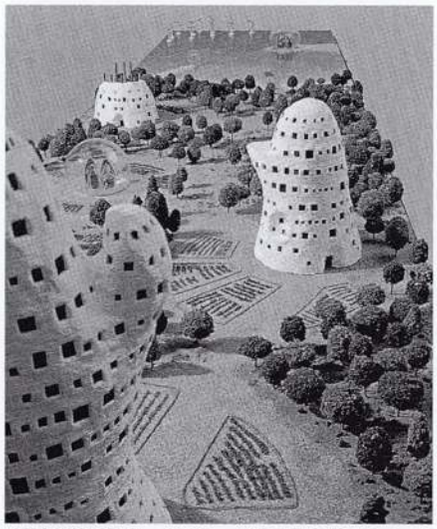
②帰国展特別プロジェクト「過去・現在・未来」―《東京計画2101》からさらに6年後、全長約9mにおよぶ模型《東京計画2107》は温暖化で水没した東京のその後を描いたもの。

③メンバー自身の手による展示「路上観察学会」―赤瀬川原平（作家）、南伸坊（イラストレータ）、松田哲夫（編集者）、林丈二（作家）ら結成以来のメンバーが、活動初期の写真や刊行物を集め、自ら展示する。

会　期　2007年4月14日(土)～7月1日(日)
11:00～19:00（金・土は20:00まで）
月曜日休館（4/30は開館）

会　場　東京オペラシティアートギャラリー
東京都新宿区西新宿3-20-2

入場料　一般1,000円、大高生800円、
中小生600円



《東京計画2101》　2001年　鹿児島県民交流センター蔵
撮影：増田彰久

■講演「藤森建築と路上観察」4月26日(木)
藤森照信／赤瀬川原平／南伸坊／松田哲夫／林丈二
時間／19:00～、定員／230名、料金／1,500円

■トーク・セッション
①石山修武×藤森照信　5月13日(日)19:00～
②中谷礼仁×藤森照信　5月27日(日)19:00～

■見学会「藤森先生と行く建築ツアー」
5月20日(日)　―集合8:30～19:00解散―
見学先／茶室 徹、神長官守矢史料館、高過庵
定員／40名、料金／7,500円（昼食付）

関連企画の詳細はhttp://www.operacity.jp/ag/へ。

▶飯田市 川本喜八郎人形美術館、3月25日にオープン

「『人形が生きている』。人形の魅力を直ちにこの言葉で表現できる人々の住んでいる街。ここが私の人形たちにふさわしい場所ではないのか」と語る人形美術家・川本喜八郎氏は、長野県飯田市に3月25日に誕生した「飯田市川本喜八郎人形美術館」の館長として、人形文化を世界に発信していく。

同館は、飯田市の第4次基本計画の重点プロジェクト「人形劇のまちプロジェクト」の一環に位置づけられ、芸術文化を通じて人々の交流拠点となることを目指している。

今後、NHKで放映された人形劇「三国志」のオリジナル人形110体、「平家物語」の人形40体、アニメーション・絵本・舞台・TV関連51体が収蔵される予定。（オープン時は「三国志」の人形54体＋馬3頭、9体のアニメーション人形を展示）

所在地　長野県飯田市本町1-2
TEL 0265-23-3594

施　設　1階／美術館収蔵庫
2階／映像ホール、交流ゾーン
3階／展示室、体験学習室

運　営　2階〈10:00～22:00開館〉 3階〈10:00～19:00開館〉
月曜・祝日の翌日・年末年始休館

入館料　（3階）大人400円、小中高生200円

http://www.city.iida.nagano.jp/puppet/kawamoto/

▶竹中大工道具館「技と心」セミナー

竹中大工道具館では、平成19年度もシリーズで「技と心」セミナーの開催を予定しており、開催日2週間前の金曜日を締め切りとして、参加者を募集している。

5月のセミナーは、参加者を募集中。

●「楼観」再考―青谷上寺地遺跡のながい柱材をめぐって／浅川滋男（鳥取環境大学）
――鳥取県の青谷上寺地遺跡の出土建築部材の整理作業中に復元された柱材の長さが、724cmに及ぶことが明らかになった。この柱材が魏志倭人伝に見える「楼観」の構造に復元できることを語る。

日　時　2007年5月19日(土) 13:30～15:00
会　場　竹中大工道具館 TEL 078-242-0216
神戸市中央区中山手通4-18-25
定　員　35名
申込み　5月4日までに往復ハガキで竹中大工道具館へ。往信用にセミナー番号㉕とセミナー名ほかを、返信用には参加希望者氏名・住所と〒を記入。
竹中大工道具館「技と心」セミナー係
〒650-0004　神戸市中央区中山手通4-18-25

▶庭園倶楽部の講演会＋旅行

住まいと庭園の空間美学を、分野の違う研究者2人がそれぞれの視点で語るシリーズ講演会が、ワタリウム美術館で開催されている。

申込方法　ワタリウム美術館「新庭園倶楽部」へFAX（03-3405-7714）で。
会　費　入会金5,000円（倶楽部会員無料）
参加費14,000円（旅行経費別途）
開催時間　19時～21時
開催場所　ワタリウム美術館
TEL 03-3402-3001
東京都渋谷区神宮前3-7-6
講　師　小沢朝江（東海大学助教授）
重森千青（重森庭園設計研究室）
進士五十八（東京農業大学教授）

- 5月25日(金)唐と和／小沢
- 6月29日(金)日本庭園と中国庭園／重森
- 7月20日(金)洛中洛外と住まい／小沢
- 9月28日(金)七五三石組について／重森
- 10月20日(土) 21日(日)―庭園研修旅行―
- 10月26日(金)茶の空間／小沢
- 11月9日(金)手水鉢のこと／重森

総　会

第2回通常総会

2月28日（水）16：05～16：40
出席者　佐野会長ほか807名
（1,734口　委任状含む）
場　所　OMM地下1階ギャラリー
議　事　（1）平成19年度事業計画（案）
（2）平成19年度収支予算（案）
（3）報告事項

理事会

第2回通常理事会

2月28日（水）15：00～15：45
出席者　佐野会長ほか46名
（委任状含む）
場　所　OMM地下1階ギャラリー
議　事　（1）平成19年度事業計画（案）
（2）平成19年度収支予算（案）
（3）報告事項

第8回常任理事会

2月7日（水）16：00～17：30
出席者　佐野会長ほか8名
議　事　（1）平成19年度事業計画（案）
（2）平成19年度収支予算（案）
（3）創立90周年記念事業
（4）その他

編集委員会

第11回編集委員会

2月14日（水）18：00～21：45
出席者　設楽委員長ほか5名
議　事　（1）3月号「東海支部3部作」特集経過報告
（2）4月号90周年記念号「この10年、これからの10年」特集経過報告
（3）5月号「あそび」考 特集の企画
（4）6月号特集“こだわりのある家”の企画
（5）7月号「住まいの設備と空間の移り変わり」特集の企画
（6）作品作風、広告企画、各分科会からの報告
（7）収支状況報告
（8）読者と選ぶ「建築と社会」賞の第一次審査

第4回計画系分科会

2月8日（木）19：00～21：15
出席者　三宅幹事ほか2名
議　事　2007年5月号計画系特集の企画

第5回計画系分科会

2月21日（水）19：00～21：10
出席者　三宅幹事ほか3名
議　事　2007年5月号「あそび」考 特集の企画

第9回建築計画系分科会

2月16日（金）18：30～20：00
出席者　荒木幹事ほか5名
議　事　2007年8月号特集テーマ

第4回インテリア・住宅系分科会

2月20日（火）18：30～20：30
出席者　高野委員ほか3名
議　事　6月号“こだわりのある家”特集の企画

第7回設備分科会

2月7日（水）18：00～20：30
出席者　赤澤幹事ほか5名
議　事　（1）「設備の頁」の企画
（2）“測定機器シリーズ”頁の企画
（3）2007年7月号設備特集の企画

第11回法令分科会

2月21日（水）14：00～15：10
出席者　赤井幹事ほか4名
議　事　（1）「法令コーナー」の企画
（2）法令特集の企画
（3）情報交換

第11回作品作風小委員会

2月22日（木）19：00～20：00
出席者　井上副委員長ほか9名
議　事　（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）前回の編集委員会の報告
（5）90周年記念号企画委員会からの報告
（6）新委員の紹介

第11回広告企画小委員会

2月14日（水）16：30～18：10
出席者　設楽委員長ほか4名
議　事　（1）3月号「東海支部3部作」特集経過報告
（2）4月号90周年記念号「この10年、これからの10年」特集経過報告と広告企画
（3）5月号以降の特集企画
（4）単発広告企画頁のテーマとその具体化
（5）広告掲載状況
（6）収支状況報告

第8回90周年記念号企画委員会

2月6日（火）18：00～20：00
出席者　設楽委員長ほか3名
議　事　4月号創立90周年記念号「この10年、これからの10年」特集

第9回90周年記念号企画委員会

2月28日（水）18：30～21：00
出席者　設楽委員長ほか4名
議　事　4月号創立90周年記念号「この10年、これからの10年」特集

講習会

建築工事実務講習会／施工計画

2月20日（火）9：05～17：05
場　所　エル・おおさか5階・研修室
講　師　阪井　聡／㈱大林組本店
河野浩司／㈱竹中工務店大阪本店
有光利治／鹿島建設㈱関西支店
参加者　58人

出版委員会

第10回出版委員会

2月15日（木）18：00～19：00
出席者　上原委員長ほか9名
場　所　三協立山アルミ㈱住宅・EX建材支店2階会議室
議　事　（1）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（2）進行中のテーマについて
（3）その他

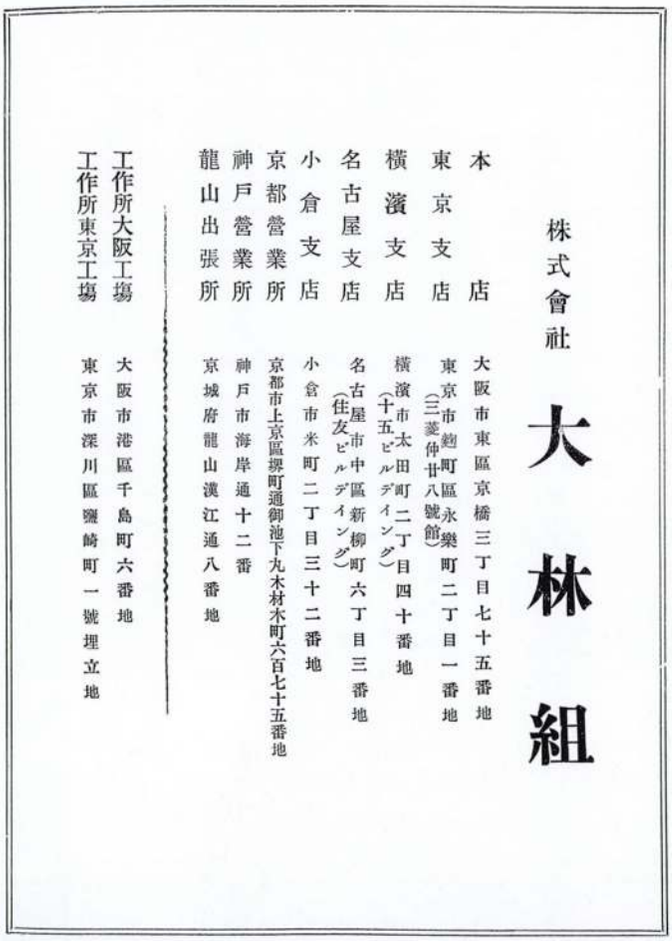
入会者（敬称略）

〔個人正会員〕

阿部　正道（㈲阿部建築工房一級建築士事務所）
岡部　功（㈱昭和設計）
長谷部　利英（長谷部建築設計室）
浜野　裕次郎（浜野木材㈱）
林　直見（㈱エコプラン）
望月　徹也（㈲望月建築事務所）
山田　尊久（㈱山田尊久建築設計事務所）
肆矢　久（肆矢設計室）

〔団体会員〕

東邦ガス㈱



昭和２年12月号広告

1892年（明治25年）の創業以来、大林組は日本の建築史を彩る数々の建造物を築いてきました。「良く、廉く、速い」をモットーに、古くは東京駅、甲子園球場から、関西国際空港や東京湾アクアラインなどの日本を代表するビッグプロジェクト、最近では、品川を始め、丸の内、六本木、汐留、なんばなどの大型の都市開発に携わってきました。

また、2003年（平成15年）４月より「優良企業構想」を掲げており、常に高い収益力を持ち、絶えず成長する企業を目指しています。そのためにも、都市再生、リニューアル、環境関連、海外工事など、成長が期待される分野や技術力を活かせる分野に積極的に取り組んでまいります。

＜大林組の企業理念＞

①創造力と感性を磨き、技術力と知恵を駆使して、空間に新たな価値を造り出す。

②個性を伸ばし、人間性を尊重する。

③自然と調和し、地域社会に溶け込み、豊かな文化づくりに寄与する。

これらによって、生活の向上、社会の進歩と世界の発展に貢献する。

本　　店　〒540-8584　大阪市中央区北浜東4-33　TEL　06-6946-4400

東京本社　〒108-8502　東京都港区港南2-15-2　品川インターシティB棟　TEL　03-5769-1111

事業所：本店、東京本社、札幌支店、東北支店、横浜支店、北陸支店、名古屋支店、神戸支店、広島支店、四国支店、九州支店、技術研究所、海外事務所

ホームページアドレス：http://www.obayashi.co.jp/



創業時（1892年）店舗の鬼瓦

TAKENAKA
CORPORATION

建物は、知恵と技術で、
よみがえる。



時を超えて価値あるビルへ

魅力再生®

「魅力再生」とは、建物に新しい生命を吹き込むこと。
これまでなかった機能や美観をプラスすることで
さらに資産価値を高める技術のことなのです。

www.takenaka.co.jp

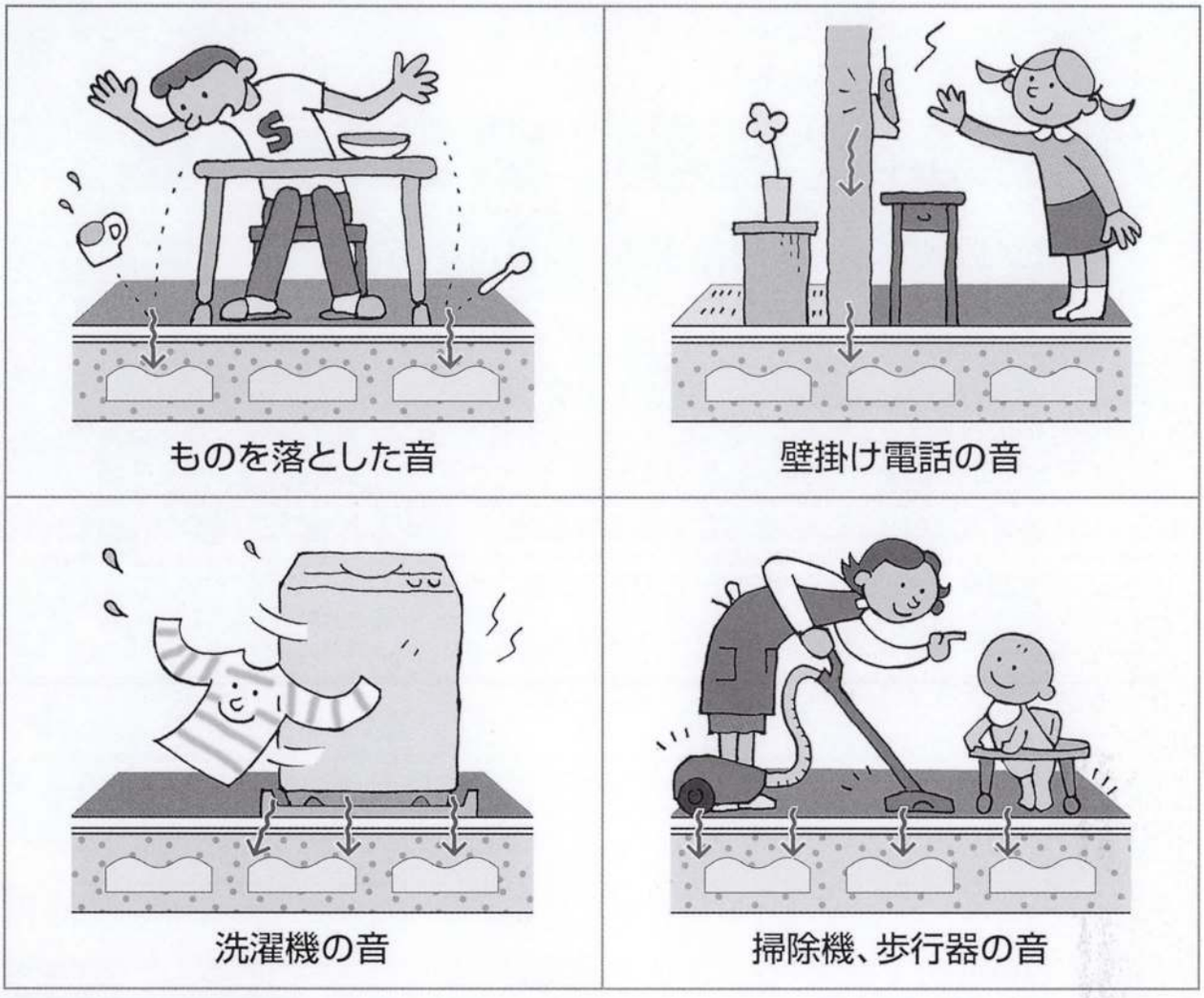
想いをかたちに

竹中工務店

お問い合わせは ——— 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel.03(6810)5140
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605


FSボイドスラブ構法
サイレントボイド
[特許出願中]
BCJ評定 RC 0062-02(一方向)
RC 0130-02(二方向)
fujimori

サイレントボイドによる床衝撃音(固体伝搬音)の遮音性能向上例



サイレントボイド標準物性値

項目	単位	標準物性値	測定方法
密度	Kg/m^3	16.0以上	JIS A 9511
熱伝導率	W/mK	0.043以下	JIS A 1412
曲げ強さ	N/cm^2	15以上	JIS A 7221
圧縮強さ	N/cm^2	5以上	JIS K 7220
吸水量	$g/100cm^2$	1.5以下	JIS A 9511
燃焼性		3秒以内に消火	JIS A 9511

サイレントボイドに関する注意事項

○サイレントボイドは、トップコンクリートとボイド間で発生する振動(固体音)を抑制する商品です。

○矩形ボイドに比較してサイレントボイドは、スプーンを落とす音や壁掛け電話の音等が躯体を通じて下階などへ伝わるエネルギーを小さくします。

○サイレントボイドは、音が聞こえなくなる商品ではありません。矩形ボイドに比較して固体伝搬音の遮音効果を高めたものです。

○上下階などの音は、その発生音が大きいと必ず聞こえます。快適なマンション生活を送るには、居住される方のマナーや音への理解が最も大切です。

総販売元： FAITEC 株式会社 ファテック

販売代理店

フジモリ産業株式会社 www.fujimori.co.jp

本　社：〒141-0022 東京都品川区東五反田2-17-1 オーバルコート大崎マークウエスト TEL.03-5789-2381 FAX.03-5423-5024
大　阪：〒541-0051 大阪市中央区備後町3-4-1 山口玄ビル TEL.06-6228-3863 FAX.06-6228-3875
札　幌：〒060-0061 札幌市中央区南一条西7-12 都市ビル TEL.011-222-4171 FAX.011-221-1370
東　北：〒980-0014 仙台市青葉区本町1-12-12 GMビル TEL.022-263-1591 FAX.022-223-0067
名古屋：〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-37-21 東海ソフトビル TEL.052-571-8231 FAX.052-571-8234
九　州：〒812-0027 福岡市博多区下川端町10-5 博多麹屋番ビル TEL.092-262-8521 FAX.092-262-6750

2005-07.03A-1N

Design Your Energy 夢ある明日を
大阪ガス

ポンと空調、ポンと発電。
空調の枠を超えた
ガスヒーポン。

ヒーポンたぬきでおなじみの、
あのガスヒーポンがさらに進化しました。
冷暖房は、もちろん省エネ・快適・経済的。
さらにエンジンの余力でパワフル発電まで！
空調をすればするほど得するエクセル。
ハイパワーエクセル、登場です。









空調＋パワフル発電

新登場

ハイパワーeエクセル

Highpower EXCEL

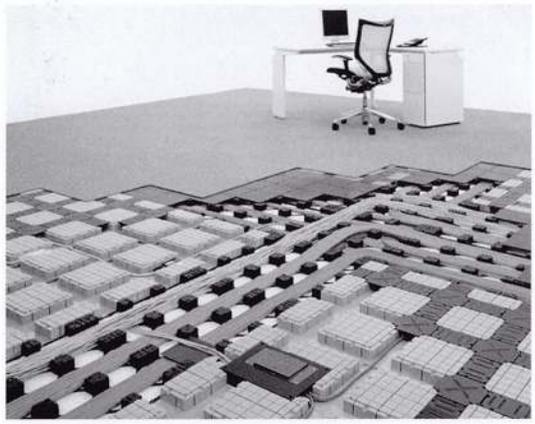
問合せ先：大阪ガス(株)エネルギー開発部 06-6205-4670

人と社会に快適テクノロジー

ネットワークフロア

10年保証

溝配線OAフロアシステム



ネットワークフロアは置敷式超高強度軽量コンクリート製で耐久性に優れ、ガタツキ・キシミ音が全く発生しないOAフロアです。

薄型40㎜ですが他社二重床高さ70㎜製品と同等の配線有効高さを持ち、光ファイバー配線システムに充分対応ができます。
（29mm高の製品もございます）

バスダクト

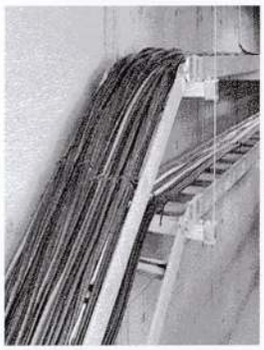
10年保証

シャフトスター

電力幹線システム



ケーブル



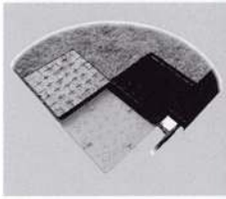
アルミニウムの帯状導体を絶縁物で被覆し、鉄やアルミニウムの箱状のケースに納めた電線に変わる電力配電システムです。
シャフトスターの3大特長は**経済的・軽量・省スペース**という点です。
スリムで軽いので施工がし易く、費用・重量はフラットケーブルの50%削減に成功しました。
（経済比較させて下さい。）

スクエアターフ Light

芝枯れ3年補償

外務省

屋上緑化システム





スクエアターフシリーズは薄型軽量にもかかわらず、保水性が高い雨水貯水型の屋上緑化用ユニット式天然芝です。（低・中木植栽も可能です。）
軽歩行が可能でレイアウト変更にも対応でき、増移設も容易です。
スクエアターフLightは風圧条件に厳しい折板屋根にも施工可能です。

安心と信頼の証

バスダクト

- 発売から49年、国内外に17,800件の実績
- 安心の10年保証付き　ISO9001取得

ネットワークフロア

- 発売から20年、900万㎡、37,000件の実績
- 安心の10年保証付き
- （社）公共建築協会　品質性能評価品
- （社）文教施設協会　推奨品
- JAFA3000N適合品　準不燃材料試験合格

スクエアターフ

- 発売から8年、約70,000㎡の納入実績
- 安心の芝枯れ3年補償付き
- （社）公共建築協会　品質性能評価品

KY-TEC 共同カイテック株式会社

〒530-004 大阪市北区東天満1-11-13

TEL 06-6358-3994（代）　. FAX 06-6358-1510

URL http://www.ky-tec.co.jp

BX
文化シヤッター

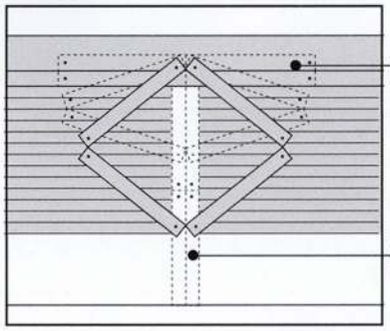
あらゆるニーズに対応する 文化シヤッターの防火防煙シリーズ

都市と暮らしの安全を守るうえでますます重視される防災シャッター。
文化シヤッターは、常に課せられたテーマに真摯に取組み、防災設計と快適空間づくりに新しい提案をしていきます。



ポールレス 防火（防煙）シャッター

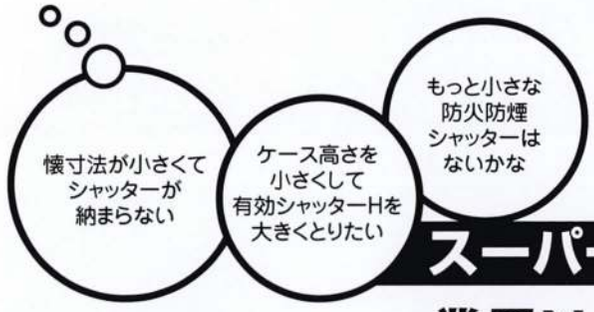
防火（防煙）区画がポールレスのスッキリ空間に!



■新開発の《ポールレスシヤッター》は、固定式であったガイドレール中柱を可動・2つ折り方式で天井内に収納。

■従来の防火（防煙）シャッターではじゃまなガイドレール中柱をなくして、使い勝手のよいスッキリとしたフロアスペースを実現します。





スーパーコンパクト防煙シャッター

業界No.1のコンパクト化を実現!



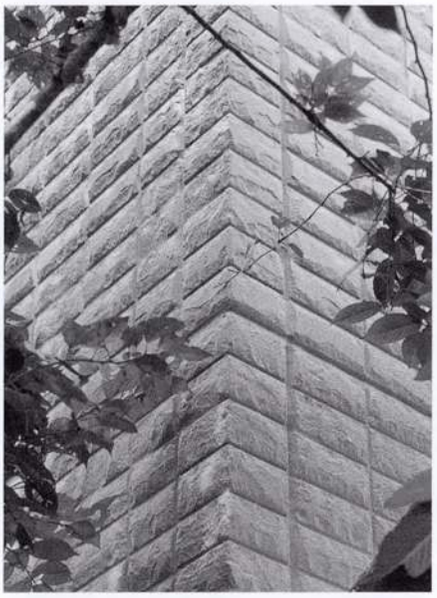
■天井納まりの制約を少なくするため、シャッターケース高さを極力小さくすることをコンセプトに開発。

■ピッチ62mmの新スラット（F-66）を採用し、従来型防煙シャッターの約1/2のケース高さで業界NO.1のコンパクト化を実現。

■はさまれ事故防止のために障害物感知装置（当社独自開発のコードプーリ式）を装備しても、ケース高さ寸法は変わりません。

文化シヤッター株式会社
関西支社 営業推進部 〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 トヤマビル中央館8F TEL.06（6264）0618
URL http://www.bunka-s.co.jp E-mail：kandeve@mail.bunka-s.co.jp

ヘーベル ジーファス



ALC建築にも、ナテュラルな質感を。
「ジーファス」は旭化成独自の
技術で、岩肌調高意匠を成し
遂げた先進の外壁パネルです。
（グッドデザイン賞受賞商品）

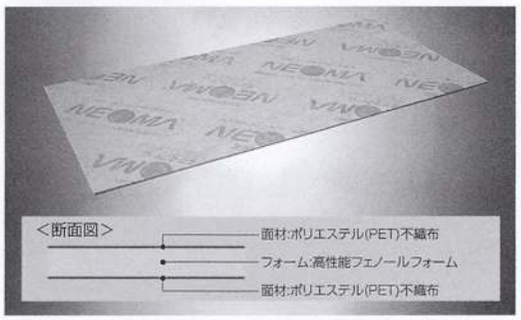
EAZET
スクリューパイル［イーゼット］



人に街に地球に調和する環境
に優しい杭工法

AsahiKASEI

次世代高性能断熱材
NEOMA®
ネオマ®フォーム



ネオマフォーム 4 つの基本性能
①省エネルギー
②安全性
③長期性能維持
④地球環境との共生

旭化成建材株式会社 http://www.asahikasei-kenzai.com/



INAX
セラミックスの可能性を追求。
テラコッタルーバー
設計者の想いに、技術と感性で応える。
株式会社 INAX 関西統括支社 プロジェクト統括営業部
大阪市西区立売堀1-3-13第三富士ビル ☎06-6539-3510

建築文化の創造と環境性向上を目指して

～高い技術力で建物の資産価値向上に貢献～

昭和30年、塗料化学の分野で『無から有を生じる』という思想の下に「四国化学研究所」として発足した当社は、最初の10年間で企業としての土台作りを、その後「四国化研工業株式会社」として建築塗材の一流メーカーを目指し、成長を続けて参りました。そして、平成３年４月、新社名を「エスケー化研株式会社」と発展的に改称し、建築用塗料業界のリーディングカンパニーとしての立場を確立しています。

21世紀は『環境』の世紀。当社はいちはやく建築用塗料の水性化・高機能化を図り、人と環境にやさしい建材の開発を手がけて参りました。そして、オンリーワン・ナンバーワン企業として、今後ますますハイレベルな技術開発力で、国内外の建築文化の創造に貢献し、大きく躍進して参ります。



昭和61年広告



創業から当社も60周年

焦土と化した1947年に誕生した当社は、耐酸被覆鋼鈑にどこよりも早く着目し、独自のノウハウを駆使して様々な分野の要望に応えてきました。

当社製品は法定不燃材の認定を受けているだけでなく、愛媛工場はJIS並びにISO9001の認定を受けています。社会の信頼に応え、多様化するニーズに応えるべく新たな可能性を模索してまいります。

JAB QMS Accreditation R041
TECO ISO9001:2000 QR-00353
愛媛工場認証取得

営業種目

■フッ素樹脂積層被覆鋼板
TOF（タフフロール）不燃NM-8176

■耐酸被覆鋼板
COM（ケミカラーオーシマメタル）不燃NM-9992
RMB（ルーフメタルB）不燃（外装仕上用）NE-9004

■長尺屋根外装材、換気装置
金属製折板屋根構成材（JIS A6514）
ベンチレーター
エアムーバー　モニター

（上）昭和29年３月号





施工例　近畿日本鉄道「学研奈良登美ヶ丘」駅

大島応用化学工業株式会社
代表取締役会長　貞　利　政　和
代表取締役社長　吉　田　　晃
本社　〒535-0001　大阪市旭区太子橋1-15-22
TEL.06(6954)6521　FAX.06(6954)6480
http://www.oshima-ohyo.co.jp
支　店／東　　京　TEL.03(3580)6061
名　古　屋　TEL.052(241)8588
新居浜土木建築　TEL.0897(46)2300
営業所／四日市，岡山，広島，宇部

光あふれる空間を



外装チタンユニットパネル：湊町リバープレイス
施主：大阪市　設計：安井建築設計事務所　施工：鹿島建設JV



キャンバス光天井：大型商業施設 ハービスENT
施主：阪神電気鉄道株式会社　設計：竹中工務店　施工：竹中工務店JV

Space Creator

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 **オクジュー**
http://www.okuju.co.jp

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・南九州・名古屋・上海

暮らしの上質を創り 空間の快適さを確かなものに。

川島織物セルコンは、1888年明治宮殿の室内装飾を謹製、1889年には、和のデザインの独創性を基盤にした「日本式室内装飾」を提案、レース商品の輸入をいち早く手がけるなど、インテリアやインテリアファブリックのデザインの革新を目指す挑戦と研鑽の歴史を重ねてきました。世界のお客様に感動と満足を与える商品・サービスを提供することにより、常に新しい文化を創造、提案し、心豊かな社会の発展に貢献します。



大正15年1月号広告

グラフィックタイルカーペット

時代のキーワード「自然」「環境」と上質なデザインを両立させた4シリーズで新登場致しました。



VOL.1 32色のソリッドカラー
VOL.2 明快でシャープな[線]構成
VOL.3 明快でシャープな[線]構成
VOL.4 陰影をモチーフにした[面]構成

VOL.1 VOL.2は、環境活動に貢献するシリーズです。
ECO LEAF 製品環境情報 No. BQ-06-002

商品のお問合せは、こちらまで
東京営業部/ 03-3294-4644　大阪営業部/ 06-6369-6240
http://www.kawashimaselkon.co.jp

川島織物セルコン
KAWASHIMA SELKON

Kinden

時代のニーズを、確かなフォルムに。



ひとつひとつのピースがしっかりと結びつき
美しい形を完成させる球体組みパズル——。
きんでんも電気をはじめとする様々な技術をピースとして
社会生活の安定を支える
確かな結びつきを創造しています。

これまでも、そしてこれからも
きんでんは地球環境の未来を見据え、
絶え間なく変化する時代の要望に
確かな形でこたえつづけます。



未来のことを はじめています。
きんでん

本　店　大阪市北区本庄東2丁目3番41号
〒531-8550 ☎06-6375-6000
東京本社　東京都千代田区九段南2丁目1番21号
〒102-8628 ☎03-5210-7272
http://www.kinden.co.jp/

クマリフト株式会社
～総合エレベーターメーカーの挑戦～

クマリフトは1965年の設立以来、ダムウェーター・エレベーター・ホームエレベーター・いす式階段昇降機など様々な昇降機の開発・製造・販売・据付・保守メンテナンスまで一貫して自社で行なっている総合昇降機メーカーです。又、日本全国に拠点を持ち、24時間サービス体制でお客様に安心をお届けしています。
設立から今日まで、クマリフトは一貫して「人間尊重」の考え方を貫いてきました。それは、「一人一人の人間を活かすあたたかい社会づくり」・「ゆたかな人間社会の創造」を、私たちの企業理念とするからです。
この理念を表現するクマリフトの全ての製品には必ず、使う人の気持ちを考えた独自の発想と温かい技術が活かされています。
「ひとつひとつの製品にまごころを込めて…」。
この言葉を信念にクマリフトはこれからも、お客様に心から喜んでいただける価値ある製品・サービスの創造に全力を尽くします。



昭和48年２月号広告



木繊セメント板（モクセン$_{R}$板）

◎ 全国森林組合間伐材有効利用に貢献しその間伐材認定マーク取得　Ｋ０２１０７３
◎ グリーン購入法の特定調達品目登録品
◎ 国土交通省新技術活用システムに登録　ＫＫ－９９０００８

商品名
不燃材／　モクセンＮ（ＮＭ－１１４７）型枠兼用
準不燃／　ストロングボードＫ（ＱＭ－９０３８）型枠兼用・モクセンＺ（ＱＭ－９０５６）
耐火野地／ストロングボード耐火３０・片平板（ＦＰ０３０ＲＦ）

神戸不燃板工業株式会社

ＩＳＯ９００１：２０００　本社認証

〒673-0515　兵庫県三木市志染町三津田３７１
ＴＥＬ：０７９４－８７－３１２１
ＦＡＸ：０７９４－８７－３１２３

CP 2004

鍵違い
1,000兆2,800億通りの防犯力。

GOAL®
SINCE 1914





ディンプルキー・GV24リバーシブルピンシリンダー

グランブイ
GRAND V シリンダー

キーチェンジが何回でもできる
ユニバーサル・キーシステム(UKS)を新搭載。

ユニバーサル・キーシステム(UKS)は、ピッキングなどの不正解錠に強いグランブイ(GV)シリンダーに、グループ内の住戸キーを任意に選択してセットすることができ、何回でも住戸キーを交換することができるのが最大の特長。転出入の多いアパートやマンション管理に最適のキー交換システムです。

株式会社ゴール

URL… http://www.goal-lock.com

本　社：〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2-16-6
☎(06)6309-1271(代)　FAX(06)6302-0561

東京支店：☎(03)3452-6341(代)　大阪支店：☎(06)6308-5441(代)　富山支店：☎(076)434-3971
営 業 所：札幌・仙台・名古屋・広島・高松・福岡

ボンド
KONISHI

生命（いのち）を守る3時間の壁―。

耐火構造用シーリング材 2成分形変成シリコーン系

ボンド FRシール

弾性シーリング材で初めて
建築基準法施行令第107条第1号
柱・はりの3時間耐火構造の認定取得

認定番号　柱 3時間耐火 FP180CN-9052　はり 3時間耐火 FP180BM-9036

- 耐火構造物の目地に適用できます。
- 遮音性に優れています。
- 専用プライマーの使用により、各種被着体に強固に接着します。
- JIS A 5758のクラスはF-25LMを取得しています。
  （耐久性区分は9030に合格）
- 硬化による体積収縮がほとんどありません。
- 施工気温に適した作業性と硬化性を備えています。

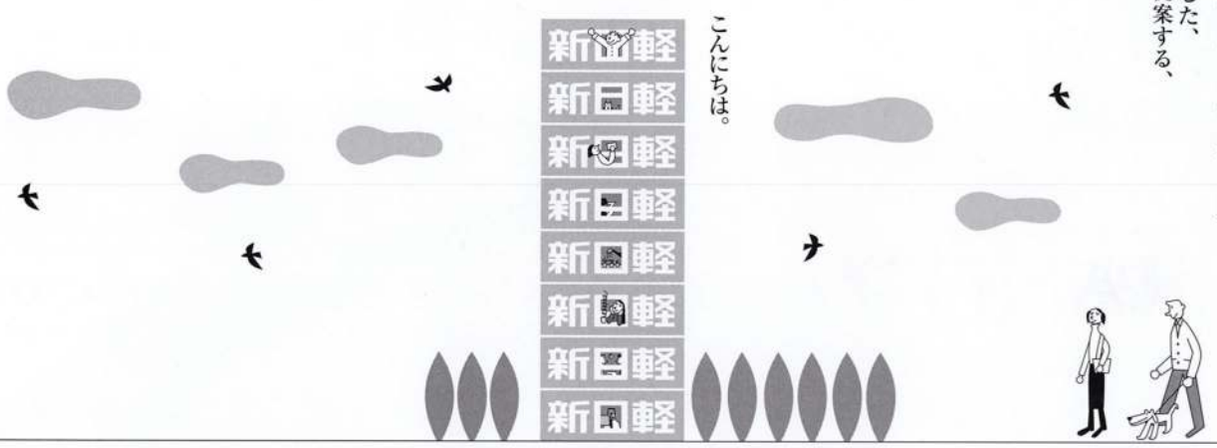


コニシ株式会社　ホームページアドレス http://www.bond.co.jp/

大阪本社／大阪市中央区平野町2-1-2（沢の鶴ビル）〒541-0046　TEL.06（6228）2961　FAX.06（6228）2927
東京本社／東京都千代田区神田錦町2-3（竹橋スクエア）〒101-0054　TEL.03（5259）5737　FAX.03（5259）2144

21世紀―愛されるモノを創り続けます。

どんな時代もモノ作りは、
コミュニケーションから生まれるものと考えます。
使う人の心を大切にした、
都市空間の未来をご提案する、
私たちは新日軽です。



人と社会の間に。

SHINNIKKEI
新日軽

新日軽株式会社
ビル建材事業本部 開発営業統括部 TEL.06-6390-1351
●http://www.shinnikkei.co.jp



タイルカーペット

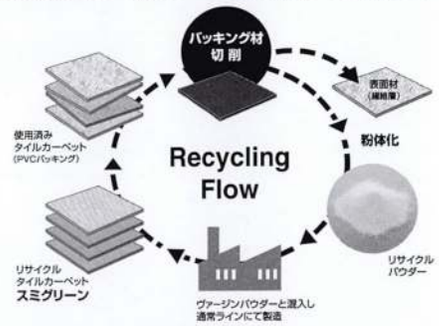
スミグリーン SG-300 ¥8,400/㎡（税別）

組成 ポリエステル（スミトロン）100%　パイル長 4.5～2.5mm（±0.5mm）
全厚 7mm（±0.5mm）　バッキング 特殊PVC（リサイクルバッキング）

SG-300の特長

- 再生材料（ポストコンシューマー材）は、製品全体重量比25%。グリーン購入法特定調達物品の基準（10%）を上回る高い比率で使用しています。
- LCA（ライフサイクルアセスメント）による定量的環境評価成果報告では、1㎡あたり、約1.17kgのCO_2を削減し、2012年の京都議定書の目標数値をクリアーするマイナス19.0%を実現します。
- 全厚・製品重量は従来品（ヴァージン材料で製造したもの）と変わりません。
- 従来の製品と比べ加工過程がぐんと少ない、再生資源化のための省エネ製法を採用しています。

使用済みタイルカーペットのリサイクルフロー



株式会社スミノエ

■西日本開発部／〒550-0013 大阪市西区新町2-4-2 なにわ筋SIAビル1F
TEL. 06-6537-6317

■東日本開発部／〒141-0031 東京都品川区西五反田2-30-4 BR五反田ビル4F
TEL. 03-5434-2928



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

— 光と空気と水を生かす —
ダイダン

http://www.daidan.co.jp/



あしたを、ちがう「まいにち」に。
TOTO

便器のフチと一緒に
サッと拭くだけ
「フチなしウォシュレット
&フチなし形状(便器)」



四隅にスイッチ、
広い操作範囲
「フラットリモコン」
※スティックリモコンもご用意しています。



「オート開閉・オート便器洗浄」
自動で便ふたの開閉、便器の洗浄。腰を曲げる、身体をひねるなどの無理な動作をなくし、楽にトイレが使えるようになります。

「節水・6リットル」
便器洗浄水量を8Lから6Lへ。さらに男子小用時(立ち姿勢)のオート便器洗浄水量を4.5L※1に。※1 男子小用時(立ち姿勢)のオート便器洗浄のみ。

WASHLET®
NEOREST

大阪支社／〒541-0056 大阪市中央区久太郎町3-6-8 御堂筋ダイワビル ☎(06)6253-5666
ホームページ専門家コーナー www.com-et.com

水まわりからCO2を減らそう。
チーム・マイナス6%

まいにちにユニバーサルデザインを TOTO



「安全性が高く、清潔で長持ちであること。」
これからの高齢化社会のニーズにマッチした、
東リの複合ビニル床シート「SFフロア」。
安全で安心な暮らしを足もとから支えます。



5柄全76アイテム
医療施設・福祉施設から
文教・公共施設まで

シート裏面の発泡層が、高い衝撃吸収性を発揮
抗菌性、耐久性に優れた安全で清潔なビニル床材
東リ複合ビニル床シート
New SFフロア

●厚みのある発泡層の優れた衝撃吸収性により、転倒時などの安全性を高めます。
●抗菌加工により、いつも足もとを清潔に保ちます。
●耐久性が高く、幅広い用途にご利用いただけます。
●柔軟性があり、巻上げ施工等にも対応しやすくなりました。
●立上げ部へは「東リワイド巾木」を、腰壁部には「東リニュー腰壁シート」を併用いただけます。

■全5柄76アイテム
■価格：4,850円／m² 8,830円／m(材料価格 税抜き価格)
■規格：幅1820mm×長さ9m 厚み2.8mm

※右に掲載の写真はイメージです。SFフロアは屋内用の床材です。

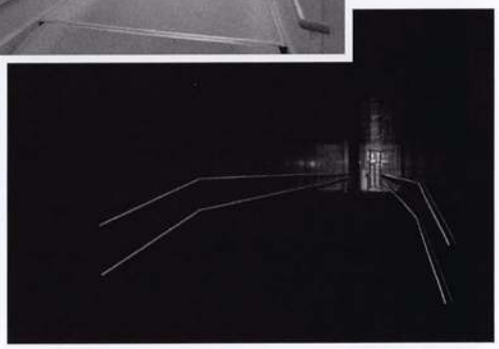
東リ株式会社
http://www.toli.co.jp
●東日本営業開発部 TEL.03(5403)2067
●西日本営業開発部 TEL.06(6943)1645
●札幌ショールーム TEL.011(214)8313
●東京ショールーム TEL.03(5421)3711
●名古屋ショールーム TEL.052(745)1691
●大阪ショールーム TEL.06(6943)1649

地震で停電したら・・・

ご安心下さい。
蓄光タイプバリアフリー製品なら
安全でスムーズな避難を可能にします。
消灯時や停電などの突然の暗闇にも
頼れる光を提供します。



災害時の安全な避難
／関西国際空港



ナカ工業株式会社 大阪支店
〒532-0027 大阪市淀川区田川 3-9-36
TEL (06) 6886-8966　FAX (06) 6886-8960

本　社	TEL (03) 5437-3971	FAX (03) 5437-3723	名古屋支店	TEL (052) 709-7771	FAX (052) 709-7707
札幌支店	TEL (011) 662-7611	FAX (011) 666-1350	広島支店	TEL (082) 527-1020	FAX (082) 527-1021
東北支店	TEL (022) 239-2511	FAX (022) 239-2522	福岡支店	TEL (092) 452-8611	FAX (092) 452-8600
北関東支店	TEL (048) 933-5710	FAX (048) 936-3310	香港支店	TEL 852-25668018	FAX 852-25128278
横浜支店	TEL (045) 988-1801	FAX (045) 988-1901	上海事務所	TEL 86-21-64437239	FAX 86-21-64430237



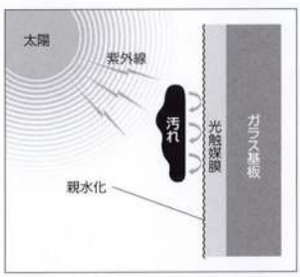
中部国際空港（愛知）設計／日建・梓・HOK・アラップ中部国際空港旅客ターミナルビル設計監理共同企業体

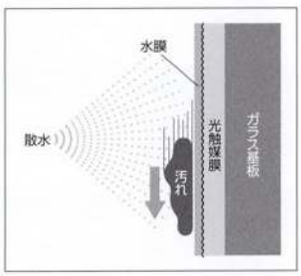
光触媒クリーニング。ガラスの新しい常識です。

■透明な美しさを保ち、建築物の美観を維持します。
クリアテクトは、新たに開発した光触媒コーティング材をガラスに焼き付け、その光触媒活性により汚れの分解・浄化を繰り返しガラスの美しさを保ちます。

■光触媒膜の耐久性に優れています。
高度に管理された製造工程で焼付け加工された光触媒膜は、ガラスと強固に一体化し、耐久性に優れています。

■清掃コストを大幅に削減することが出来ます。
従来の清掃回数を大幅に減らすことが可能です。従って、清掃の管理工数や清掃費用そのものの削減が可能となります。





光触媒クリーニングガラス
クリアテクト®

日本板硝子株式会社　http://architectural-glass.jp
札 幌 011-377-2860　仙 台 022-359-8665　東 京 03-5443-0132　名古屋 052-238-1391
大 阪 06-6222-7534　広 島 082-263-3571　福 岡 092-451-5594

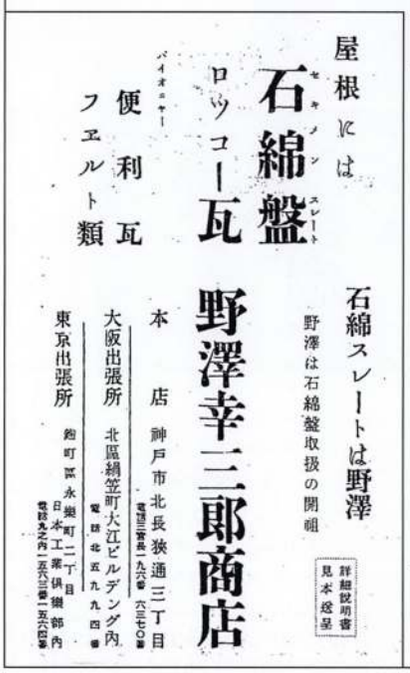
「やすらぎと安心の創造」

創業百十周年

弊社は、平成19年8月に創業110年を迎えます。これもひとえに皆様のおかげと感謝し、改めて御礼申し上げます。

歴史をたどれば、初代社長が明治30年に野澤幸三郎商店を構えたのが始まりですが、明治39年に旧神戸居留地で外国産スレート板を発見して輸入を開始し、大正2年に製造業へ転換を図って以来、セメント建材一筋に歩んでまいりました。大正13年には、当時の建材を『建築と社会』に広告掲載（左下）させていただきました。

これまで、地震・台風などの災害が多い日本で、常に人々の生命・財産・安全を守ることを第一に、「いつも新しいこと」を探し求めて技術革新に邁進してまいりました。今後も、知恵と努力で人々の明るい笑顔・楽しい思い出を守り、社会貢献していく所存です。



弾性接着剤張りアスロックタイルパネル（ATP）新発売

概要

アスロックタイルパネル（略称：ATP）は、ポリマーセメントモルタルでタイルを張り付けていましたが、建設省官民連帯共同研究報告の「有機質接着剤を利用した外装タイル・石張りシステムの開発」に基づき、外装タイル張り用の有機系接着剤の品質基準がJIS化されたことから、この基準を満たす接着剤でフラットパネルへの接着試験を重ね、弾性接着剤張りのATPを商品化しました。

特長

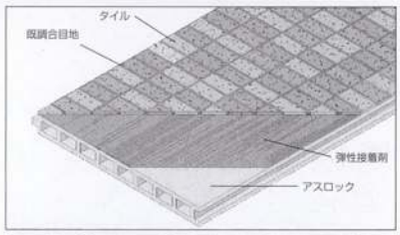
従来モルタル張り
反り 2L/1,000mm
最大寸法 4,000mm

↓

弾性接着剤張り
反り L/1,000mm
最大寸法 5,000mm

- 反りが従来の1/2
- パネル長さ最大5mまで対応可能
- 価格はモルタル張りと同様
- 剥離・剥落について10年間瑕疵担保責任保証


ATP−3





やすらぎと安心の創造

商品技術グループ ☎03-5540-6511

札幌支店 ☎011-261-8291 仙台支店 ☎022-225-7986 東京支店 ☎03-5540-6711 名古屋支店 ☎052-541-5700
関西支店 ☎078-391-1651 広島支店 ☎082-245-3257 九州支店 ☎092-474-0868 本 社 ☎078-333-4111

〒650-0035 神戸市中央区浪花町15番地 http://www.nozawa-kobe.co.jp

株式会社ノザワ
NOZAWA CORPORATION

もっと、理想の住まいへ。

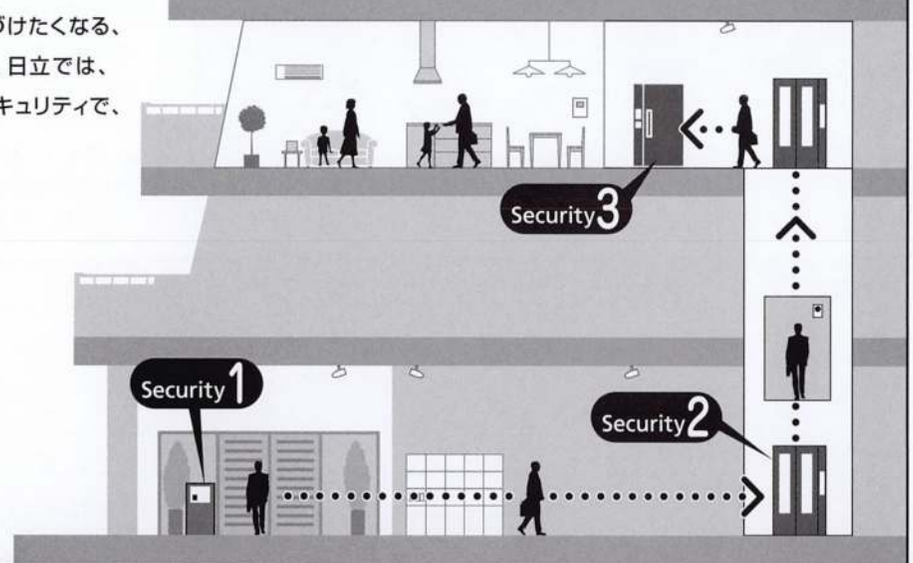
HITACHI
Inspire the Next

誰もが住みたくなる、そしていつまでも住みつづけたくなる、そんな理想のマンションをご提供するために。日立では、集合玄関から住戸玄関まで、2重・3重に守るセキュリティで、暮らしの“安心・快適・便利”を追求しています。

エントランスでは Security1
ICカード・非接触キーをリーダーにかざすだけでお住まいの方を認証。自動ドアを解錠します。

エレベーターでは Security2
自動ドア解錠にあわせ、エレベーターがお出迎え。ここでも同じICカード・非接触キーで認証します。

住戸玄関では Security3
玄関の施錠・解錠もICカードをかざすだけ。



net@ITEM

日立ITマンションシステム ネット・アット・アイテム

http://www.hitachi.co.jp/urban/

株式会社 日立製作所

お問い合わせは＝都市開発システムグループ TEL(03)3620-1040 <カスタマー・サポートセンター> または
関西支社 〒530-0004 大阪市北区堂島浜二丁目2番28号 堂島アクシスビル TEL(06)4796-4111(代)

Think Next Security

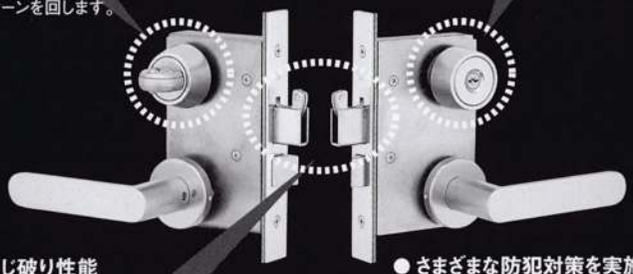
MIWA

日本の安心を守りたい。

鎌デッドレバーハンドル錠「LVFシリーズ」

● スイッチ式サムターン
使いやすさと防犯性を兼ね備えたサムターン。上下にあるスイッチを押し込んだ状態でサムターンを回します。

● 耐ピッキング性能
3種類のシリンダーをご用意。すべて10分以上の高い耐ピッキング性能があります。



● 耐こじ破り性能
鎌デッドや強化されたデッドボルトにより、耐こじ破り性能を強化。バール攻撃などに対して強い抵抗力を発揮します。

● さまざまな防犯対策を実施
バイパス解錠対策やシリンダーもぎ取り対策を施し、耐ドリリング性能、耐鍵穴壊し性能なども強化しました。

官民合同会議試験合格品には、この統一マークが使用されます。

美和ロックは、多様化する侵入犯罪にいち早く対応。業界のリーダーとして、官民合同会議試験をクリアした「防犯建物部品」を豊富にご用意しました。ドリル攻撃をはじめとしたさまざまな犯罪手口に対し、すぐれた侵入抵抗を備えたハイセキュリティ製品が、お客様の生命と財産を守ります。

美和ロック株式会社 大阪支店 〒536-0023 大阪市城東区東中浜5-7-35 TEL:06-6962-5551

防犯建物部品の詳細は、ホームページをご参照ください。 **http://www.miwa-lock.co.jp/**

日本の近代建築史とともに際立つ技術・際立つ美しさ

SINCE 1901

YABASHI

矢橋大理石株式会社

□本　　社	岐阜県大垣市赤坂町273	TEL.0584-71-1211
□東京支店	東京都千代田区丸ノ内3-2-3富士ビル地下1階127号室	TEL.03-3214-3561
□大阪支店	大阪市中央区高麗橋2-2-7東栄ビル2階	TEL.06-6202-4905
□名古屋支店	名古屋市中村区椿町17-15ユース丸悦ビル2階	TEL.052-453-1181
□福岡営業所	福岡市中央区天神4-1-7第3明星ビル5階	TEL.092-721-0384
□大阪支店 広島出張所	広島市東区若草町3-24和光若草レジデンス2F203号	TEL.082-568-1740
□中国事務所	厦門市開元区湖濱北路275号　錦綉広場801号室	TEL.592-5332430
□イタリア事務所	20, VIA GENOVA MARINA DI CARRARA ITALY	TEL.0585-774798

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

OKUJU
Space Creator
クオリティ＆コストパフォーマンス
ALTsシステム
スナップ工法
SP-600
メタルシステム天井
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・南九州・名古屋・上海

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工
ダイダン株式会社
本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

www.naniwa.com
We have hope
■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作。
株式会社NPCコーポレーション
本　社 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代) fax:(06)6352-7479
第二ビル 〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代) fax:(06)6351-0208
東京支社 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-2
tel:(03)3433-5211(代) fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

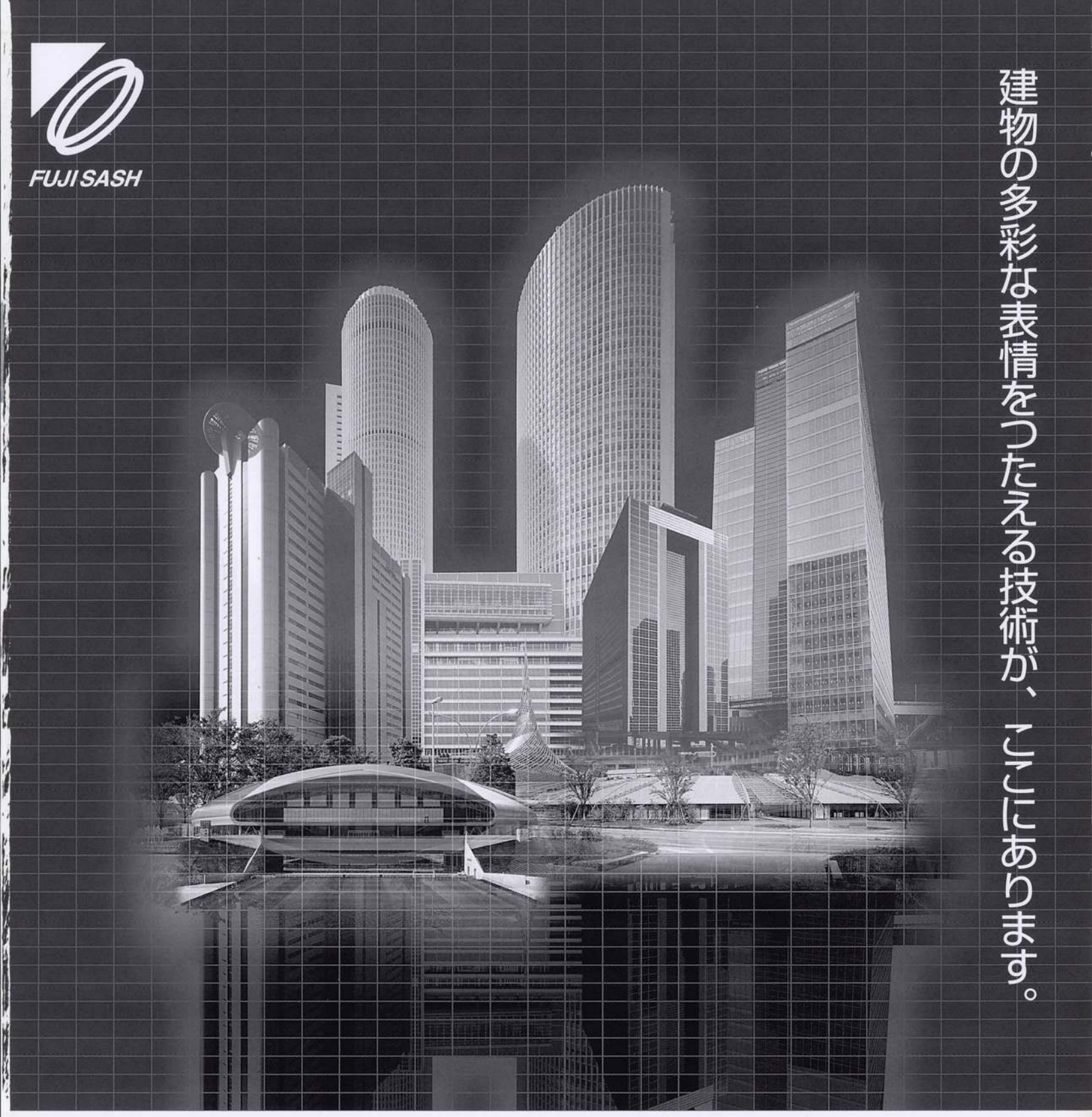
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL　　大阪（06）6877－1581

FUJI SASH



建物の多彩な表情をつたえる技術が、ここにあります。

アルミニウム、コンクリート、ガラス、石、タイル…。さまざまな素材の競演が生み出す多彩な表情と色彩の微妙なコントラストが、ビルの外壁を彩り、都市の空間を豊かに演出します。不二サッシは、建築外装の総合メーカーとして、このようなデザインを支えるためのさまざまな技術開発やディテールへのこだわりを通して、快適な都市景観の創造に貢献します。

不二サッシ株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎5-6-2（都五反田ビル） TEL.03-5745-1253
http://www.fujisash.co.jp/
大阪支店　大阪市中央区淡路町3-5-13 TEL.06-4706-4134
鹿児島営業所 鹿児島市卸本町4-4 TEL.099-269-2234

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

建築と社会　2007.04　Vol.88 No.1021　社団法人 日本建築協会　〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 電話：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984 http://www.aaj.or.jp
毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182　定価1,200円（税込）
正会員の講読料は会費に含まれる



岸和田市立浪切ホール

Sanken ENGINEERING
舞台機構設備
株式会社 サンケン・エンジニアリング

〒532-0011 大阪市淀川区西中島５丁目１３番１２号
TEL（06）6390-8531　FAX（06）6390-8505

営業種目

舞台機構設備
可動天井・床昇降設備
遮光吸音装置
残響可変装置
舞台照明設備
音響設備
A・Vシステム
映写設備
産業廃棄物処理装置

東京本店　〒103-0023　東京都中央区日本橋本町４丁目１３番１０号
TEL（０３）５６４９-３４５６
FAX（０３）５６４９-３４５１

本社　〒815-0082　福岡市南区大楠２丁目１３番７号
TEL（０９２）５２２-６８１１
FAX（０９２）５３１-５６４５

仙台営業所　〒981-0924　仙台市青葉区双葉ヶ丘１丁目２２番５号
TEL（０２２）７２８-９４３３
FAX（０２２）７１８-２４９５

沖縄営業所　〒900-0036　沖縄県那覇市西２丁目７番１号３０３
TEL（０９８）８６８-８６５４
FAX（０９８）８６８-８６７７

技術センター　〒811-2413　福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲七苫５０１番１
TEL（０９２）９５７-４３８０
FAX（０９２）９４７-１３７９